

尾道市立大学

	表-2	目次
	表-2 (裏)	キャンパスマップ
Onomichi City University	P-001-007	尾道市立大学概要
	P-001	大学理念
	P-002	学長挨拶
	P-003	副学長挨拶
	P-004	目標、アドミッション・ポリシー、組織図
	P-005	入試データ
	P-006-007	カリキュラム
Campus Life	P-008-015	キャンパスライフ
	P-009	バックアップ体制
	P-010-012	キャンパスライフ
	P-013	学生食堂、コンビニ、画材店
	P-014-015	クラブ、サークル活動
Economics, Management & Information Science	P-016-043	経済情報学部・経済情報学科
	P-018	学部長挨拶
	P-019	アドミッション・ポリシー
	P-020-021	学科紹介
	P-022-025	経済コース
	P-026-030	経営コース
	P-031	高度資格取得者インタビュー
	P-032-035	情報コース
	P-036-037	卒業論文
	P-038-039	卒業生の声
	P-040-043	地域連携、地域貢献
Japanese Literature	P-044-071	芸術文化学部・日本文学科
	P-046	学部長挨拶
	P-047	アドミッション・ポリシー
	P-048-049	授業の現場から
	P-050-051	日本文学科を考えているあなたへ
	P-052-053	文芸創作
	P-054-063	研究分野紹介
	P-064-065	おのみち文化スタディ、フィールドワーク
	P-066	尾道文学談話会
	P-067	研究会活動
	P-068-069	おのみち文学三昧、日本文学会
	P-070	卒業論文完成までの道のり
	P-071	卒業論文・卒業制作題目一覧
Art & Design	P-072-109	芸術文化学部・美術学科
	P-074	学部長挨拶
	P-075	アドミッション・ポリシー
	P-076-077	工房、設備
	P-078-083	日本画コース
	P-084-089	油画コース
	P-090-095	デザインコース
	P-096-105	美術学科教員一覧
	P-106-107	卒業制作
	P-108-109	卒業生の声
University Museum	P-110-132	各種施設
Community Collaboration & Outreach Office	P-112-113	尾道市立大学美術館
University Library	P-114-115	地域総合センター
Information Technology Services	P-116-117	尾道市立大学附属図書館
Teacher Education Center	P-118	情報処理研究センター
International Office	P-119	教職支援センター
Health Support Room & Student Counseling Room	P-120-123	国際交流センター
Career & Employability Services	P-124-125	医務室、学生相談室
	P-126-129	キャリアサポートセンター
	P-130-131	就職活動体験記
	P-132	大学院 研究科
	表-3 (裏)	尾道市立大学周辺マップ
	表-3	尾道市立大学の沿革

尾道市立大学

Campus map

オヤマのカフェ(学生会館内)

栄養バランスの整った定食から、おしゃれなカフェメニューまで！スイーツもあるので休憩にもぴったり。安くておいしい学生の味方です。

工房・クラブ棟

金工・木工・塗装・陶芸・写真・版画・CGなど、さまざまな専門の工房があります。また、体育館やグラウンド、クラブ棟などサークル活動で利用できる場所も豊富にあり、のびのびと活動ができます。

E棟・D棟・C棟

学生の学びの場。E棟は教室のほかに事務室や医務室、C棟はキャリアサポートセンターや情報処理研究センターがあり、学生生活をサポート。D棟では日々美術学科の制作が行われています。

翠明館

尾大生憩いの場所。1階はコンビニや画材屋さん、ラウンジが入っています。シャワー室もあるので、サークルで運動した後も安心です。2階にはPCと印刷機完備の自習室があります。学生証があれば夜10時まで利用できます。

ニューヤマザキデイリーストア

お昼ごはんやおやつ、文房具やギフトカードまで幅広く扱っています。

ウエダ画房

美術学科は必ずお世話になる画材屋さん。油画・日本画・デザインの制作に必要な画材が揃っています。

陶芸
実習室

第1体育館

2F 第1クラブ棟
1F 金工実習室

学生
会館

中門

裏門

2F 情報処理研究センター
1F キャリアサポートセンター

E棟

D棟

C棟

翠明館

木工
機械室

2F 塗装実習室
1F 木工実習室

附属図書館

1F
事務室
医務室

正門

バス停

第1グラウンド

書庫

尾道市立大学の理念

「知と美」の探究と創造

尾道市は、古くから瀬戸内の要衝として経済的な発展を遂げるなかで、美しい風光を背にすぐれた芸術文化を生み出し継承してきました。このような尾道の地の特性を生かして設立された尾道市立大学は、経済情報学部と芸術文化学部の2学部をもち、芸術文化学部には日本文学科と美術学科の2学科をおく公立大学です。

尾道市立大学は、このような学部・学科構成の特徴を生かしつつ、人と情報が集まって「知と美」を探究する場、そのなかで新たな「知と美」を創造しその成果を社会に発信する場、そして学問と人間的触れ合いを通じて有為な人材を育成する場となることによって、学術・文化の向上と社会の発展に貢献します。



学長
荒井 貴史

尾道市立大学は、瀬戸内の十字路として交通の要衝である尾道市に立地して、これまで地域と共に発展して、特長・特色ある教育を実践して参りました。それは、先人達が努力して築いてきた尾道という地域での高等教育機関としての歴史と伝統を基盤としております。本学は、最高学府として社会からの負託に応えつつ、本学の理念である「知と美」の探究と創造によりさらに学問領域を発展させるとともに、その成果を学生教育に展開して次世代に伝達しております。また、公開講座等により地域社会にも還元しております。

本学は、経済情報学部経済情報学科、芸術文化学部日本文学科、芸術文化学部美術学科の2学部3学科と大学院の経済情報研究科、日本文学研究科、美術研究科の3研究科からなる規模としては小さな公立大学ですが、中国・四国地域を中心としながら、全国各地から本学で学びたい(尾道で学びたい)学生が集まっております。そうした意欲ある学生たちは、各教育課程で学修者本位の教育を通して専門分野の所定単位数を修得することで、学問の研鑽を積んでいきます。そして、本学のディプロマ・ポリシー(DP)で示している以下の3つの学修成果を達成して、企業や地域から求められる有為な人材として社会に羽ばたいていきます。

(知識・技能)

DP1: 幅広い教養と専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

(思考力・判断力・表現力)

DP2: 専門的知識・技能を活用した思考を通して、課題の発見や解決、表現の探究に取り組むことができる。

(主体性)

DP3: 豊かな人間性と幅広い視野をもち、主体的に問題解決や社会における実践に取り組むことができる。

優秀な学生を社会に多く送り出すことは、公立大学である本学のミッションであることは言うまでもありません。さらに、尾道の地域で学んだ卒業生・修了生が、それを国際社会や地域での活動で「強み」に出来るように、すなわち「尾道での学びを誇れる大学」となるように努力しております。そして、地域の皆様、関係諸機関の皆様のご協力とご支援を賜りながら、公立大学として本来のミッションを遂行するとともに、「地域と共に育つ大学」でありたいと思います。



副学長
有吉 勇介

変化する社会で活躍する力を育む学びの場へ

本学は、変化の激しい現代社会で活躍できる人材を育成する大学です。地球環境問題や人口減少、AIによる急速な社会変化など、私たちが直面する課題には「まだ正解が見つかっていない問い」や「正解のない問い」が数多くあります。企業活動においても、市場に受け入れられる商品を予測することは困難です。これからの時代に求められるのは、自ら問いを立て、他者と協働しながら創造的に解決策を見つけ出す力です。

高校までは、答えのある問題を速く正確に解く力が重視されてきました。しかし大学では、「なぜそうなるのか」「他の考え方はないか」と自ら問いを立て、議論し、試行錯誤を重ねながら答えを導き出す姿勢が大切になります。この経験こそが、社会で必要な課題解決力の基礎となります。

本学では、主に下級生の間は各分野の基礎をしっかり学び、上級生になってからは少人数ゼミで専門を深めます。自分の関心に基づいてテーマを設定し、調査・分析を経て卒業論文や卒業作品にまとめます。その過程で、実社会の課題と向き合う実践的な学びを行います。異なる専門をもつ教員から直接学び、多様な仲間と議論することで、新しい発想と深い思考力が身につきます。

大学での学びは、知識を蓄積するだけでなく「深く考える力」を育てることにあります。受け身ではなく、主体的に学びに向かう皆さんとの出会いを心待ちにしています。本学での学びを通じて、未来を切り拓く確かな力を身につけ、自信をもって社会で活躍してください。



副学長
中村 謙

尾道は瀬戸内の要衝として歴史的に経済発展し、優れた文化を生み出してきました。何と言っても景観は素晴らしく美しい街だと思えます。そんな街にあるコンパクトな大学で何を学びたいと入学されて来たでしょうか。大学ホームページの情報やオープンキャンパス参加により、漠然とイメージを持っている方もいるでしょう。

本学には、地域と連携した授業や活動がたくさんあります。商店街との連携企画や市民講座、街の散策から歴史や文化を学ぶプログラム。また地域企業とのコラボレーションにより活性化を促す地域プレゼンテーション課題など、尾道の魅力を活かした学びの機会が豊富です。このような学びは地域理解を深め実践的なスキルを磨き、将来のキャリアに大きく役立てることができるでしょう。

また、本学はアットホームな雰囲気があるため教員と学生間の距離も近く、細かく丁寧な指導が受けられます。教員同志の連携も良好で、時には他コースや他学科の先生のアドバイスを受けることもできます。

そんな本学の環境を生かして積極的に様々な活動に取り組んでもらえれば、後に振り返った時にはきっと貴重な経験になると思います。仲間と学業の上では切磋琢磨し、またそれ以外でも盛んに交流を持ちながら、楽しく有意義な学生生活を送っていただきたいと願っています。

<教育：培う尾道市立大学>

尾道市立大学は、専門分野における確かな知識と能力、そして豊かな教養と広い視野をもち、地域社会および国際社会に貢献し得る人材を育成します。このため、本学の特色である少人数教育の利点を生かしつつ、「教学半」(教えるは学ぶの半ば)の精神のもと、教員と学生が人間の触れ合いのなかで共に学び、「知と美」に対する強い好奇心と探究心、しっかりした基礎学力と高い専門能力、そして豊かな人間性を培う教育を実践します。

<研究：拓く尾道市立大学>

尾道市立大学は、実り豊かな教育には不断の研究とそれによって培われた基盤が必要であるとの考え方にもとづいて、新しい「知と美」の地平を切り拓く独創的な研究を目指します。

このため、すべての構成員が対等の立場で相互に協調し啓発し合い、異分野間の協働および外部組織との連携を積極的に進めながら、「知と美」の創造へ向けた学術研究を実践します。

<社会貢献：活かす尾道市立大学>

尾道市立大学は、教育と研究を通して培い拓いた「知と美」の成果を絶えず外部に発信することによって、それらが社会に活かされることを目指し、社会からの信頼と期待に応えていきます。

このため、地域社会との連携を図りつつ、世界的視野をもって教育研究に取り組み、有為な人材を社会に送り出すとともに独創的な研究成果を国内外に向けて発信します。また、国際交流や留学生教育などにより、大学の国際化を積極的に推進します。

入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

教育の理念・目的と求める学生像

尾道市立大学の教育は、専門の学芸と幅広い教養を身につけ、知的能力および豊かな人間性を発揮できる人材を育成すること、また、地域社会との連携・交流を重視し、広く地域に開かれた大学として芸術文化の向上と産業の活性化に貢献できる人材を養成することを目的としています。

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けることのできる者として、次のような人の入学を受け入れます。

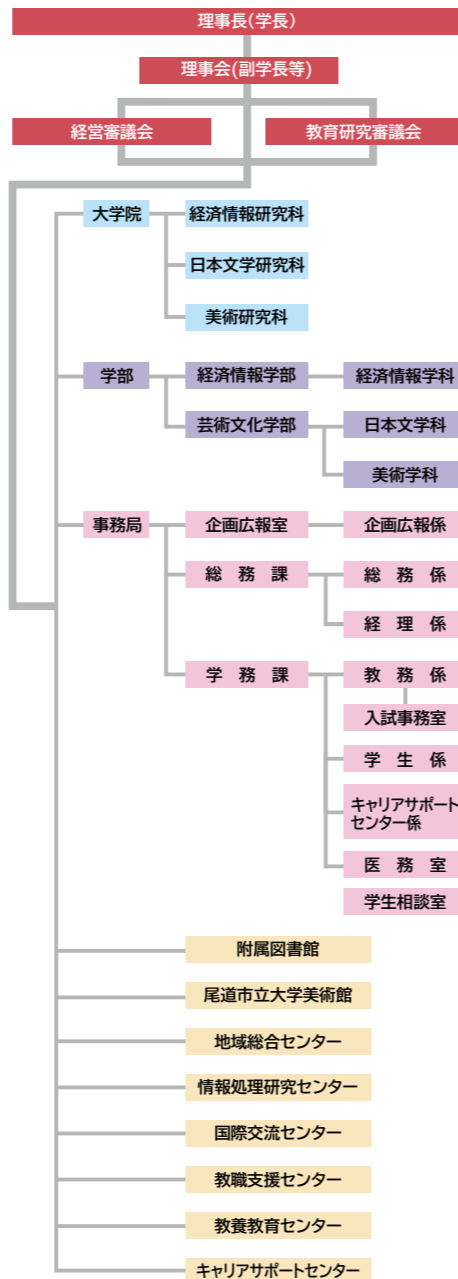
[知識・技能] [思考力・判断力・表現力]

- ・学問や芸術を学ぶことを通じて、豊かな心と幅広い視野を持ちたいと願う人
- ・知と美に対する探究心と創造意欲のある人
- ・専門的知識・技能を身につけ、地域社会や国際社会に貢献したい人

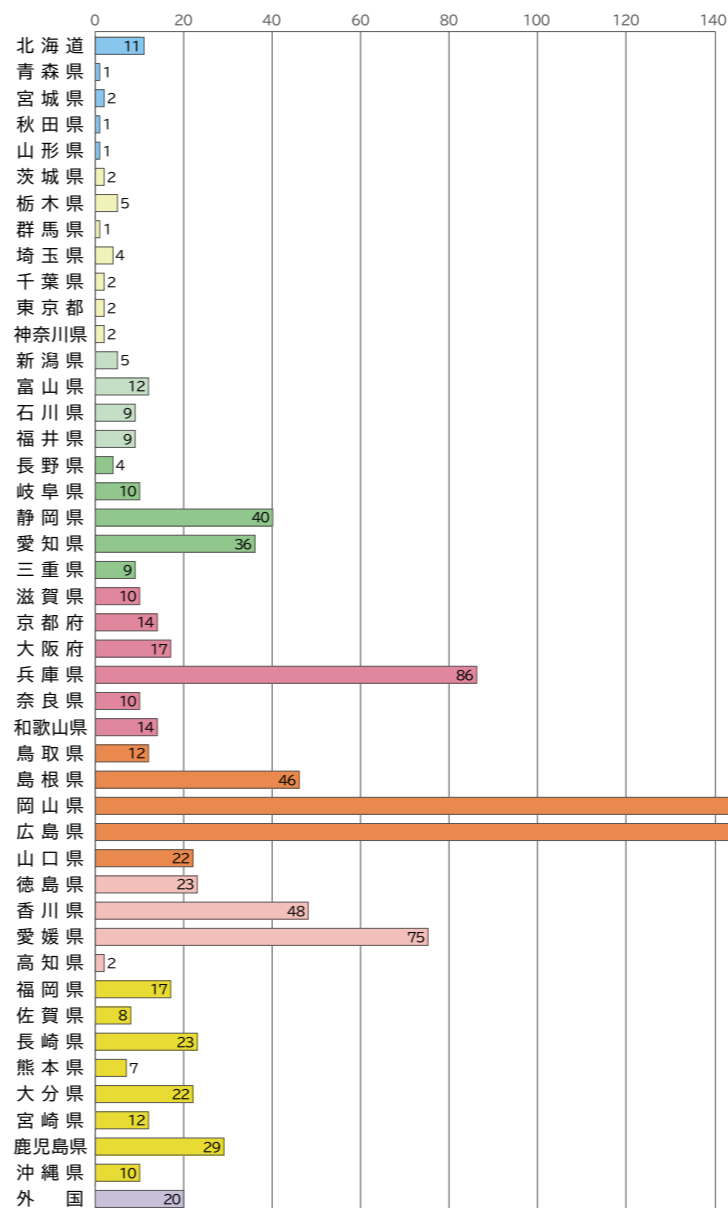
[主体性・多様性・協働性]

- ・何事にも好奇心をもって積極的に挑戦し、自己の目標に向かって不断の努力をする人
- ・主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ人

各学部・学科では、これらに関連する入学前の能力や適性について、それぞれのディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーをふまえ、多面的・総合的に評価し、入学者の選抜を行います。



出身地別在籍者数(学部生) 在籍者数 学部生 1,355人



2026年度尾道市立大学入学試験結果

学部					
●学校推薦型選抜					
学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済情報学部	経済情報学科	70	126	125	70
芸術文化学部	日本文学科	15	43	43	15
	美術学科	12	67	67	12
計		97	236	235	97

●一般選抜 前期日程

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済情報学部	経済情報学科	100	258	238	136
芸術文化学部	日本文学科	30	100	93	37
	美術学科	23	78	75	24
計		153	436	406	197

●一般選抜 後期日程

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済情報学部	経済情報学科Aコース	15	403	137	49
	経済情報学科Bコース	15	406	158	42
	合計	30	809	295	91
芸術文化学部	日本文学科	5	124	31	21
	美術学科	15	152	87	22
計		50	1,085	413	134

●私費外国人留学生選抜

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済情報学部	経済情報学科	若干名	14	6	4
芸術文化学部	日本文学科	若干名	3	0	0
	美術学科	若干名	1	1	0

●第3年次編入学試験

学部・学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	
経済情報学部	経済情報学科	若干名	1	1	1
芸術文化学部	美術学科	若干名	9	9	5

大学院				
研究科・専攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
経済情報研究科	8	0	0	0
日本文学研究科	6	2	2	2
美術研究科	12	24	23	14
計	26	26	25	16

Campus Life



キャンパスライフ

有意義な学生生活のための
さまざまな支援制度を備えています。

奨学金制度

日本学生支援機構および尾道市立大学奨学会等の奨学金制度を設けています。また、民間企業や地方公共団体等による奨学金の案内についても、随時お知らせしています。

●日本学生支援機構奨学金

- ・給付奨学金
- ・第一種奨学金(無利子) ・第二種奨学金(有利子)

●尾道市立大学奨学会奨学金

無利子貸与 月額30,000円(若干名)

●尾道市立大学成績優秀学生奨学金

本学における学業成績が特に優秀であると認められた学部生に対して、学修意欲の更なる向上を目的として、年額100,000円を給付する奨学金制度を設けています。

授業料減免制度

経済的理由や風水害等の災害を受けたことなどにより、授業料の納付が困難な学業成績が良好な学生に対する経済的支援として、授業料減免制度があります。また、国の「高等教育の修学支援新制度」も対象です。

チューター制度

指導教員(チューター)を中心に経済情報学科では10人程度、日本文学科・美術学科では5人程度のグループをつくり、同級生や先輩・後輩との絆を深めていく制度です。チューターはグループの学生の相談相手になり、またグループの学生と一緒にレクリエーションを楽しむこともあります。

資格取得支援講座及び資格取得者に対する
奨励金給付制度

公務員受験対策講座、情報技術資格対策講座等の課外講座を開講し、学生の進路支援、就職活動に向けた実力を養成しています。また、独力で資格等を取得した学生に対し、奨励金を給付する制度もあります。

オフィスアワー

学業その他の相談を受けるため、全教員がそれぞれ日時を決めて、研究室で待機しています。

学生相談(カウンセリング)・健康相談

自宅から離れた新しい暮らしや通学環境の変化など日常生活上の悩み、大学での人間関係の悩み、精神面や身体面での心配事などについて、保健師・看護師が常駐する医務室にお気軽に相談に来てください。また、公認心理師/臨床心理士によるカウンセリングを受けることもできます(予約制)。

下宿等について

尾道市内には学生向けのワンルームマンション、アパートや寮があります。また、本学の周辺には食事付きの学生寮もあります。これらはすべて民間経営です。希望者には、アパート等の資料をお渡ししています。

その他

学生または学生で構成する団体が、スポーツ・文化・社会貢献等の各分野の活動において、特にすぐれた成果を挙げた場合、学長からの表彰があります。

経済情報学科3年

田畑 果空音

広島県立因島高等学校 出身

私は将来、地元である尾道に貢献できる仕事に就きたいと考えてきました。しかし、そのためにどのような職業に就くべきか、具体的な方向性までは定まっていませんでした。本学の経済情報学部は、物価変動や企業の戦略、IT技術の活用など、現在の社会で注目されている身近な問題について幅広く学べ、これらの知識や技術を身につけることで、社会の仕組みを多面的に理解し、将来の就職の幅を広げられるという点から、地元で貢献できる力を身につけるため、尾道市立大学の経済情報学部への入学を決めました。

高校では総合学科だったため、商業科目を専門的に学んだわけでもなく、数学も得意ではなかったため、経済情報学部で本当にやっていけるのか不安でした。しかし、入学後は簿記入門や文系出身者向けの数学など、基礎から丁寧に学べる授業があり、安心してスタートを切ることができました。また、苦手なことも友人と教え合いながら勉強していくことで、「苦手だから諦める」ではなく、「興味のあることへ挑戦したい気持ち」を大切にできるようになりました。3年生からは経営コースを重視し、「人生を豊かにするための働き方」をテーマにゼミで勉強していきます。

通学時間が短いことを活かし、早朝と夕方のバイトを掛け持ちしています。学業との両立は大変ですが、時間管理する力や仕事への責任感が身につく、効率的に動く力が鍛えられました。日々の経験が自分の成長につながっていると感じています。



● 尾道市学生議会や総合計画の市民委員として地域の意見づくりに参加しています。さらに、週末に地域のお祭りへ出店したり、子ども食堂のお手伝いに行ったり、中学校の授業サポート、地域イベントのスタッフなど、多様な形で地元に関わることに力を入れています！

● 中学生から始めた卓球を続けると同時に、モルック部や漫画研究部など初めてみる部活動にも参加しています。複数の部活に所属して、今までになかった体験をしたり、部活を通して交友関係が広がっていくことも大学の楽しみだと思います。

※2年次(2025年度)後期の時間割です。

一週間のスケジュール					
時間割	月	火	水	木	金
1限		健康スポーツ学	原価計算論		
2限	会計学概論	日本経済論	東洋思想	キャリア形成演習	商法
3限	金融論Ⅱ	経営組織論	財政学Ⅱ	経営情報論	応用英語Ⅱ
4限			マーケティング論		
5限					

私たちが日常で目にする広告やCM、店頭の商品やその並び方。実はそれらは、企業のマーケティング戦略のひとつで、「この商品、ついつい買ってしまう！」と感じるのも、マーケティングにハマっているからかもしれません。この授業では、実際の企業事例と照らし合わせながら、マーケティングの理論を学んでいきます！

日本文学科3年

山際 涼香

市立札幌旭丘高等学校 出身

私は高校時代、現代文、古典問わずに国語の授業が毎日楽しみだったので、「文学に関する勉強をしたい」と思いました。ただ、どの時代、どのジャンルを勉強したいのかという具体的なことは何もわかりません。数々の大学を調べていく中、本学の大学案内に書かれていた「日本文学科で学べる分野の広さ」に惹かれました。文学、日本語学、創作といった分野の授業。文学の中でも平安時代や明治時代、中国に欧米、日本語学でも古典語や現代語のような幅広い分野を専門とする先生方。ここで様々な世界に触れることで自分の興味のある分野を見つけることができるのではないかと、思い本学を志望しました。

日本文学科の授業は毎回、新しい体験があります。教科書では一部しか読んだことのなかった『源氏物語』や『伊勢物語』を読み解く機会、くずし字の資料を読む授業、友人の地元の方言について話を聞く時間、ひとつひとつが楽しく、この場所でき体験できない貴重なものです。

3年生から所属するゼミは近世文学ゼミを選択しました。江戸時代の文学は全く知りませんでしたが、授業を受ける中で、もっとこの時代の文学を知りたい!と思うようになりました。これから様々な物語に出会うのが楽しみです。先生のサポートも充実しており、新たな分野にも挑戦できる、そんな環境も本学の魅力です。



一週間のスケジュール					
時間割	月	火	水	木	金
1限		民法入門	博物館展示論	日本文学講読Ⅰ(上代)	
2限				博物館情報・メディア論	フランス語Ⅰ
3限	社会思想史			日本歴史概説Ⅰ	近世文学専門演習a
4限	日本語史				
5限			日本文学史Ⅱ(中古)		

※2年次(2025年度)前期の時間割です。

文学史の授業では各時代の代表的な作品に触れる機会があります。この授業では平安時代の文学作品の概要について学び、実際に作品の一部を読んでいます。中国文学の影響を受けた表現や、後の時代の作品に与えた影響など、文学作品同士の繋がりを感じられます。

● 授業の間にある空きコマでは図書館で授業の発表資料作りや課題をしています。午後に授業がない日や休日は基本的に飲食店でアルバイトをしており、予定がないときには車で少し遠くの博物館まで行くこともあります。また、キャンパスツアーのような大学の行事に携わらせていただくこともありました。

演習は学生の発表を中心に進んでいきます。この授業では近世(江戸時代)の浮世草子『浮世親仁形気』をくずし字から読み、注釈を付け、登場人物の言動がこの物語においてのどのようなおもしろさを生み出しているのかを考えました。文学の知識だけではなく、江戸の文化や風習についても当時の資料を探してまとめます。考察に使えるような資料を見つけたり、発表内の質疑応答で指摘された視点が自分に無いものであったり、毎回発見の尽きない楽しい授業です。

美術学科3年

今東 瑠莉

岡山県立総社南高等学校 出身

私は将来、美術と人をつなげるような仕事に携わりたいと考えています。本学では学芸員資格の取得を目指せることに加え、作品制作に打ち込める環境や設備が整っている点に魅力を感じ、入学しました。1年次には油画、日本画、デザインの3つのコースをすべて体験できるカリキュラムなので、自分の表現の幅を広げるとともに、どのコースが自分に合っているのかを考える重要な機会となり、最終的には油画コースを選択しました。

油画コースのアトリエでの制作では、個性豊かな友人や先輩、後輩から多くの気づきや刺激を得ています。先生方のアドバイスやサポートのもと、自分のやりたい表現に深く、柔軟に向き合うことができます。また、図書館や共同研究室には資料が充実しており、作家研究や制作の参考として役立っています。

平日は講義や制作に集中し、土日はアルバイトをしながら生活しています。大学周辺は自然に囲まれており、制作に行き詰まった際には外で昼食をとったり、大学周辺を散歩したりして気分をリフレッシュしています。静かな環境の中で自分自身と向き合い、制作に集中できる点は大きな魅力だと感じています。

尾道はギャラリーや美術館と地域が密接につながる町であり、坂や海、レトロな町並みなど独特の風景が広がっています。日常の中で多くの発見があり、そうした環境に身を置くことで自分の感覚や視点が磨かれ、制作にも良い影響を与えていると感じています。



学芸員資格の取得を目指している学生が受講する授業です。美術学科で教員免許資格と学芸員資格の取得を目指すことができ、それぞれ必須の授業があります。博物館教育論では、実際に地域の美術館に行ってワークショップの体験ができました。

一週間のスケジュール					
時間割	月	火	水	木	金
1限		健康スポーツ学		キャリア形成入門	
2限		文化社会学	東洋思想	日本文化史	博物館教育論
3限	生涯学習概論				
4限			実習		
5限					

街中にある画家のアトリエ、小林和作日居で作品展示をする実習をしました。実際に現場で作品を作る体験が印象に残っています。

● サークル活動では演劇部に所属しています。学内での新歓公演や翠郷祭での公演に加えて、学外では信行寺やしまなみ交流館などで公演を行うなど、活発に活動しています。役者はもちろん、音響や舞台美術、広報美術など様々な役割があり、互いに協力しながら日々稽古に励んでいます。

● 休日には駅前の商店街を訪れることが多く、カフェや雑貨店、古本屋を巡っています。商店街の近くには美術館や寺院もあり、レトロな雰囲気の中を歩く時間はとても心地よいです。ぜひ訪れてみてください！

※2年次(2025年度)後期の時間割です。



オヤマノカフェ(学生食堂)



ロコモコ丼 タコライス
オヤサイプレート カツカレー



ニューヤマギデイリーストア



ウエダ画房

尾道市立大学にはさまざまなクラブ、サークルや同好会があり、文化系からスポーツ系まで幅広いジャンルが存在します。



クラブ・サークル、同好会一覧表

●部活動	アウトドア部 硬式テニス部 硬式野球部 サイクリング部	サッカー部 セパタクロール部 ソフトテニス部 卓球部	ダンス部 軟式野球部 バスケットボール部 (男子) バドミントン部	バレーボール部 (女子) バレーボール部 (男子) フットサル部 (男子) モルック部
	●文化系	学生会執行委員会 翠郷祭実行委員会	アカペラ部 裏千家茶道部	演劇部 おのだい教室 軽音楽部 将棋部

●同好会	吹奏楽部 推理小説研究会 陶芸部	速水流茶道部 ひかりアート研究会	文芸部 放送部	漫画研究部 ラテン部
	アイドル同好会 朝活同好会 eスポーツ同好会 映画同好会 おの100同好会	尾道書道会 OTT 総合格闘技同好会 考えるカラス団 333 同好会 芸術文化研究会 シーズンスポーツ同好会	シグマソサエティ同好会 手芸・裁縫同好会 スイム同好会 スマブラ同好会 天体観測同好会	ねこ同好会 ハンドボール同好会 ボクシング同好会 ラグビー同好会

Economics, Management & Information Science

経済・経営・情報をマルチに学び、
自分の可能性を目覚めさせる。

経済情報学科





経済情報学部長

井本 伸

尾道市立大学の経済情報学部は、経済・経営・情報の3分野を同時に学ぶことを特徴としています。これは、「社会に求められるのは情報の基礎的知識や技能を有し、現代経済社会を的確な視点で把握できる人材である」との考えから、経済学を始め経営学や法律等の社会科学を深く理解しつつ、コンピュータを使いこなす能力を持つ人材の育成を目標としているためです。近年、多くの大学で文系分野に新しく情報系やデータサイエンス系のカリキュラムを横断的に導入した学科が作られていますが、本学は40年近く前から同様の理念に基づいて教育を行っています。

一般的に大学では、経済学部であれば経済学といったように、一つの専門分野に特化した学びが中心となるのに対し、本学では1・2年次に3分野を基礎から体系立てて修得することを重視しています。もちろん学生の中には「経営に興味はあるが経済や情報にはあまり関心がない」という人もいますが、本学では3分野を幅広く学ぶことを重視しています。そして3年次からは興味のある分野のコース（専門演習）に所属し、興味のある専門分野を深く探求していくことができます。入学時点ではどの分野に興味があるのかまだよく分からないという人もいます。そのような場合は3分野を一通り学んだ後、専門分野を選ぶこともできますし、またどの分野を学ぶかを決めていたとしても、学んでみて初めて分かる面白さというものもあるので、途中から他の分野に興味がわく人もいます。

学問というものはそれぞれが独立している訳ではなく相互に関連しているため、最終的に一つの分野を選択したとしても、他分野の基礎知識を学んだことは必ず力になります。

近年、卒業論文を課さない大学も増えていますが、本学では全員に対して少人数クラスによる論文指導を行っています。それは、大学における学びは主体的であることが重要だからです。主体的な学びとは、自分で「問い」を立て、その解決のために分析や調査を行い、その成果や主張を他者に説明、共有する過程を指します。ここで言う「問い」とは、高校までのように正解と解法があらかじめ用意されたものとは異なり、まだ正解が分からないものや、これまで誰も「問い」として扱っていないものも含まれます。実はこの主体的な学びの第一歩である「問いを立てる」ことが最も難しいのです。本学では、このような主体的な学びを最終的に卒業論文という形で結実させます。



学科紹介動画はこちら

経済情報学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育の理念・目的と求める学生像

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原則を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

経済情報学科の教育課程に適應するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。

（知識・技能）

- ①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報3分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ幅広い教科・科目の知識・技能」

（思考力・判断力・表現力）

- ②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる
 - ②-a.「高等学校等で学ぶ幅広い教科・科目の知識・技能をふまえた思考力・判断力」
 - ②-b.「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」
 - ②-c.「専門分野（経済・経営・情報）に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」

（主体性・多様性・協働性）

- ③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」

中心的な活躍ができるジェネラリストに



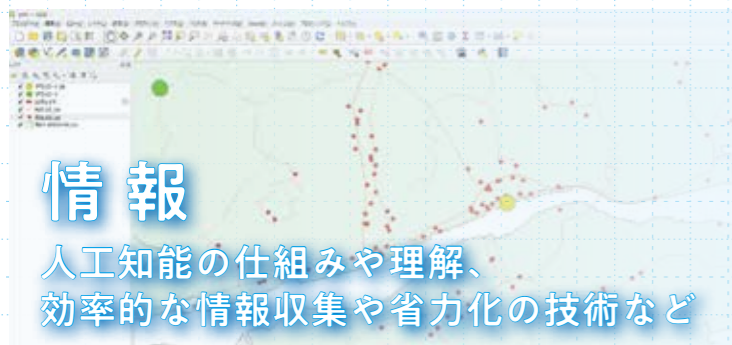
経済

経済の歴史、思想、
社会保障や財政、産業など



経営

企業や組織の運営、働き方、
コストや収支の管理など



情報

人工知能の仕組みや理解、
効率的な情報収集や省力化の技術など

現代社会では、文理複眼的な思考ができる人材が求められており、文系学生にも理系の素養が理系学生にも文系の素養が必要です。

例えば、
ビジネスとして成功する上での社会情勢の分析力、
資産管理の力、実務上必要な情報技術力などを
修めた人材が求められていますが、3分野を横断的に
学修できるのは、本学科の大きな魅力です。



経済情報学科の雰囲気の一部を紹介します。

学生主体の学修環境、少人数を強みにした
ユニークなゼミ、勉学の成果を凝縮した研究発表。
4年間を通してゆたかな時間が流れていきます。



3年次以降のゼミでは、卒業論文の執筆に向けて、
専門的な内容を学修したり、討論したり、
あるいは現場見学に行ったりもします。

経済学では、財、サービス、労働、資本、貨幣などが市場を通じて社会の中を循環する様子（経済循環）を、理論とデータの両面から説明する技術を学びます。経済学には、家計や企業などの行動を分析するミクロ的視点と、経済全体での出来事を分析するマクロ的視点のふたつがあります。

このような視点を軸として金融論、財政学、国際経済学などを履修することによって、私たちの生活にかかわる諸問題を把握・分析するための問題発見能力と企画分析能力を磨くことが出来ます。これらは、ビジネスパーソン・公務員を含めたどのキャリアにおいても、重要性が近年特に増しています。

大学生も、数年後には自分たちが経済社会を運営する立場になります。そのために経済コースでは、規制緩和や年金といった制度・政策、日本と世界の経済史、国際貿易などの世界情勢などについての理解を深めることを目指します。さらに、経済問題を客観的に検証するためには経済データを統計的に分析することが必要であるため、情報処理に関するトレーニングも行います。

経済の論理と技術のみならず、倫理を身に付け、世界や国といった全体を見渡すと同時に、経済主体として家計や会社を運営する能力を身に付けたグローバルな人材を育成します。

想定される進路

1. 行政機関におけるICTを活用した企画、政策の立案、実行
2. 企業、行政機関における情報活用システムの企画、事務、営業
3. 金融機関における業務



社会思想史、経済学史



経済コース長・教授
林 直樹

思想史と格闘し続けてきました。人同士の繋がりを辿る中で過去の思想=アイデアの相関を探り当て、アイデア自体をより深く理解することを目指しています。例えば、確率論的統計学で著名なベイズが約3百年前に活躍した人で、経済学の祖ヒュームやアダム・スミス、あるいはベンジャミン・フランクリンと非常に近い人間関係の中にいたと知れば、ワクワクしてきませんか。思想をつかむことは同時に著作=テキストを解析することです。テキストマイニングという、将来性に満ちてはいても取り扱い注意な技術に活を入れることも、最近の関心事です。



公共経済学



経済コース・教授
荒井 貴史

政府による消費者や生産者に対する課税や補助金が、資源配分にはどのような影響を与えるのか。価格や取引に対する規制が、社会厚生にはどのような影響を与えるのか。政府の市場経済での役割はどのようなもので、その役割の理論的根拠は何か。公共財、外部性、不完全競争、情報の非対称性など、厚生経済学の第1基本定理(完全競争市場における均衡配分はパレート効率的である)の前提が損なわれている「市場の失敗」のケースを公共経済学は理論的に分析します。



マクロ経済学



経済コース・教授
井本 伸

マクロ経済学とは、国や地域全体の経済を分析対象とする研究分野です。経済学では全体(マクロ)と個人(ミクロ)を分けて考えます。なぜなら経済問題には「個人ではどうしようもない問題」や「個人としては正しくても、全体としては良くない行動」があるからです。例えば、不景気という経済問題は個人ではどうしようもありません。そして、不景気に節約するという行動は個人としては正しいのですが、経済全体としては物が売れなくなってしまうため良くありません。したがって、個人がどのように行動すべきかだけを考えているだけでは経済全体の問題を解決することはできません。そこでマクロ経済学では、政府が経済全体に対してどのように行動すれば良いのかを考えます。



応用ミクロ計量経済学



経済コース・教授
堀江 進也

被災者の生活再建、災害の復興資源の配分について研究しています。被災人口が莫大であったとき、被災地域が非常に広範囲にわたる場合、誰から・どこから優先的に支援すべき・復興すべきでしょうか。

人の人生を左右する問題ですので、経済学の理解と応用には正確さを求められます。また、「現場」を知ることも重要です。このバランスを持ちつつ、自分が社会で重要なひとりであることを認識した人材を育成したいです。



日本近世・近代の流通経済史



経済コース・教授
森本 幾子

研究室では、地域経済の歴史について学ぶことを主軸に据えています。毎年、尾道・宮島・鞆浦など身近な瀬戸内の港へ実際に足を運び、フィールドワークを行うことによって、その歴史的経緯や特徴について理解を深めています。

また、手習い本をはじめ当時の仕切状や帳簿などの古文書の解読を通して、日本近世・近代の商取引の特質を学び、現代と比較しながら考察しています。



環境経済学



経済コース・准教授
岡本 隼輔

環境経済学では、廃棄物問題や地球温暖化問題について、経済学の視点を交えて定量的に捉えていきます。例えば、製品を作る際に素材の採掘や加工、流通などあらゆる段階で環境負荷が発生しますが、それら全てを考慮して計測していくライフサイクルアセスメントの概念もその1つです。

また、ワークショップや工場・現場見学なども実施することで、机上の学修と現実社会とを結びつけながら問題解決能力を養っていきます。



金融論



経済コース・准教授
神崎 稔章

金融の世界は、多くの進歩と制約を経て、現在に至っています。証券化やデリバティブ等の金融革新がもたらす資金の集中や規制のバランスは重要です。

ゼミナールでは、自らが主体的に議論できるスタートにたてるにはどうすればよいのかを、経済学と関連付けて進めます。1冊のテキストのみを鵜呑みにせず、社会の在りように疑問を持った方が出てくることを期待します。従って、ディベート大会や学外での経験もゼミナールの特徴です。



社会保障、社会政策



経済コース・准教授
佐藤 沙織

人々の生活を支える手段は様々にありますが、戦後日本ではとりわけ医療がその中核を担ってきました。そこで「なぜ日本では医療に偏重して支える仕組みが発展したのか」という課題の究明から、医療だけに偏らないこれからの社会の支え合いの仕組みを展望することを目指しています。

ゼミナールでは、毎年、医療や福祉の現場で調査合宿を実施しています。わからないことを良く知っている人に「聞く」ことで、社会を「知る」楽しさを実感できる機会を提供しています。



卒論報告会

主要専門科目 講義風景
経済学入門I (ミクロ)
(最適な資源配分や消費者行動に触れる
「小さい」経済学の基礎)



経営学は企業をはじめとする様々な組織について学ぶ学問領域です。ミクロ経済学においても企業を扱いますが、主に市場における企業の経済活動を分析します。対して経営学では、企業がヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源を活用して生産活動を行う仕組みや、商品やサービスなどが消費される仕組みを分析します。したがって、経営学という学問領域では、それぞれの組織がどのように運営されるのか、どのような戦略を立て実行していくのか、その組織のリーダーがどのような行動をとると組織が活性化するのかなど、幅広く企業をはじめとする組織について探求していきます。

当経営コースでは、経営学に関する基礎的な知識と技法を学修するとともに、実社会で実践できるよう体系的に理解を深めるために、まず経営学の基本なる科目として、1年次に「経営学入門」や「簿記入門」などの科目を学修します。そのうえで、2年次以降に「経営組織論」、「経営戦略論」、「マーケティング論」、「財務会計論」、「管理会計論」など専門性の高い科目に加え、経営学にかかわりの深い法律として「企業法」や「租税論Ⅰ・Ⅱ」などを学修していきます。

さらに、本学部の特徴でもある、経済学や情報学を横断的に学修することにより、また国際的な視点を持ち「国際法」や「国際経営論」なども学修することにより、国際化や働き方改革がすすみ、消費者の価値観が変化していく社会において、経営学の視点から様々な経営課題を幅広く整理、分析、解決できる人材を育成します。

想定される進路

1. 企業マネジメント全般における管理業務
2. 企業における経営情報を活用した経営組織の在り方や経営戦略の立案、実行
3. 企業における経営情報システムの立案、運用



ドイツと日本の経営学説、企業倫理の理論と実践ほか



経営コース長・教授
西村 剛

ゼミのテーマは「ワーク・ライフ・バランス (Work Life Balance) の理論的・実践的研究」です。「仕事と生活の調和」について学んでいきます。現在「働き方改革」が注目されるなかで、日本的雇用慣行は徐々に変化しつつも依然として労働者に過酷な労働条件を突きつけています。例えば長時間労働、過労死・過労自殺、正規-非正規労働者の処遇格差など。こうした過酷な労働条件のもとで労働者はどのように企業と関わり、どう対応していくべきかを探っていきます。



会計史、簿記、財務会計



経営コース・教授
津村 怜花

複式簿記は13~14世紀のイタリアで誕生し、世界各国に伝播しました。日本にも明治初期に「輸入」されます。なぜ複式簿記は各国に伝播し得たのでしょうか?このような疑問を探究することで、会計史は現在や未来の会計の問題等を考えるうえでの視点を提供するとともに、歴史を解き明かす、魅力ある研究分野です。

授業や卒業論文等を通して、なぜ会計基準が変更したのか、今何が問題となっているのか等、一緒に歴史を踏まえて検討していきます。



健康とスポーツの科学



経営コース・教授
藤岩 秀樹

教養教育の健康スポーツ科目を担当しています。健康スポーツ科目は、「健康スポーツ学」(講義)、「健康スポーツ実習Ⅰ」、「健康スポーツ実習Ⅱ」、「野外スポーツ実習」からなっています。

身体運動やスポーツを媒介に、生活の基本である健康・体力に関する正しい知識と、健康づくりの具体的方法に関する知識や実践能力の獲得をめざしています。



経営戦略論、経営組織論



経営コース・教授
横澤 幸宏

皆さんは、日々の生活や仕事のなかで常に意思決定を行っています。本研究室では、経営学という学問を通じて、企業経営や組織運営における人や組織の意思決定について学びます。特に、経営学のなかでも、経営戦略論、経営組織論、イノベーション論などの分野を中心に学び、企業が業績を高めるためにはどうしたらよいか、また個人や組織が目標を達成するためにはどうしたらよいかについて考えていきます。経営学で学ぶ経営理論は、企業経営だけでなく、日常生活においても幅広く応用することができます。経営学の研究を通じて、知識を学ぶとともに、自分の頭で考える習慣を身につけていただければと思います。



会社法



経営コース・准教授
王 佳子

企業の中で最も多いのが「会社」ですが、アメリカのシカゴ学派は、会社を、「契約の束」と定義しています。この考え方は、会社が無数の契約を通して、組織を形成し、さまざまな取引活動を展開しているという実態をよく捉えています。それでは、会社は、契約を結ぶことでどのような権利を有し義務を負うことになり、その権利を実現するためにはどのような手段を採ることができ、義務を履行しない際に誰がどのような責任を負うことになるのでしょうか。

本研究室は、具体的な事例をもとに、こういった問題について検討をしています。



租税法



経営コース・准教授
北野 富士和

租税法とは、国や都道府県、市町村が税金をどのように集めるかを定めた法律の分野です。税金は公共サービスを提供するためなどに必要であり、国会で決められた法律(税法)に基づいて納められます。人は生きていくために日々様々な取引を行っていますが、その取引のすべてが税法と関わっています。では、税法にはどのようなルール(概念・条文・判例)があり、どのような問題があるのでしょうか。租税法の研究とはそれらの問題解決や経済の変化に応じ税法はどのようにあるべきかを考えるものです。アルバイトの所得税、消費税など、私たちの身近なところにある税を通して、社会を見る視点を一緒に身につけていきましょう。



経営・産業の情報化、経済社会学、情報社会論



経営コース・講師
金 信行

科学技術と経済・経営・社会との相互作用を研究しています。私たちの日常生活はさまざまな科学技術に支えられて成り立っています。例えばパソコンや携帯電話をまったく使わない生活などは、現代社会ではなかなか想像できないのではないのでしょうか。日常生活の場面から離れると、人工知能や仮想通貨といった先端情報技術は社会のあり方に大きな影響を与えるものであり、またこうした先端科学技術には開発者による社会変革の意図が埋め込まれていたりします。私はこのように科学技術と社会が互いに影響を与えて成り立っていることを焦点化した理論的視座を基に、先端科学技術の開発運用過程で生じる法的・倫理的・社会的課題(ELSI)の分析に取り組んでいます。

私のゼミではこうした経営・産業・社会の情報化を背景としつつ、労働・産業の領域における社会現象や社会問題が、社会的な営みとしてどのように成立しているかを探究しています。



国際法、安全保障論



経営コース・講師
吉良 悟

武力行使の規律、自衛権を研究しています。今日、自衛権は、国家が単独で武力を行使する際のほぼ唯一の法的根拠になっています。2022年のロシアによるウクライナ侵攻も、ロシアは自衛権を根拠としました。残念ながら、国際社会から武力紛争をなくすことは、いまだ現実的ではありません。しかし、武力行使を規律する試みは意味を持ち続けます。自衛権を考えるということは、武力紛争の機会を減らすことに繋がります。ゼミナールでは、国際法、日本国憲法を軸に、国際紛争に関する法的問題や日本の安全をいかに確保するのかを議論します。



管理会計、コストマネジメント



経営コース・講師
田中 政旭

管理会計は、主に2つの役割があります。1つは、企業の目的や戦略の実行をしていくために、組織構成員がバラバラにならないように取りまとめていく役割です。もう1つは、マネジャーが意思決定する際に役立つ情報を提供する役割です。どちらの役割も、企業が自分たちの目的や目標を実現する上で、重要なものです。

本研究室では、上記の役割を果たす管理会計をどのように設計をすれば、期待した効果が得られるか、また逆に負の効果がもたらされるのかについて研究しています。そして、そうした研究によって、学術的含意と実践的含意の両方を提供することを目指しています。



マーケティング、消費者行動



経営コース・講師
渡邊 久晃

専門はマーケティングで、なかでも消費者の購買・消費・処分まつわる意思決定について研究する消費者行動と呼ばれる領域に関心があります。私たち消費者は普段、製品やサービスを購入するとき、常に経済合理性を意識しているわけではなく、何気なく購入することのほうが多いと思います。そうした意思決定では認知や感情、感覚といった様々な心理的要因が影響しています。本研究室では、消費者行動の背後にある心理的メカニズムについて研究することで、マーケティング的な諸課題に対して示唆や含意を提供することを目指します。



早期履修制度

経済情報学部では、本学大学院に進学を考えている学生のために大学院科目を早期履修する制度があります。

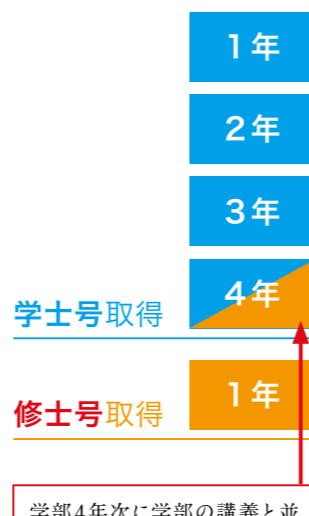
修士号の学位を取得するには、通常学部4年間に加え、修士課程2年間、合計6年間の学修が必要になります。当該制度を利用すると、学部4年間に加え、修士課程1年間の合計5年間で修士号の学位を取得することが可能となります。これを利用して、例えば、税理士試験の科目免除の論文指導を受けたり、高度な専門知識を有して教育分野や水産加工業分野で活躍する、といった学生がいます。

経済を動かす主体である産業、企業の現場では、日々新たな問題に直面しています。膨大になるデータベースへの対応、人力から機械への代替、それに伴う専門的かつ高度な知識、そうした力が要求されるようになってきています。文部科学省も大学院への進学および修了者の積極的な採用を推奨しています。

学位取得までの経過 (通常)



学位取得までの経過 (早期履修制度活用)



学部4年次に学部の講義と並行して、大学院1年次の講義を受講することができます。

高難度の国家資格である「公認会計士試験」に挑戦する学生もいます。

高難度資格のための勉強は、長期間に渡る持続的な学習が不可欠です。

翠明館などの施設をはじめ、集中して勉強に打ち込める環境が十分に整っている本学の体制は、学生の夢の実現に向けた一助を担っています。

令和7年公認会計士試験
論文式試験

願書出願者数：22,056人 合格率：7.4%

令和7年公認会計士試験
第1回短答式試験

願書出願者数：15,990人
合格率：8.6%

合格率：最終合格者数ないし短答式試験合格者数を願書出願者数で除して算出



短答式、論文式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

川崎 歩夢

岡山県立玉島高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

高校までの学習内容とは一味違う簿記やITパスポートなどのビジネス関連資格に興味を持ち、さらに専門的な知識や経験を身に付けたいと思ったからです。



短答式、論文式に合格

経済情報学科
経営コース 卒業生

大森 輝

岡山県立西大寺高等学校出身



どうして公認会計士を目指したの？

大学で何かをやり遂げたいと考えたときに、特に難しいとされる公認会計士が目に残りました。「公認会計士」という名前には憧れたこともあってチャレンジすることにしました。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

会計系の講義科目が豊富で、試験対策だけではなく深い内容を学ぶことができました。経済系や情報系の講義も卒業後のキャリアには必要なので、充実していました。

また、大学にある自習室が利用しやすく、集中して勉強ができる環境なので、とてもおすすめです。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

公認会計士は決して簡単な資格ではないので、諦めずに勉強を継続する精神力や覚悟が大切です。

また、合格したという経験はこれから先の人生で困難に直面した場合でも揺るがない自信になるので、興味がある方や何かやりたいと考えている人は、勇気をもって挑戦してほしいと思います。

大学の授業や施設はどう役に立つの？

試験対策をしていると結論だけを暗記するケースが多いのですが、大学の講義では考え方のプロセスや裏側を知ることができて、予備校などでの授業とはまた違った楽しさがありました。大学の施設では、夜間や休日でも利用できる自習室を大いに活用していました。

未来の後輩にメッセージをお願いします！

受験しないで挑戦をやめてしまう方もいるので、まずは短答式試験を受験することを目標にして頑張ってください。

一定期間の勉強を続ける、試験を申し込む、実際に試験を受ける、結果を自己採点するといった形でステップアップを目指してください。

情報コースでは、現代社会の基盤となっている情報技術の基本原理を中心に学び、学修事項をデータサイエンスの基礎、経済学、経営学と関連づけてより深めます。情報技術に裏付けられたデータ分析能力や課題解決能力を身につけ、情報システムの設計から運用までを担当できる社会で広く活躍できる人材を育成します。

日本の社会では、マーケット（経済）とビジネス（経営）が分かり、データサイエンスの基礎を身につけたICT技術者やコンサルタントが不足しています。例えば、ユーザ企業の置かれている市場や経営の特徴を数理的に分析し、ユーザ企業の弱みを補強し強みをさらに強化するICTソリューションを提案し、自社の経営戦略に基づいてICT戦略を立案し、それを実現する情報システムを設計したりする人材です。このようなことは工学系の情報学科を出たICT技術者には難しく、情報科学に加えて経済学や経営学も学ぶ本学科の情報コース卒業生が活躍できる場だと思います。

将来このような仕事に就く人材の育成を目指して、情報コースのカリキュラムは設計されています。情報関連科目は大きく3種類に分けられます。1つ目はコンピュータを用いて情報を適切に処理する能力を養う科目です。レポートや卒業研究など大学での学修・研究活動や、卒業後に社会における様々な活動において必要となる知識とスキルを修得するための科目です。「情報活用基礎」「情報とコンピュータ」「統計学」などの科目があります。2つ目は情報分野のより専門的な科目です。プログラミング言語によるソフトウェア開発、ネットワークの仕組みや特徴、情報システムの設計方法など、情報科学の様々な分野を学修します。データサイエンスに関連して、ビッグデータの活用や人工知能の応用なども学修します。「プログラミング」「ネットワーク科学」「情報システム設計」「機械学習と人工知能」などの科目があります。3つ目は経済分野、経営分野と情報分野が重なる領域の科目です。異なる学問分野が交差することで生まれた新しい学問を学びます。「ビジネスとデータサイエンス」「経済経営情報実習」などの科目があります。

想定される進路

1. 情報関連の企業・組織における次世代のシステム・サービス・技術の研究開発
2. 企業・組織の経営戦略に基づいた、最新技術を活用したICT戦略の提案・策定とその実現の推進
3. 企業・組織におけるICT戦略実現のための最適な情報システムの企画・設計・開発・運用の指揮



情報ネットワーク、機械学習



情報コース長・教授
本田 治

ゼミでは情報ネットワークを主なテーマとしていますが、学生の研究テーマとしては加えて機械学習もテーマとしています。

情報ネットワークの研究では、ネットワーク上で効率良く通信をしたい、通信の品質を制御したい、などの要求をどのようにすれば実現できるのかについて扱っています。機械学習の研究では、機械学習を利用して様々なデータを分析したり、機械学習の出力の多様性などを扱っています。



情報システム設計ほか



情報コース・教授
有吉 勇介

情報システム設計とは、ユーザの「こんな情報システムが欲しい」という要望を分析整理して、仕様書と呼ばれるソフトウェアの設計図にまとめ上げるまでの一連の作業のことです。最近の日本では、仕様書は日本人が作り、プログラミングはインドやベトナムなどで行う国際分業が多くなってきています。その結果、日本のIT系企業ではプログラマよりも、仕様書づくりに関わる人が増えてきています。そのため情報系の大学ではプログラミングと同じぐらいに情報システム設計の勉強が重要になってきています。



観光の支援に役立つデータベース連携型 Web システムの開発



情報コース・教授
高山 毅

観光立国ニッポンがコロナ後に進展する中で、インバウンドを中心として過剰に観光客が訪れることに伴う「オーバーツーリズム」が問題となっています。高山ゼミでは、観光を顧客側/事業者側の双方で支援するシステムの開発を行います。

基盤技術としては、「Webアプリの開発手法」、および「データベースと連携できるシステムを開発するノウハウ」を修得します。IT関連の進路を選択肢にできるように、授業やゼミで力を溜め、社会で実際に役立ち得るシステムを開発します。



数学教育、情報教育



情報コース・教授
南郷 毅

私の研究室では、学習指導要領や教育に関する社会的背景を理解した上で、教育に関する諸問題を様々な角度から検討します。例えば、「教科や学問分野間の関連を図る指導が重要である」という命題に対して、「数学と情報の学習事項を関連させた教材」を開発したりします。情報で学ぶ「情報のデジタル表現」を活用し、数学で学ぶ「組合せ」を解釈した教材を作ったりします。楕円コンパスを実際に作成し、その動作を数学で解析しプログラムで表現したりします。最近、ICT企業でも教育関連の案件で教育への理解が求められるようです。

教育のわかるIT技術者になってみませんか？



ビッグデータ、人工知能



情報コース・准教授
木村 文則

文章(テキスト)を中心とした「ビッグデータ」の分析が主な研究テーマです。

最近注目されている「人工知能」にも取り組んでおり、テキストだけでなく画像も対象にしています。また、通常のゼミとは別に「人工知能勉強会」を開催し、関心のある学生がゼミの垣根を超えて集まり、協力しながら学んでいます。新しい技術についても積極的に学び、社会で活躍できる力を蓄えてもらいたいと思っています。



宇宙論 / 理論物理学

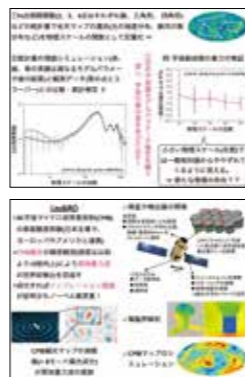


情報コース・准教授
白石 希典

宇宙はいつ生まれ、400億光年先まで広がる構造の種はどのように仕込まれたのでしょうか？宇宙のエネルギーの実に95%を占めるダークマター、ダークエネルギーとは何なのでしょう？

標準宇宙モデルでは説明できないこれらの難問は、新たな物理を示唆するものなのかもしれません。アクションや高スピン場など未知の素粒子を導入すれば、あるいは、重力理論をアインシュタインの一般相対論から修正/拡張すれば、これらの難問に(同時に)うまく答えられることがあります。3K宇宙マイクロ波背景放射(CMB)や銀河などの観測データから宇宙論情報を時系列的に抽出することによって、新たな物理の可能性を徹底調査し、真の宇宙像に迫っています(1つめの図参照)。

また、日本が主導するCMB衛星観測実験の国際プロジェクト「LiteBIRD」に参画しており、宇宙創成を記述する「インフレーション理論」のsmoking gunと言われる原始重力波の発見とその出所の特定を目指して研究しています(2つめの図参照)。



解析的整数論



情報コース・准教授
宮川 貴史

解析的整数論という分野の多重ゼータ関数について研究しています。ゼータ関数とは、素数の背景にある関数で

$$\zeta(s) = \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^s} = 1 + \frac{1}{2^s} + \frac{1}{3^s} + \dots \quad (\text{Re}(s) > 1)$$

という形をしています。1と自身でしか割り切れない自然数を素数と呼んでいますが、素数の列 2,3,5,7,11,13,17,19,... は未だ規則性が解明されず、関連としてリーマン予想という最大の未解決問題(懸賞金100万ドル)が残されています。

リーマン予想 (懸賞金 100万ドル)

$$\zeta(s) = 0 \quad (0 < \text{Re}(s) < 1) \text{ ならば } \text{Re}(s) = \frac{1}{2} \text{ である (?)}$$

この予想解決に向けた試みによりゼータ関数の理論は大きく発展し、そこで新たに生まれた多重ゼータ関数の理論が注目されています。



遺伝的プログラミングを用いた解釈可能 AI の開発



情報コース・講師
秋川 元宏

本ゼミでは深層学習を含む、人工知能全般についての研究を展開しています。人工知能技術は現在様々なサービスと組み合わせられており、すでに我々の日常に溶け込んでいます。如何に人工技術を経済活動へ組み込んでいけるかを基礎から応用まで幅広く取り扱います。また、人工知能技術の安全性はこれから重要な研究分野となります。そのため、近年は複雑化している人工知能技術を安全に用いるための研究を特に推し進めています。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)認定

本学部は、文部科学省による「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定(応用基礎レベル)」を受けています。中国ブロックで同認定を受けている数少ない学部の一つです。今後の社会生活で必要となる、数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を修得できる教育プログラムを開発しています。

「機械学習と人工知能」「ビッグデータ活用」といった講義科目の履修を通じて、情報技術の活用・応用に関する修了証が発行されます。



2025年度卒業論文(各ゼミナールの代表論文)

- マーケットメイカーとしての画商の誕生
- 睡眠管理Webアプリケーションの設計と評価
～睡眠スコアと可視化による自己認識向上～
- 生成AIに関する各新聞社の報道傾向について
- 地方創生についての地方の取組
- 尾道市通行量調査の可視化と考察
- 新NISA制度の政策効果の実証分析
- 五島市の経済循環について
- 商品画像ビッグデータのクラスタリングによる推薦システム
- メタバースを用いた、観光者に防災事前学習を提供するシステム
- 海外産ゲームの日本市場向けローカライズ手法の研究
- 機能性商品の開発は文具業界を救うのか？
—コクヨとパイロットの財務諸表分析に基づく—考察—

- 内容スキーマに着目したプログラミング題材の個別最適化システムの開発
- フォイエールパツハからマルクスを読み解く
—なぜ「宗教は民衆の阿片」か—
- 消費税の仕入税額控除における帳簿要件等の問題点の検討—インボイス制度の導入後も踏まえて—
- 戦争遺跡の現状と今後の展望
—フィールドワークによる検証から—
- Z世代におけるレトロ消費の要因に関する研究



すべての
卒業論文タイトルは
こちら

令和七年度 尾道市立大学経済情報学部 卒業論文集	
目次	1
1. 内容スキーマに着目したプログラミング題材の個別最適化システムの開発	1
2. フォイエールパツハからマルクスを読み解く—なぜ「宗教は民衆の阿片」か—	1
3. 消費税の仕入税額控除における帳簿要件等の問題点の検討—インボイス制度の導入後も踏まえて—	1
4. 戦争遺跡の現状と今後の展望—フィールドワークによる検証から—	1
5. Z世代におけるレトロ消費の要因に関する研究	1
6. マーケットメイカーとしての画商の誕生	1
7. 睡眠管理Webアプリケーションの設計と評価—睡眠スコアと可視化による自己認識向上—	1
8. 生成AIに関する各新聞社の報道傾向について	1
9. 地方創生についての地方の取組	1
10. 尾道市通行量調査の可視化と考察	1
11. 新NISA制度の政策効果の実証分析	1
12. 五島市の経済循環について	1
13. 商品画像ビッグデータのクラスタリングによる推薦システム	1
14. メタバースを用いた、観光者に防災事前学習を提供するシステム	1
15. 海外産ゲームの日本市場向けローカライズ手法の研究	1
16. 機能性商品の開発は文具業界を救うのか？—コクヨとパイロットの財務諸表分析に基づく—考察—	1
尾道市立大学経済情報学部	1

経済コース卒論発表

「尾道市通行量調査の可視化と考察」

岡本ゼミ 小嶋 裕宇

本研究では、尾道市が3年に一度行っている通行量調査の結果を元に、カーネル密度推定法という手法を用いて、尾道市の商店街である『尾道本通り商店街』を中心に、尾道市街地における人々の回遊状況の可視化を行いました。具体的には、各地点で計測された通行量の数字を元に、市街地全体の通行量をヒートマップの形で表現しています。

今後、徒歩だけでなく車や公共交通機関の利用など、用いる交通手段なども考慮に入れた尾道市内の回遊状況を把握することの重要性を示唆し本論文の分析結果としました。



経営コース卒論発表

「ゲオHDとハードオフの財務諸表分析に見る店舗拡大戦略の相違点」

津村ゼミ 藤原 創太

本研究では、ゲオHDとハードオフを取り上げ、店舗網の拡大が経営成績に寄与しているのか、出店コストとのバランスが取れているかを考察しました。

財務諸表分析の結果、ゲオHDに比べ、ハードオフの方が収益性、安全性がともに高いことが明らかになりました。ゲオHDは同業他社に売上高では2倍以上の差をつけているがハードオフに比べると利益率は低いこと、ゲオHDでは祖業であるレンタル市場の急減によるリユース店舗拡大が負債依存度を高めていること等が明らかになりました。



情報コース卒論発表

「内容スキーマに着目したプログラミング題材の個別最適化システムの開発」

南郷ゼミ 山本 晃大

プログラミングは、何らかの題材に沿って制作することを通して学ぶことがあります。この手法は、英語学習などの第二言語習得の中で行われる作文課題と似ている部分があります。

そこで本研究では、プログラミング学習の題材を学習者に最適化させるシステムを提案しました。結果としては、問題文の質・最適化の精度の両面で不安定さがみられました。一方で、良好な加工も確認され、大規模言語モデルによる加工によって実現可能であることを示唆する結果が得られました。今後の課題として、加工精度の向上・安定化などが挙げられます。



経済情報学部の卒業生が働いている分野は、多岐に渡ります。

- 経済コースで金融、地方財政、マクロ経済学などを通じて学んだことを銀行、公務、不動産、社会インフラなどの分野に
- 経営コースで組織論、簿記、マーケティングなどを通じて学んだことを税務関係、物流、教職、宿泊サービスなどの分野に
- 情報コースでデータベース、人工知能、アプリ開発などを通じて学んだことをソフトウェア開発、情報通信業、社内システム管理などの分野に

といった形で、在学中に学んだことを活かしながら、社会に貢献しています。

例えば、情報コースに所属して専門的なスキルを磨きつつ、金融、産業、社会保障など経済の仕組み、組織運営、会計情報をはじめとした経営の知識を取り入れる、といったことが可能なのは、3分野を横断的に学べる本学部の強みです。こうした強みは、社会に羽ばたいていく際の大きな力になります。



しまなみ信用金庫

藤井 菜吏

2023年度卒／経済コース

出身校：

広島県立福山明王台高等学校



経済コースのゼミに所属し、環境経済学を勉強していました。アンケート調査のためにヒアリングを行ったり回帰分析をやったり現場見学に行ったりと、様々なことに取り組んでいました。

現在、左記の金融機関で働いています。普段は窓口を担当しており、お客様とのコミュニケーションを大切にしながら日々業務に励んでいます。

また、窓口業務に加えて、お客様に必要な商品の提案も行いながら地域の方々の資産形成に寄り添えるよう精一杯頑張っています。



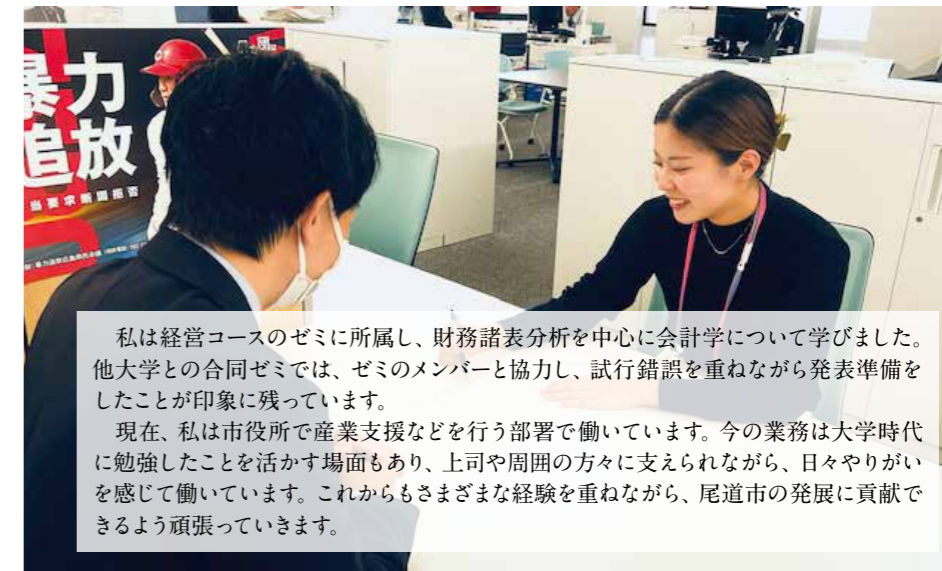
尾道市役所

小野 可湖

2023年度卒／経営コース

出身校：

岡山県立玉島高等学校



私は経営コースのゼミに所属し、財務諸表分析を中心に会計学について学びました。他大学との合同ゼミでは、ゼミのメンバーと協力し、試行錯誤を重ねながら発表準備をしたことが印象に残っています。

現在、私は市役所で産業支援などを行う部署で働いています。今の業務は大学時代に勉強したことを活かす場面もあり、上司や周囲の方々に支えられながら、日々やりがいを感じて働いています。これからもさまざまな経験を重ねながら、尾道市の発展に貢献できるように頑張っていきます。



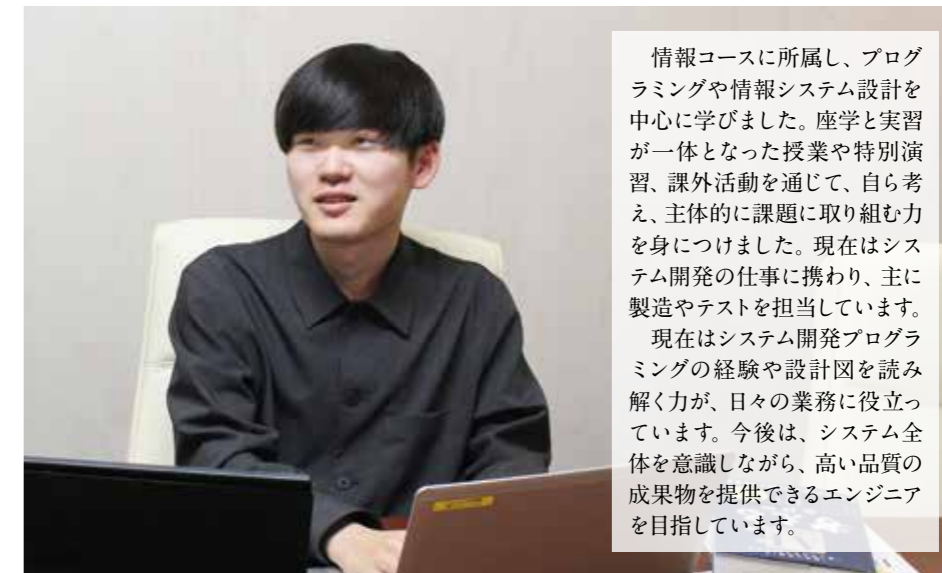
アイピーシステム株式会社

浅原 幸誠

2023年度卒／情報コース

出身校：

岡山県立玉島高等学校



情報コースに所属し、プログラミングや情報システム設計を中心に学びました。座学と実習が一体となった授業や特別演習、課外活動を通じて、自ら考え、主体的に課題に取り組む力を身につけました。現在はシステム開発の仕事に携わり、主に製造やテストを担当しています。

現在はシステム開発プログラミングの経験や設計図を読み解く力が、日々の業務に役立っています。今後は、システム全体を意識しながら、高い品質の成果物を提供できるエンジニアを目指しています。

地域連携

経済情報学部は、地域の企業などとの連携を深め、地域に貢献できる人材育成や、研究活動の浸透、将来を見据えた協働などに努めています。



株式会社広島銀行様による金融教育 「金融リテラシー講座」

生活設計や家計管理といった内容に加え、将来に備えてお金を育てる必要性や、その方法である資産運用についても説明していただきました。特に、資産運用の説明としても耳にする「リスク」は投資の難しさや危うさをイメージする言葉として捉えがちですが、運用成果における振れ幅を意味する、といったことも学びました。実際に企業で働く方々の生の声は、将来の選択を行う学生にとって非常に有意義です。



尾道市役所商工課様からの 通行量調査に関する報告書作成依頼

尾道市は、3年に1度、市内の重点的なポイントで人の流れがどのようにになっているかの調査を行い、数値データを公表しています。この統計をもとに、今後の観光や人のためにどのような考察をしていくかを、受託研究という形で本学の学生が執筆しています。



尾道市議会主催 「尾道市学生議会」への参加

「尾道市学生議会」は令和4年度から尾道市議会が主催しており、尾道市立大学や尾道市内8高校から学生代表者が集って開催されました。

当日は学生議員が議長を務める中で、学生議員が行った市政に関する質問に対して市議会議員が答弁するといった一般質問が行われました。

本学学生からは尾道駅周辺における学習スペースの設置要望や、空き家や小学校跡地の活用に関する質問が出され、実際の市議会さながらに進行されました。その後は学生議員と市議会議員で意見交換を行うなど、今後の尾道市政や地域とのつながりを考える貴重な一日となりました。



株式会社プロシード様による金融教育 「出張マネー講座～人生とお金～」

尾道市内を起点にファイナンシャル・プランナーとして活躍なさっている加藤雄大氏より、「人生の三大資金とは」をテーマに講演いただきました。これから訪れるであろうライフステージの変化に伴う様々な費用や資産形成等を丁寧に解説していただきました。

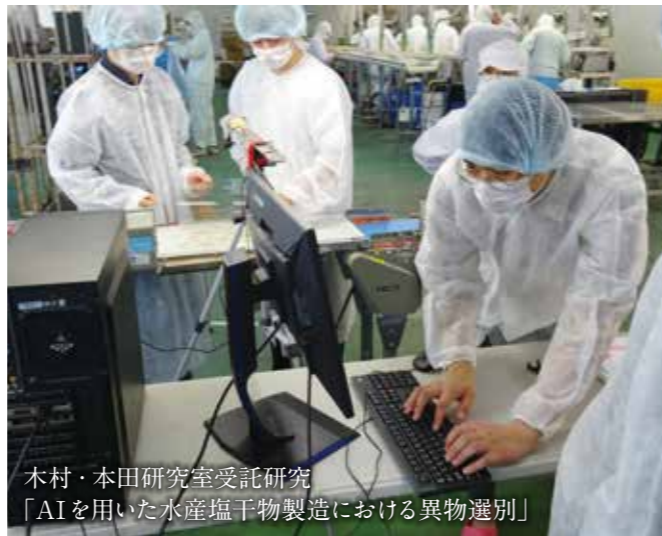


地域貢献

経済情報学部では、経済・経営・情報のそれぞれの分野で、地域に寄り添う教育研究活動に取り組んでいます。例年、商店街との連携企画や市民講座等、多彩な活動が見られます。本学科の特徴を生かしつつ、データと想像力と現場への関心力を駆使して町の振興を考えることもできます。



尾道市内における
デジタル技術を活用した人流データの分析



木村・本田研究室受託研究
「AIを用いた水産塩干物製造における異物選別」



尾道を中心とした
文化・経済・歴史に関するフィールドワーク



プログラミング体験教室のサポート風景
(尾道市役所)

少人数教育・ゼミ活動

尾道市立大学の特色として「少人数教育」を挙げることができ、経済情報学科は他の2学科に比べて人数ですが、教育の場を複数かつ多層に分けて提供することで、多様なニーズに応えつつ、きめ細やかな指導ができるように工夫しています。1年次の基礎演習は全員が履修する必修科目で、大学での学びのイントロとなります。3年次から4年次にかけて履修する専門演習(ゼミ)も必修科目です。指導教員のもと、全員が卒業論文を仕上げなければなりません。これは教員が一人ひとりの学生とそれだけ真剣に向き合うということです。他にも、より専門性の高い内容を少数精鋭で実践する特別演習も用意しています。教わるだけでなく教員とともに研究に励み、かつ楽しむ場として、この演習を活用できます。学生の「やる気」という最大のニーズに応じて、経済情報学科は学びの場を惜しみなく創出していきます。



尾道市水道局へのヒアリング調査



研究発表の様子



E棟ラウンジでの自習風景



廃棄物処理場の見学

日

本

芸術

文

化学部

学

科





芸術文化学部長
灰谷 謙二

尾道は伝統的に芸術文化の街として発展してきました。2006年度に定められた市の総合計画「活力あふれ感性息づく芸術文化のまち『尾道』～ともに高めあう尾道文化の創造～」にもまちづくりの方向性として「芸術文化」を柱にしようという明確な意図が込められています。

知と美の探究と創造を理念とする本学は、美術学科と日本文学科を併せ持つ芸術文化学部を設置しました。尾道という都市の地勢的条件、経済的発展、文化的背景、そしてそこから生まれた人々の志が、具体的な学びの場として形になった稀有な学部だといえます。

尾道には、経済的発展が背景になり、多様な人々が集まる場、その交流のなかで新しいものが生まれること、異なるものを積極的に受け入れ、創造の機運を高める社会的な素地がある。そして若者の可能性を愛し、それを育てまた送り出す気風があるともいえるでしょうか。短期的で表面的な「材」としてみるのではない、大きな視野と立場で自らの生の意味をみつけ社会のなかで位置づけられる人を育てようとするものといえるかもしれません。

地方公立大学にとっては、なぜそれがこの土地につくられたのかというロケーションの意味は重要です。それをふまえて、芸術文化の具現としての美術と文学を芸術文化学部で学ぶことは、必ずユニークな意味を生むでしょう。芸術文化、ことばとことばで紡がれる知と美の世界を、ここでともに探究していきましょう。



日本文学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

日本文学科では、豊かな人間性と幅広い視野、高度な言語運用能力をもとに諸共同体のリーダー・教育者・創作者等として主体的に社会に貢献できる人の育成を目指しています。自らの力でテキストの精読や実地調査に基づく分析を行い、他者との議論や対話を通して言語文化の探究と創造に取り組む活動に重点をおいた教育を展開します。

このような教育理念・目的に基づき、日本文学科は次のような人を求めています。

- ・高等学校等までの教育課程において確かな国語の力を身につけた人
- ・問いをもって対象に向き合い、論理的に思考し判断する力を鍛えてきた人
- ・知的探究心をもって日本語・日本文学を深く研究していく意欲がある人
- ・文学作品のもつ多様な価値観を柔軟に受け止められる人
- ・読解力・表現力・対話力を活用して協働的に社会に参画する意欲がある人

詳細はこちら



日本文学科の授業

日本語学・日本文学・中国文学・欧米文学と、周辺領域である、民俗学・伝承文学・文芸創作・国語教育学等を専門教育科目とし、専門教育科目に発展的に関連・連携する、学部の特性を活かした学部共通科目、教養教育科目を配置しています。

自らの力で文学や言語についての資料を調査し、読み解き、それをもとに論理的に思考し、言語文化の探究と創造に取り組むために、議論や対話を重視した専門演習を配置します。これら言語文化の探究と創造の成果として、卒業論文・卒業制作を課しています。

豊かな人間性と幅広い視野をもって、高度な言語運用能力を発揮し、他者と議論や対話をおこなうための、少人数双方向教育を実施します。

学科紹介動画はこちら



授業紹介1

日本語表現法
レポーター
福田 穂香
(日本文学科2年)



日本語表現法は、レトリックを中心に、韻やなぞかけなどの言葉遊び、キャラクター語、物語論など、まさに日本語の「表現」に関わることを幅広く学びます。日本語表現と聞くと簡単そうに見えますが、これが意外と難しい。当たり前のように溶け込んでいる日本語表現を読み解くには見方を変えねば気づかないものばかりで、講義中は近くの学生と首をひねりながら問題に取り組みました。

期末には、講義内容に関わる範囲で各自の興味のある分野について好みに探究することができます。例えば、好きな作家が使う比喩表現、童謡に登場するオノマトペ、はたまたアイスやドーナツのネーミングなど学生によって様々です。私は物語論で学んだ「視点」と結び付けて、「ノンフィクション小説は誰が語るのか?」というテーマで発表とレポートを行いました。

正直な話、前半期で一番楽しい授業でした。私たちの周りに何気なく存在している日本語を見つめ直す良い機会になると思います。

授業紹介2

現代語学専門演習
レポーター
皆越 晴日
(日本文学科3年)



日本文学科の専門演習講義では、日本文学やその周辺領域の研究の理論や方法、専門知識を学びます。

現代語学専門演習では、主に方言研究が行われています。この授業では、現代語学の研究に必要なフィールドワークの方法や音声資料の文字化の仕方、データの整理や表現の仕方を学ぶことができます。また、学んだことを活かしながら自身の興味のあることについて調査、発表をします。発表では他の学生からの質問や先生からのアドバイスを通して新しい問題や視点に気づくことができます。

現代語学では、自分が集めたデータから考察をすることが一つの大きな条件になるため、データの集め方や、データの整理の仕方、示し方が大切になります。初めは調査が上手くいかないこともあります。先生からのアドバイスからより有効的な調査方法を知る事ができます。このようなデータの扱い方や論の展開の方法は、仕事をするうえでも役に立つため、将来的に役に立つスキルを身に着けることができることもこの授業の良い点の一つだと考えています。

授業紹介3

日本文学講義Ⅳ
レポーター
大木 悠
(日本文学科4年)



2025年度の「日本文学講義Ⅳ」の講義では、坂口安吾の書いた『明治開化 安吾捕物』シリーズの第一作目と第十一～二十作目までを題材として読みました。担当される原先生が坂口安吾を研究対象とされているため、作品だけではなく作家についても多面的に教えていただけます。坂口安吾の本名は炳五(へいご)であり丙午(ひのえうま)年生まれ(五男であるという意味である、という作家紹介から始まり、ここから丙午年生まれの女性に関するジンクスも教えていただきました。

「捕物帖」というのは、時代小説とミステリーがミックスされたジャンルで、取り上げられたシリーズはその名の通り明治時代の文明開化期を舞台に描かれたものです。「洋行帰り」の探偵・結城新十郎が主人公で、ライバルとしてかの有名な勝海舟が描かれます。ひとつひとつの物語を事前に読んで講義に臨み、講義では語釈や同時代評を確認した上で考察に入っていきます。

また、この講義に限らずですが、原先生の担当される講義ではレジュメをもとに講義が進行していきます。先述しましたが、作家の人間性や他の作家とのつながり、作品の豆知識なども教えてください。楽しみながら知識が増えていきます。先生が楽しそうに語られるので学生側もワクワクしながら話を聞くことが出来ます。

授業紹介4

中世文学ゼミ
レポーター
脇 彩音
(日本文学科4年)



大学は4年間ありますが2年次にはゼミを選択し、3年、4年次にはゼミに所属しながら自分の興味関心のある分野を研究することができます。

中世文学ゼミの場合、3年前期の期間は先生から1ヶ月に一回貸していただいた本を読み、感想文を書きます。自分が興味を持っているものに沿った本を貸していただけるので、前期の間は研究テーマを考えつつ、自分の知識を深める期間になります。この時間があつたからこそ、後期で研究テーマを決める際に納得のいくテーマを見つけられたと思います。

3年次後期が始まると毎回ゼミ生の発表を行います。11月にある研究発表会に向けて、10月はほぼ毎週資料を作成し発表を行いました。その過程は大変でしたが、自身の好きなことを探究し考え続けることが楽しいという思いが大きかったです。また発表後には質疑応答を行い、自身の研究を更に深め、様々な視点から多角的に見直すことができるようになりました。質問は怖いというマイナスのものではなく、他者から意見をもらえるいい機会というふうに捉えることができるようになりました。

大学生は人生の夏休みとよく言われます。この言葉は、自身のやりたいこと学びたいことに挑戦できる貴重な時間を指すものだと私は思います。大学で過ごす4年間は、自分の興味関心のある分野を専門的に学べる大切な時間です。ゼミは、4年間のうちの2年間という長くも感じられる限られた時間の中で、自分の「知りたい」ことを追求し、研究を行える場です。大変ではありますが同時に楽しさを感じ、学ぶということの本質を見つけることができました。

3.考察

ノンフィクションなどの作品は一人称で語られることが多い。しかし、実際の人物の心様がそのままに語られているわけではない。



ノンフィクションの物語化に伴って、物語の外にいた語り手が実在した人物に「成り代わって」語る場合が多くなったのではないだろうか？

私は尾道市立大学で日本語学に出会い、現在、九州大学大学院修士課程2年に在籍して研究を続けています。私は「自分の好きなものは何か、なぜ好きか」を本気で考えて行動してきました。それが今の研究にも生かされています。

例えば、中学1年生の時コカコーラのCMで流れてきた椎名林檎の『長く短い祭』を聞いて、これはすごくカッコいいぞと思いました。なぜカッコいいのか。その曲に「忘るまじ我らの夏を」という歌詞があります。助動詞「まじ」に注目してみましょう。日本語の歴史では「まじ」は平安時代に使われるようになった打消推量・打消意志の助動詞で、室町時代に「まじい」に、そして「まい」という形に変化したと言われています。それでは、『長く短い祭』に出てくる「まじ」は、現代の用例としてどう捉えられるでしょうか。「まじ」は、日常的話し言葉としては使われなくなっています。しかし、私たちは椎名林檎の歌を聞いて、「忘れるな」という意味で使っていることを理解できますし、加えて「古風で、おしゃれ」という要素を受け取ることもできます。

私は日常の話し言葉に使われなくなった言葉に「古風で、おしゃれ／厳めしい／きちんとしているetc.」という要素が付加されて使われることに興味を持ち、他の時代の人もそのような感覚で言葉を使っていたのではないか、それはどのように行われてきたのだろうか、という問いを立てました。それに答えるために、江戸時代の人形浄瑠璃の脚本を主に使いながら、江戸時代の人々が古めかしいと感じる言葉遣いについて考えています。特別な言葉遣いがあることに気づくには、一般的にどうかを知っていなければなりませんし、そのために江戸時代やそれ以前の時代のたくさんの資料

やそこに現れている言葉について学ぶ必要があります。尾道では授業や自主ゼミで、くずし字で書かれた資料を扱うための勉強をしました。そのおかげで今は普段から自分の目的に合わせて古い資料を扱うことができます。一方で、最近はプログラミングを習得し、大量の言語データを組織して、人の目では気づきにくいポイントを探っています。

このように、好きなものがなぜ好きかを考え始めると、他の好きなものとどんどんつながり、新しく好きになるものも増えていきます。それができたら、尾道にいても、九州にいても、どこにいても私は大丈夫だと思います。

九州大学大学院
原 優花
(2024年度卒業生)



私は現在、奈良県天理市にある「なら歴史芸術文化村」という全体が道の駅に登録されている施設で、学芸員として勤務しています。文化村では歴史・芸術、食と農など奈良の多彩な文化に触れることができ、特に「文化財修復・展示棟」では、「歴史的建造物」「考古遺物」「絵画・書跡等」「仏像等彫刻」の、四つの文化財修復工房が通年公開されており、修理作業現場を見学することができます。私は、展示・調査研究などの学芸業務に加え、四つの工房をお客様に案内する「修復工房見学ツアー」も担当しています。お客様との直接的なやり取りは、思いも寄らない気づきを得ることがあり、自分も文化財修理について理解を深められるよう、定期的な知識のアップデートを心がけています。業務に携わる中で、貴重な経験と学びを得る日々を送っています。

在学時から「学芸員」という仕事に興味があった私は、「学芸員資格取得関係科目」を受講していました。講義は座学のみではなく、学年を経るごとに卷子や掛軸の取り扱いなどの実習があり、実践的な学習にも取り組みました。こ



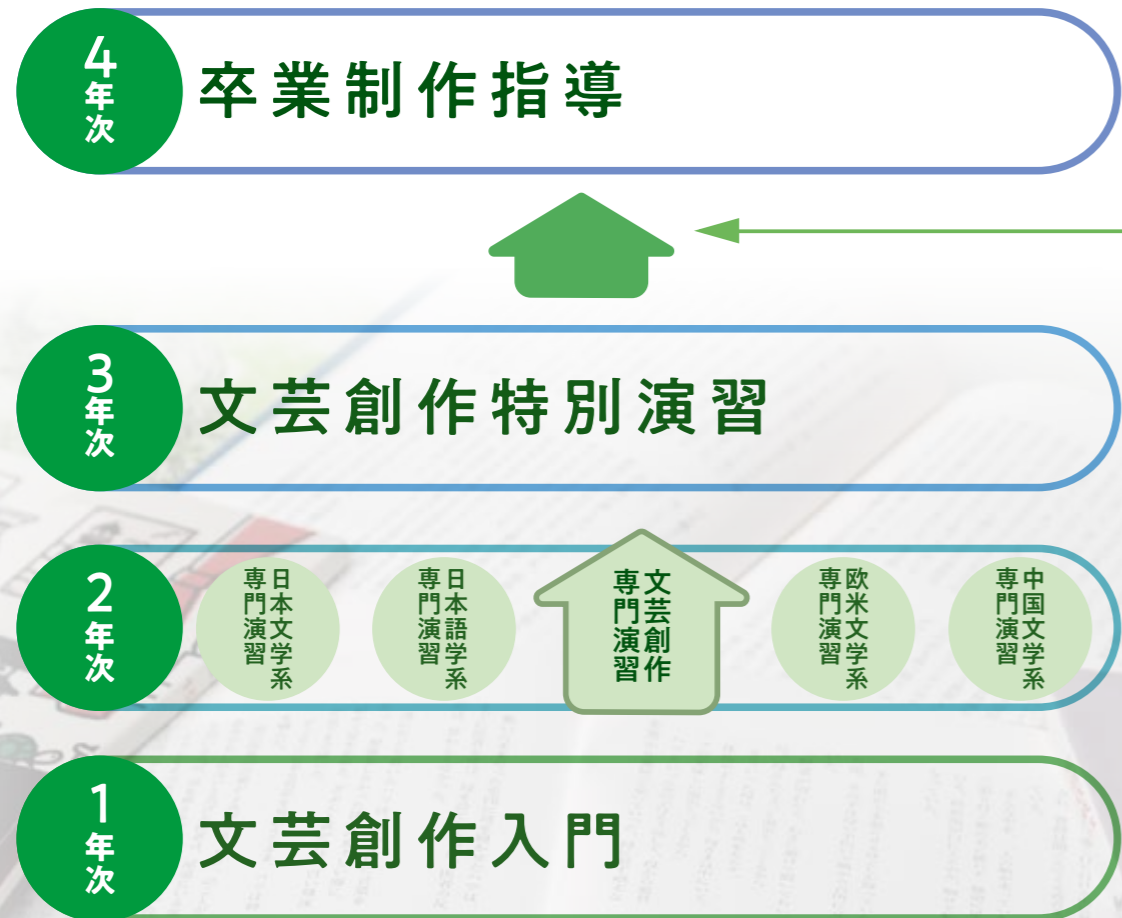
の時の学びが、今も作品の取り扱いや展示作業の場面で活かしていると強く感じています。また、在学時代に多くの文献や資料を手に取りましたが、今でも調査研究において、資料集めは欠かせません。当時の研究発表や意見交換の場で鍛えてきた「経験」が、「今」に繋がっていることをとても嬉しく思います。

これまでを通し、重要だと思うのは「経験を積むこと」です。尾道は「文学のまち」であることも然ることながら、歴史的・文化的な環境が整った素晴らしいまちです。そんな尾道では大学生の今だからこそ、できることが多くあります。大学生活の中で得た経験やご縁は財産となり、将来の自分を形づくってくれるものだと思っています。ぜひ、尾道市立大学で学びを深め、今しかできないことにたくさん挑戦し、大学生活を楽しんでください。

なら歴史芸術文化村
北村 凜
(2024年度卒業生)



尾道市立大学日本文学科には、学生自らが新たな文学作品を創作し卒業制作として提出する〈文芸創作プログラム〉があります。



卒業制作のジャンル等

卒業制作では、主に小説の執筆に取り組む人が多いですが、戯曲を書いて上演したり、オーディオドラマの脚本を書いて制作したり、詩作と批評を組み合わせるなど、形式も様々です。ジャンルもミステリー、SF、ファンタジー、歴史小説、時代小説など多岐にわたり、複数のジャンルを横断するような形でライトノベル要素の強い小説を書き上げる人もいれば、いずれかのジャンルに単純には分類することのできない複雑なモチーフ・テーマを取り上げる人もいます。

文芸創作を志望する人たちの取り組み

4年次

4年次にはこれまでの学びを活かした集大成となる卒業制作に取り組みます。ここでは、ジャンルを問わず最も自身の力を発揮できる創作スタイルで執筆ができます。私は戯曲の形式で、3年次の研究を活かし、人物の魅せ方を工夫した作品に仕上げたいと考えています。

選考について

3年次終了後、創作ゼミに入るための選考が行われます。選考は、希望者が定員の10名を下回る場合でも行われます。3年次までの成績(GPA)、ポートフォリオの学修記録と読書記録、外部の文学賞・コンクールへの応募が主な選考基準となります。1年次からこまめにポートフォリオを記録し、文芸創作に取り組んでおくことが大切です。

選考を通らなかった場合は、3年次に所属していたゼミで4年次も引き続き研究を行います。

3年次

3年次には「文芸創作専門演習」と「文芸創作特別演習」を履修しました。専門演習では描写に注目し、風景・人物描写、ワンシーンの描き方を磨き、自身の構想を一つの物語へとまとめ上げる力を身につけました。また特別演習では、漢詩や児童文学など多彩なジャンルの文芸に挑戦し、創作スタイルの幅を広げることができます。並行して、3年次から始まるゼミでは「伝承文学ゼミ」を選択し、4年次の卒業制作に向けた本格的な研究がスタートしました。『日本霊異記』に登場する「霊鬼」という存在について同作品内に登場する他の鬼との比較や、霊鬼が退治されるというストーリーと併せて、物語内で「霊鬼」の象徴性とは何か作者が意図したものは何かという研究を行いました。

2年次

2年次には専門演習の授業が開講されます。私は「伝承文学専門演習」を履修し、前期は説話集を後期は昔話を扱い、他の文学とは少し異なる成立背景や地域差、民俗学的観点から伝承文学の特性について研究しました。私はサークル活動で戯曲を執筆しており、卒業制作でも脚本を書きたいと考えていたので、専門演習で取り扱った作品の語り方や魅せ方について注目しながら読み解きました。

1年次

1年次には「文芸創作入門」を履修しました。この授業では最終的な成果物として、受講生でグループワークを行い、各グループでテーマを掲げ雑誌を作成します。雑誌作成に向けて各講義では、韻文への挑戦・教科書等の歴史的記述の分析・修辞技法の模倣など、日常的な表現から文芸の文体まで幅広く物語やメディアの「文法」を学ぶことができます。また、毎回、講義内容に沿った課題に取り組み、全体への共有や合評会を行うため、他の受講生の作品やコメントからも多角的な視点を得ることができます。



日本文学科4年
植木 由佳

日本語学



日本語学(現代語)
教授 灰谷 謙二

〇〇方言とか〇〇語とか、いろんな概念で区切られ語られるものを「～ことば」ということがあります。わたしたちが人とまじわり人と生きていく、その切実な生活実感をとまなうとき「ことば」と呼びたくなります。現代語を扱いますが、「今を生きる、生活の中の話しことばと書きことば」の表現であることを置き去りにしないよう心がけています。



日本語学(古典語)
教授 藤本 真理子

今、私たちが話したり書いたりしていることばと、昔の人のことばとは、どこかでつながっているはずなのに、どんなふうに変ってきたのか、分からないことがまだたくさんあります。古い資料の全てが残っているわけではなく、資料の点と点をつないで、歴史や変化の図を描いていくのは、私たちに任されています。他言語や日本の方言など、さまざまなことばの変化をヒントに、皆さんもストーリーを一緒に描いていきませんか。



日本語学(言語学)
講師 高島 彬

なぜ世界には多くの言語があるのか。なぜ「ことば」は世界に1つではいけないのか... その答えは、それぞれの「ことば」にその「ことば」を話す人たちの思考や世界の捉え方が色濃く反映されているからです。「ことば」の研究を通して人間について深く考える。この面白さを多くの学生と共有し、共に探求していきたいと思っています。

学生対談：尾大の日本語学ってどう？



2年生 嶋崎そよ風さん
(北海道・北広島高校出身)

Q：尾大を志望した理由は？

安積：私はもともと中高どっちも国語が得意で。大学も文学部系というか、言葉関連のことが学べる大学に行きたいなと思っていて。高校生の頃は、言葉の移り変わりみたいなものに興味を持っていて、室町から江戸になって現代にみたい、その言葉の使い方がどのように変わってきたのかを学びたいなと思って

て大学を探した時に、一番近いことをされているのが藤本先生だったので、尾道市立大学を目指しました。

嶋崎：私も小学生の頃から国語が好きだったし、中高もずっと得意で。あとは、私は字が書けるようになったくらいからずっと物語を書いて、ノートとかに書くのが好きで。高校までやってたんですけど、せっかくなら大学でも創作に役立つようなことを勉強したいなと思って。文芸創作だとか、それに関連する言葉の使い方とか。こう、修辞法みたいなものも勉強したいなと思って選びました。

Q：実際に入学してみて日本語学の授業で印象に残っていることは？

安積：現代語学の講義で、受講しているみんなが、各々自分の出身地の方言について発表する授業があって、自分とは違う方言を使ってきたことが面白く、その使い方などを知ることができて、こういう言葉があるんだとか、同じ言葉だけど使い方が違うとか、すごい刺激になった授業で、印象に残ってます。

嶋崎：日本語表現法で、私は文芸創作が好きなので、すごく楽しくて。今まで漠然とこう、比喩だとか思ってたものが、具体的に、こういうものだったんだなというのが分かって。自分で書くときも、本を読むときにも。ただ内容を楽しむだけでなく、こういう手法が使われているんだとか考えられるようになって、知ってたはずの世界が鮮明になるような感覚がしました。

Q：それぞれの先生のイメージは？

安積：灰谷先生、一個質問すると百の知識で返ってくる。灰谷先生は広島出身で、ずっと広島の方を研究されているんですけど、私の出身の岡山の方について聞いても答えてくださるのがすごいなと思ってます。

嶋崎：もちろん知識の深さもあるけど、経験の深さというか、いつもニコニコしていて懐の深い感じ。

安積：藤本先生も質問したら答えてくださるんですけど、全部教えてくれるんじゃないかと、なんかその一歩手前までという

か、核心的なことは自分で気づけるように、サポートしてくれる先生。古典語なんで、資料の大切さ、こういう資料からこういうことが読み取れるみたいなことをわかりやすく教えてくれる。語学の先生なので言語化がすごい上手になって。

嶋崎：発表の前にグループごとで、授業外にも時間をとって相談のってくださる。レポートの書き方とかも詳しく教えてくださったりして。すごく安心感がある。よく見てくださってる方だということ印象です。

嶋崎：高島先生の授業は、知らない世界を見せてくれるというより、なんか見えてたはずのものをこういうことだったんだってわかるみたいなことが多かった。

安積：各授業で疑問に思ったことを授業後のコメントシートに書いたら、先生からのコメントで、例えば、こういうのに興味があるんだしたら、語用論とかにつながってくるから... みたいな。一個の疑問から、点と点をつなげるように、サポートして下さる先生。



3年生 安積 遥香さん
(岡山県・就実高校出身)

高校生へのメッセージ！

安積：言葉の勉強をしたいんだしたら、まず日常の中で使われている会話とかに意識を向けてみると、意外とえっこれってどういうことなんだらうとか、こっつて人と違うなところか意外とわかりやすく見えるので、ちょっと意識してみたいなと思って思います。

嶋崎：生まれた時から日本に住んでるから、日本語を別に深く考えなくても話せちゃうし、書けちゃうので、日常的には困らないけど、よく考えたら、これってどうなってるんだらうとか、なんか変じゃない？って思うときは、一生の中にいっぱいあると思う。そういう小さなことから、あれ？って思う癖をつけたら楽しくなるかなって思います。

ヤラセナシ!!

ゼミ生に

〇〇文学とは？

中古文学



教授
宮谷 聡美

平安時代に成立した文学。
源氏物語、枕草子、土佐日記など様々な種類の
作品が盛んに執筆された。

中世文学



教授
藤川 功和

戦乱の中紡がれた新たな価値観と、煌びやかな
生活だけではない日本の姿を描いた文学。
探してみると、世に知られていない作品がたくさん
出てきて楽しいです。

近世文学



准教授
吉田 宰

主に江戸時代の近世小説を取り扱い、本草学、出版
文化なども考察対象とする文学です。

聞いてみた

〇〇ゼミの雰囲気は？



ゼミ生との食事会

ふわふわと柔らかな
雰囲気です。話し
やすい人ばかりで、
研究の話も日常の話
も盛り上がります。

ゼミ生一人一人が意
欲をもち、主体的に
研究を進める姿勢が
大切になってくるゼ
ミです。



中世ゼミ生卒業論文提出の一コマ

穏やかな雰囲気です。学生
のペースに合わせて研究を
進めることができます。

歌川豊広画

(雪中恵比寿美人相合傘)

(吉田架蔵本)



〇〇先生はどんな人？

温かくて優しい先生です。研究に
まっすぐな意見をしてくださり、
相談にも向き合ってください先生
です。

他ゼミを勧められることもありま
すが、学生一人ひとりの関心に
寄り添ってくださる温かい先生
です。

とても優しく朗らかな
先生です。学生ひとり
ひとりに真摯に向き
合ってくださいます。



教授
柴 市郎

私の専門領域は日本近代文学です。明治時代から昭和期までの文学を主要な研究対象としています。作家で言えば、夏目漱石や小林秀雄といった文学者たちが対象です。さらに現在は、映画など活字メディア以外の分野についても考察しています。

近年、文学研究の世界は多様化し、学会の研究誌にも、アニメーションなどのサブ・カルチャーや映画に関する研究論文が掲載される時代になりました。

こうした新たな文学研究の動向にも配慮し、多様なジャンルの表現にも視野を広げてもらえるよう、講義・演習をおこなっています。



近 現
明 大
治 正

代 文 学
昭 平 令
和 成 和



【ゼミ風景】 人数：6名

卒業論文のテーマ：夢野久作、谷崎潤一郎、新見南吉、宮沢賢治、太宰治、江戸川乱歩

【授業】

前期：「日本の文学」、「日本文学史」、「近現代文学専門演習」、「卒業論文（構想・準備）」など

後期：「日本文学講読」、「日本文学講義」、「近現代文学専門演習」、

「卒業論文（制作）」など

【著書&編集協力】

『坂口安吾 歴史を探偵すること』（双文社出版 二〇一三年）

【研究対象】

坂口安吾・太宰治など／歴史時代小説／カストリ雑誌



「坂口安吾大事典」



「田中英光事典」





教授
鷹橋 明久

中国文学



日本文化は長い歴史の中で多彩な地域の影響を受けて形成されてきましたが、中でも中国文化は漢字や思想、芸術様式などを通じて、日本の文化や文学に深遠な影響を与えてきました。私は特に、魏晉南北朝の詩文に専門的関心を寄せ、この時代に生まれた文学的革新や美意識が、どのように日本の和歌や物語文学に創造的影響を及ぼしたかを探究してまいりました。

私が注目しているのは、魏晉南北朝文学における「言志」の伝統や「玄学の世界観」、さらには「山水文学」の萌芽が、日本で独自に咀嚼され、文化的アイデンティティの核として根付いていく過程です。例えば、建安文学の情感表現や竹林七賢の清談思想、陶淵明の田園詩に見られる隠逸の美学などが、日本の貴族文化や隠棲文学に与えた示唆は計り知れず、そこから日本文学が独自の美学を育てていくダイナミズムには、文化交流の創造的可能性が凝縮されています。

現代社会では、世界中の文化や情報が瞬時に触れられる一方で、魏晉南北朝という中国文学の変革期が培った知的冒険精神や美意識に親しむ機会が減少しがちです。しかし、この時代の書法や文人思想を継承した芸術実践を通じて古典の精神を受け継ぎ、現代的感性で新たな表現を模索する人々も着実に増加しています。私の授業や研究においても、魏晉南北朝の詩文の精読にとどまらず、政治的分裂と文化的統合の時代背景、儒教・道教・仏教の思想的交錯、東アジア諸国への文化伝播など、重層的な視座から文学を読み解くことを重視しています。

このような多元的視点から魏晉南北朝文学に向き合うと、「文」と「質」の相克、個性的表現の勃興、士人意識の変容など、激動期ならではの文学的営みが浮かび上がってきます。この理解は、多様な価値観が交錯するグローバル社会において、異文化への深い洞察力和柔軟な思考を育む貴重な基盤となるでしょう。

皆さんと共に、阮籍や陸機、陶淵明、鮑照や謝靈運といった文人たちが魂を込めて紡いだ作品の魅力や、そこに宿る普遍的思想を共有し、新たな気づきと創造の源泉としたと願っています。魏晉南北朝の詩文が今日に伝える言葉の深み、表現の妙、そして士人たちの精神世界を、授業を通して一緒に探求していきましょう。そこに見出される美意識や思想は、現代を生きる私たちに新たな発見と示唆をもたらしてくれるはずです。



教授
藤井 佐美

民俗学・伝承文学

隣接領域である文学と民俗学に注目しながら、日本の伝承、文化を研究しています。個人的には、学侶が唱導に用いた昔話や伝説などの口伝世界を研究対象とし、地域の文化調査も進めています。まったく別世界に思われる分野が自然に結びついたとき、日本文化の奥深さを実感すると同時に伝承の世界が少しずつ身近になります。ゼミには好奇心旺盛な学生たちが集まり、バラエティに富む調査・研究を楽しんでいます。

2025年度
民俗学・伝承文学ゼミ



国語科教育法Ⅱでの模擬授業風景

国語教育学



教授
山田 和夫

「国語教育学」と聞いて、高校生までに授業を受けてきた経験から、なんとなく読み書きの力を高める方法を考える学問というイメージがあるかもしれません。確かにそれは間違いではありません。しかし、「国語教育学」の射程はもっと広く、国語科における教育の方法、読む・書く・話す・聞くという行為のメカニズムの解明、そもそも「国語」とは何かということを考える、など、扱う対象が多岐にわたります。つまり、子供たちの「言葉の力」を高めることに関することであれば、なんでも扱う学問であるということが出来ます。多様な領域を扱うがゆえに他の学問領域を意識しながら＝多様な人々と関わりながら、研究を進めていくことになります。

私自身は、「国語教育学」のうち、文学研究と子供たちの「言葉の力」の成長とをつなぐ側面に重点を置いて研究しています。多様な人と関わりながら、子供たちの「言葉の力」を高めていくことのできる人材を育てていきたいと思っています。



哲学・倫理学



講師
島田 喜行

「哲学・倫理学?」「興味はあるけど難しそう。」このようなイメージを抱くのも仕方ないのかもしれませんが。というのも、「哲学」とは何か、という問いにたいして、ビシッと明快に答えることはとても難しいからです。そもそも哲学は学問なのか。倫理(学)や道徳と違うのか。もし違うのなら、どこがどう違うのか。こうした問いはどれも、哲学者や研究者の間でも答え(意見)が色々できそうな難問です。わたくしもまだ最終的な答えを見つけられていません。

最終的な答えは提示できません。しかし、どんな哲学・倫理学にもあてはまる(とわたくしが考えている)ことなら提示できます。それは、哲学・倫理学が「世界-私-他者」について、その「在り方-生き方-関わり方」をめぐって、じつに多彩な思索を積み重ねてきた、ということです。この広大な思索のなかには、みなさんが知りたいと願うことの一答えではなく—手がかりがきつとあります。みなさん、自分が本当に知りたいと思うことの手がかりを見つける知的な探究を始めてみませんか。

欧米文学



教授
小畑 拓也

20世紀中頃以降のアメリカのSF (science fiction/speculative fiction)の研究を出発点として、文化研究 (cultural studies)の立場から、娯楽として消費されるステレオタイプ化したイメージ(ロボット、異星人、モンスターなど)の分析・再解釈を通じて、差別／排除を正当化しようとする「毒になる物語」への解毒剤を提供することを目指して、試行錯誤を続けています。

「欧米文学概論」・「欧米文学講義」・「比較文学」の講義科目では、「文学」との関わり方を「趣味・消費」から「研究・再生産」へと切り替えてゆく上で必要となる、専門用語の提示・解説に注力しています。演習科目の「欧米文学専門演習」では、情報収集と分析の訓練を外国語資料の読解を通じて積んでもらうことにしています。



英語



教授
高垣 俊之

私は主に2・3年生を対象に英語を教えています。学生の皆さんの中には、大学に入ってから英語を勉強しなければならないのかと溜息をつく人がいるかもしれません。しかし、洋の東西を問わず、有名な作家や知識人の多くは外国語学習あるいは外国生活を通して言語観や表現技能を高めていったと思われる節があります。皆さんにも意欲的に英語と格闘してもらい、母語と外国語の言語能力に磨きをかけてもらいたいと願っています。

研究面では、英語の習得と使用に関する諸問題をマルチリンガリズムの枠組みの中で考えています。研究成果としては以下のようなものがあります。

- ・『新装版：カナダの継承語教育—多文化・多言語主義をめざして』(2020) 共訳、明石書店
- ・『英語デトックス—世界は英語だけじゃない』(2016) 分担執筆、くろしお出版
- ・『英語の習得と使用—バイリンガリズムの視点から』(2014) 単著、溪水社



教授
平山 直樹

私の専門分野は英語学で、15世紀イギリスの名家であるパストン家の人々が生きた日常の手紙や法的文書などの英語を研究しています。書き手が自分の考えを表す時に使うI thinkや、相手をお願いする時に使うI pray youが、文の最初、内部、文末で使われる場合に、それぞれどのような意味を持っているかを明らかにするために、手紙の送り手と受け手の社会的な関係や、日常の手紙なのか契約書なのかという文書の形式の違いなどに着目して調べてきました。

授業は教養教育科目の英語を担当しています。TOEIC対策の授業ではテスト対策をするだけでなく、ビジネスや日常の場面で使う英語の基礎力を身につけることを目指します。また、読解演習を中心とした授業

では、文構造や談話構造、更には英語と日本語の事態に対する認知方法の違いにも留意して解釈をする練習を繰り返します。これにより、辞書と読解方略を組み合わせることで英文を正しく読み、授業後も自己学習を進められる力を身につけることを目指します。



オックスフォード大学、モードリン・カレッジ
(右側の棟が特徴的)

尾道逍遙

おのみち文化スタディ



新入生と上級生・教員と一緒に街歩きをして、尾道の歴史と文化を学ぶ教育プログラムです。
グループに分かれて尾道市内を散策し、実地踏査で得た情報をもとに、報告会でグループ発表をします。

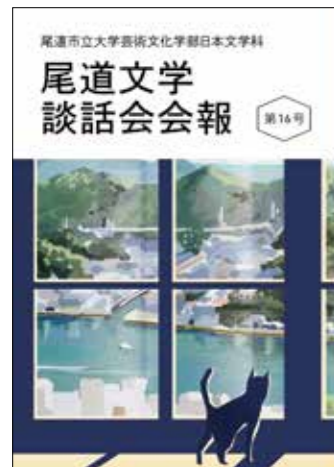
聖地巡礼

フィールドワーク



日本文学科専門教育科目の一つで、三年次以降に履修する科目です。授業の目的は、日本文学研究と文芸創作に結びつく**実地踏査**をおこない、机上の学習では得られない資料収集や調査研究能力を養うことです。また、事前学修と事後学修と
おして、企画立案能力と報告能力を身につけながら、歴史学・民俗学・日本語学および日本文学等の点からも広く日本文化について学ぶこともねらいとしています。

尾道文学談話会



尾道文学談話会会報 第16号表紙デザイン
美術学科2025年度卒業生 竹邊 沙彩さん

日本文学科を中心とする本学の教員が文学や言葉にかかわるさまざまな話題を提供し、地域の方々と大学の外で語り合う形式の公開講座です。ここでの成果は毎年『尾道文学談話会会報』にまとめられており、会誌の内容はインターネットでもご覧いただけます。



会報第16号はこちら

2026年度・尾道文学談話会 (全6回)

- 第1回 『『遠野物語』の座敷童子伝承を読む』
藤井 佐美 (日本文学科教授)
- 第2回 『『遠野物語』の河童伝承を読む』
藤井 佐美 (日本文学科教授)
- 第3回 「小説の中の英会話」
高垣 俊之 (日本文学科教授)
- 第4回 「高等学校国語教科書に収められている漢詩について」
山田 和太 (日本文学科教授)
- 第5回 「『人生の書』としての哲学
一生というミステリーあるいは人間性の探究のために」
島田 喜行 (日本文学科講師)
- 第6回 『『豊臣兄弟!』外伝!?!—正解は半年後—』
藤川 功和 (日本文学科教授)

虚構研究会



虚構研究会

虚構研究会は人文学・芸術分野の様々な事象について情報共有・意見交換を行う場です。文字を媒体とした文学ジャンルはもちろん、視覚映像・音声・空間、さらにはそれらが複合するものも含めたあらゆるメディア上の虚構・物語・表現を、研究・考察の対象にしています。

これまでに、参加者が推薦するマンガや小説を取り上げた読書会、海外アニメや映画を分析的に見るための鑑賞会、特定のビデオゲームについて考察する討論会、好きな楽曲を挙げて音楽的な視野を広げてゆく会、ジャンルを問わず自分自身が影響を受けたものについてゆるりと語り合う会などを行ってきました。

人間が認識している世界(現実)は、人間が五感を通して得た情報をすべて人間に把握可能な形に再構成し、書き直した「虚構」です。私たちを取り巻く「現実」という「虚構」と一緒に読み解いてゆきましょう。(小畑 拓也 研究室)

高橋新太郎文庫

近代文学研究者、学習院女子大学元教授・高橋新太郎氏(昭和7~平成15)は、貴重な資料を含む膨大な蔵書を残されました。現在、日本文学科では、資料の整理、資料の展示会開催、データベース化作業に取り組んでいます。

2025年に開催された「オープンキャンパス」での展示



伝承文化研究会



探訪地でのひととき

村上海賊ミュージアム
特別展示の様子

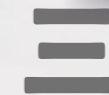
日本の様々な伝承世界について、文献調査やフィールドワークから研究しています。祭を追いかけてたり縁起物を探したり、民話の探訪、古文書の活字化やデータベース化なども進めながら、後世に伝える方法を模索中です。くずし字から読み解いた『ばけ物三十六歌仙』の研究成果は『尾道文学談話会会報』第12号に掲載し、所蔵される村上海賊ミュージアムの特別展示や本学でもパネル展示をおこないました。これからも日本の多様な文化を楽しみながら伝えていきます。(藤井佐美研究室)

日本文学科主催公開講演会

公開講演会では、講談師の旭堂南海さんをお招きし、講談「神崎与五郎の東下り」をお読みいただきました。一般来場の方とともに話芸の魅力を堪能しました。

神崎与五郎の東下り
旭堂 南海 氏(講談師)





おののち



4年生
島袋 涼

沖縄では、「ご飯食べたの?」が「ご飯食べたば?」となるなど、文末に「ば」を置いて疑問を表すことがあります。私はこの文末詞「ば」の意味や用法、共通語との対応について考察しました。文学三昧では、他分野の先生方からご質問やご意見をいただき、自身の研究を新たな視点から見直す貴重な機会となりました。



4年生
上田 萌生

室町時代後期の公卿三条西実隆による独吟連歌作品『文明十九年六月二十五日 北野社御法楽 賦唐何連歌百韻』は応仁の乱の十年後に張行された連歌会で詠まれたものです。自身で翻刻した本文をもとに、その連歌表現を探るべく研究発表に取り組みました。



4年生
金光 七穂

近世の百物語作品の中で足のない幽霊が登場するのは『太平百物語』が始めであることから、『太平百物語』の幽霊話に注目して『伽婢子』などの他作品の幽霊話とも比較を行いながら幽霊の特徴について発表しました。発表を通して貴重なご意見やご指摘をいただいたことで、自身の研究を見つめ直す機会にもなりました。



4年生
宮元 望

夢野久作「死後の恋」における独白の語り手と受け手に注目し、史実のロシア皇女伝説と物語の登場人物を照らし合わせながら研究発表を行いました。発表を通して貴重なご指摘やご意見をいただいたため、とてもよい機会になりました！ただグロイだけじゃない。その魅力を追い求めて私は研究する。

卒業論文の階梯（2025年度卒業生 森 俊介さんの場合）

タイトル：『円明寺関白集』の撰歌と配列

1. 卒業論文の内容 — 鎌倉中期の公卿・一条実経の家集『円明寺関白集』を取り上げ、その撰歌や配列について考えました。生前の勅撰集入集歌を撰んでいないことや、老いや死を詠んだ和歌が散見することを確認しました。また、家集末尾を神祇・釈教歌が飾る配列などに注目し、悟りを読み取りました。

2. 完成までの学修の履歴

1年生

基礎演習

2年生

専門演習

3年生

発表会(11月)

4年生

ゼミ

発表会(10月)

演習やゼミ等を通じて少しずつ研究の方法や論文執筆の基盤を固めていきます。また、講義を受けたり、自分で本や論文を読んだりして学びます。

3. 卒業論文を書くということ — 卒業論文の執筆に際しては、何を研究対象とするか？ どのような研究方法を取るか？ など度々選択を迫られます。そしてその選択には適宜理由が求められます。場合によっては再考することもあります。研究対象・方法が固まると、分析・考察を進めることとなりますが、これも吟味・再考の連続です。何度も調べ、考え、書き、また調べ直し、考え直し、書き直し……を繰り返してようやく卒業論文は完成します。さらに、完成してもなお、調べ、考えるべきこと、書き残したことがあると感じます。卒業論文を書くということは、ネットで検索したりAIに聞いたりして簡単に得られる類とは異なる答えを探すことではないかと思えます。



卒業論文

2025年度卒業論文・卒業制作・修士論文

●文芸創作領域	<ul style="list-style-type: none"> ●実録 卒業制作怪談 ●借別の日 ●水月 ●黒の王子 ●成物地方異形民話録
●日本語学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●「ノム」と「酒」の結びつきに関する考察 ●静岡市方言における「テ＋補助動詞」形式の試みの表現についての研究 ●現代短歌における非定型性についての研究—初谷むい作品を中心に— ●広島方言におけるアスペクトをとみなわない「～テデス」形式についての研究 ●神輿のかけ声についての研究
●日本古典文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●和歌説話に付された役割と、その伝承過程を考える—村上天皇「あふさかも」歌説話収録作品を中心に— ●歌集における菅原道真—勅撰集を中心に— ●「白玉か」歌について—他の歌集と比較して— ●歌人「伊勢」の和歌について—「花の鏡」と「憂し」に着目して— ●「和泉式部日記」における独自性について—「つれづれのなぐさめ」と「南院入り」に注目して— ●「伊勢物語」第六段の役割について—二条の後章段に注目して— ●「伊勢物語」における友情—他の歌物語と比較して— ●「源氏物語」明石の君の母としての造形—紫の上との比較から— ●「ふせやものがたり」の和歌研究—慶應義塾図書館蔵本と万治二年本の比較考察— ●「雲隠六帖」における紫上の人物像と独自の展開の関わり—匂宮の即位と浮舟の還俗に注目して— ●「円明寺関白集」の撰歌と配列 ●「小倉山莊百人一首管註」の研究—注釈や末尾の引用に注目して— ●近松門左衛門「女殺油地獄」における「義理」 ●「南総里見八犬伝」における人物造型とその要因—大江親兵衛と犬山道節を中心に—
●日本近現代文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●江戸川乱歩「押絵と旅する男」論—お七と兄の恋を読み解く— ●宮沢賢治「双子の星」論—物語と星々— ●太宰治「人間失格」論—〈怒り〉に見る大庭葉蔵の《抵抗》— ●志賀直哉「クローディアスの日記」論—〈想い〉と二つの心がみせる志賀作品への系譜— ●織田作之助「天衣無縫」論—主人公の人物像と読者の理解— ●泉鏡花「外科室」論—制度化されゆく医療と個人の感情の葛藤— ●太宰治「斜陽」論—蛇と重なる（道徳革命）— ●浦沢直樹「MONSTER」論—生きた証と名前— ●芝木好子「洲崎パラダイス」における〈生きることへの積極性〉—徳子の〈忠告〉と〈諦め〉が照らし出すもの— ●まふまふの歌詞における表現特性—歌詞「大人」と、作曲者の大人観の変化について— ●宮澤賢治「やまなし」物語を映す「幻燈」の効果—「雪渡り」との比較を通して— ●白井カイウ「約束のネバーランド」論—棲み分けの模索とその背景について— ●今村昌弘「屍人荘の殺人」原作から映画への表現分析—音と映像が織りなす物語の再構築— ●漫画「チ。—地球の運動について—」論—フィクションとノンフィクションの交錯 ●萩原朔太郎「月に吠える」における身体性について—人称代名詞の推移に注目して—
●中国文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●東方朔の神仙化の過程について ●李益の人物像をめぐる矛盾—詩作品と歴史書記述の対比から—
●民俗学・伝承文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●雷除けのまじないの特異性—文学作品における記述の分析を通して— ●浦崎神楽の起源と松永湾周辺の神楽における継承—令和六年度～七年度調査報告— ●竹原市忠海祇園祭みこし行事とその意味—少子化社会における変容と再構築— ●東広島市における菖蒲前伝説の受容と継承—地域学習による伝承— ●愛媛県南予地方に分布する御霊信仰の研究—和霊信仰を巡る和霊騒動を中心に— ●枕飯・枕団子の役割—死穢の回避— ●島根県に和歌と共に残る伝説等の人物を見て—県民のらしさと特徴—
●国語教育学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●挿絵が読みに与える影響について—教科書会社別挿絵の比較を通して— ●高等学校国語科における創作学習の評価を考える—パフォーマンス課題「大きな創作学習」の考案— ●他者とのコミュニケーションを図る力を高めるための授業について—パフォーマンス課題について考える—
●欧米文学・比較文学領域	<ul style="list-style-type: none"> ●日本における「不思議の国のアリス」の受容と「かわいい」文化

Art & Design

確かな造形力
表現を磨く。

表現する意欲
感覚を開放する。

メディアの有効利用
美しく伝達する。



芸術文化学部 **美術学科**



美術学科長
小野 環

21世紀の始まりと同時に本学美術学科が設置され、四半世紀が経ちました。その間、時代の変化とともに価値観も変容し、学科の教育体制も更新を続けてきました。現在、個の表現を探究する「制作」を軸としながらも、自らの活動を社会へ発信し、地域や他者と対話する力を養うことも重要な学びの柱となっています。

専門分野の技術や知識を習得することはもちろんですが、志を持つ人々が集い、相互に刺激を受けながら成長していく大学は、独自の磁場を持った「場所」です。底なしの情報ネットワークの中、さまざまな物事を体験する前に知ることができてしまう時代であるからこそ、逆に、実技を軸とする美術の領域においては、制作現場やフィールドに身を置くことが極めて重要です。そこでの実験の積み重ね、他者や物との対話が感覚と思考を刺激し、各自の固有な体験に根ざした表現者としての「礎」を見出していくことにつながると考えます。

瀬戸内海に面し、独自の景観や歴史的背景を持つ尾道は、コンパクトながら創作活動のフィールドとして大きな可能性を秘めています。皆さんには、この環境を活かし、多様な人々や出来事と出会いながら、自らを育ててほしいと願っています。自身の未知の可能性を信じ、美術で培った創造性ととも社会へ踏み出していける。私たちは、そんな人の育成を目指しています。



学科紹介動画はこちら



美術学科の入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー) 教育の理念・目的と求める学生像

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、高等学校までの学習を通して培った理解力と思考力、美術の表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- ・豊かな発想や色感を持ち、構成力、描写力などの基礎的な造形力を持つ人
- ・本学で学修を進めるために必要な基本的な知識、理解力を持つ人
- ・自らの問題意識にしたがって考え、客観的な視点を持つ意欲のある人
- ・自らの感覚や思考を、美術表現や言葉によって他者に伝える意欲のある人
- ・主体性を持って学ぶ姿勢を持ち、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- ・将来的なビジョンを持ち、自らの創造性を高める意欲のある人

体験を踏まえて2年次からコースを選択

1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題(構成実習/日本画・油画・デザイン)を体験します。その後、各自志望コースの課題(総合基礎実習/日本画・油画・デザイン)を選択し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコース(日本画・油画・デザイン)に分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士(美術)」を授与します。

- ・美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。
- ・広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。
- ・美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

選択コース(日本画コース・油画コース・デザインコース)

1年次	デッサン基礎実習・彫刻実習・構成実習(平面・立体) 総合基礎実習(日本画・油画・デザイン)		
	1年次後期にコース選択 2年次にコース確定		
2年次	日本画コース	油画コース	デザインコース
	課題制作 自由制作 スケッチ旅行 動物スケッチ 人体デッサン	フィールドワーク オムニバス授業 ゼミ 展示演習 スタジオ実践 進級制作	各領域から課題を出題 グラフィックデザイン アニメーション イラストレーション 映像デザイン 環境デザイン クラフトデザイン
3年次	課題制作 自由制作 人体デッサン	オムニバス授業 ゼミ スタジオ実践	専門領域の課題 領域間のコラボレーション課題
	古美術研究演習		
	自由制作	進級制作	地域プレゼンテーション (展示発表会)
4年次	課題制作 自由制作 人体デッサン 卒業制作	スタジオ実践 研究会 ゼミ 卒業制作	自主研究制作 卒業制作
	大学院 専門領域の制作および研究 (より専門的な制作や研究を行う機関として大学院が設置されています)		

尾道から外部へと発信

美術学科では、尾道という「場」で制作活動を行うことの可能性を最大限に活かすことを模索しています。

大学のある久山田水源地近くの静謐な環境は、個に集中し制作に打ち込むのに適しています。

また、大学近隣の豊かな自然や尾道の街並みは、多くのインスピレーションを与えてくれることでしょう。実際に、その豊かな自然環境や風景を活かした制作や、尾道の街中を実践の場とする展覧会、イベント参加等の活動、産学連携のプロジェクトや市民団体とのコラボレーション等も活発化してきています。

今後、これらの活動が一層充実し、ここでなければ創れない独自の価値を外部に発信していくことを目標としています。

充実した制作環境

美術学科には、日本画、油画、デザインそれぞれの領域の制作に適したアトリエがあります。学生たちは潤沢なスペースでじっくりと専門の制作に取り組むことができます。

それ以外に、大人数での実習に適した大空間を持つ石膏室や、各種工房施設があります（CG、写真、彫刻、金工、木工、塗装、陶芸、版画）。各工房ではそれぞれの素材についての専門的な技術を学ぶことができます。また、学生個々の自主制作でコースの垣根を越えて工房施設を活用することができます。



CG実習室

Mac mini 20台と色彩確認に優れたモニターを常設した実習室です。レーザープリンター、大判プロッター、3Dプリンター、製本機、レーザーカッターなどを設置。グラフィックデザインを制作したり、映像編集することに特化した充実した設備です。



写真スタジオ

4Kビデオカメラやデジタル一眼カメラ、照明設備、録音設備などが揃った撮影・録音スタジオ。デジタルに対応した機材を導入し、撮影技術を学びます。制作した作品を撮影することもできるなど、多様な利用が可能な工房です。



彫刻実習室

2つの教室と屋根付きテラスに加え、広々とした屋外制作スペースがあります。屋内では彫塑や造形制作を、屋外では石彫などを行います。自由素材の研究の場としての利用も可能です。



塗装実習室

各種スプレー塗装に対応した大型水洗ブース、乾燥炉はもとより、漆塗りのための塗部屋、漆室を新たに備え、塗装環境をさらに充実させています。



金工実習室

金属加工の機材が充実しており、天井高のある作業スペースで音も気にせず没頭して造形制作を行うことができます。樹脂を使うなど金属以外の素材による大きめの造形制作も可能です。



陶芸実習室

陶芸用電気釜2基、電動ろくろ10台を備えており、器からオブジェまで、幅広い制作が可能になっています。



木工実習室

大型木材加工用の機材が揃っている機械室と、作業スペースで構成されています。器、家具、オブジェ、絵画のためのパネルや額作りなど、木質素材をベースとした多目的な利用が可能です。



版画実習室

銅版画、木版画、リトグラフ、シルクスクリーンの4版種すべてに対応可能な充実した工房です。特に大型銅版画用プレス機は、西日本の美術系大学でも最大級の機材を設置しています。



施設の様子を

Google ストリートビューでご覧になれます



日本画コースは、基本的な造形感覚、材料技法を習得し、現代の作家として個性豊かに創造し表現できることを目指しています。これからの作家活動や美術に携わる者として、最も重要な核となる内容の教育を行います。

日本画実習Ⅰ(2年次)

植物、静物、動物、風景、人物等を対象として幅広く課題を設定し、日本画材料の特性を学び、個性を活かしながら表現力を育成します。自らの絵画観をもとに自由な発想で画面に向かう意識を育てます。また箔や裏打ち技法の特別講習を行い、表現の可能性を学びます。

日本画実習Ⅱ(3年次)

個々の自由なテーマでの制作に取り組み、個性的な表現世界の発展を目指します。古典作品の模写を課して、色彩や空間に対する認識を一層深めます。また古美術研究演習では、事前学習を踏まえ京都・奈良を訪れます。

日本画実習Ⅲ(4年次)

今まで培った表現を前提に自由なテーマをより主観的に咀嚼し、研究制作を続け、より高度な創造表現を目指します。また直接作品に触れることを目的として美術館などを訪れ、美の本質に根ざした表現を模索させ感性を育てます。4年間の研究成果として卒業制作展を地域社会に向けて発表します。



森雅治 〈冬ざれ〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠、箔 181.8×227.3cm



児玉萌々果 4年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



板垣真子 3年次風景制作 麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



市口奈奈 2年次動物制作 麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



高蒼治 2年次風景制作 麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



児玉萌々果 〈ときめき〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠 181.8×227.3cm



齋藤小雪
2年次絹本制作
絵絹、岩絵具、膠
65.2×53cm



梶原楓
1年次ユリ制作
麻紙、岩絵具、膠
65.2×53cm



小林蓮姫 3年次自由制作
麻紙、岩絵具、膠、箔 116.7×80.3cm



田上結芽 3年次風景制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



家永彩花 2年次動物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



松本さと 2年次静物制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



石川菜摘 3年次風景制作 麻紙、岩絵具、膠 72.7×116.7cm



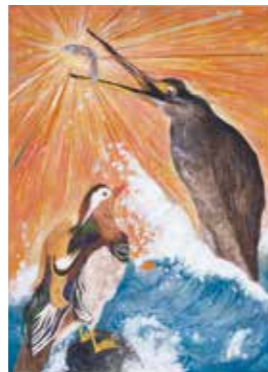
竹村花菜 3年次古典模写制作
美濃紙、岩絵具、膠 23×23.6cm



桑柚希 4年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 112×162cm



板垣真子 3年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠 91×116.7cm



池田希輝 1年次剥製制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



東海林春希 1年次剥製制作
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



田所三和 3年次人物制作
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



齋藤小雪 2年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠 91×116.7cm



大学院美術研究科日本画専攻2年
上野 ひろ

私は「モチーフと模様融合」をテーマに、あたたかくまどろむような画面を目指して制作しています。

学部では課題に追われる日々の中で、感覚的にたどり着いた表現も多くありましたが、その過程で自分の好きなものや描きたいものに向き合うようになりました。描く人物には常に自身の感情を重ねています。その感情が鑑賞者に追体験されるならば、それは作品としてひとつの答えなのではないかと考えています。卒業制作では、憂いを含みながらも上を向く人物像を描きました。首が伸びるような緊張感の中に、痛みや悲しさだけでなく、大切なものへ思いを馳せる切なさや愛しさ、そして希望の気配を込めました。

修士課程では制作の自由度が広がり、公募展やグループ展を通して自ら作品を展示する機会も増えました。額装し照明の下に置かれた作品と向き合う経験は、自身の努力を実感させると共に身の引き締まる思いを与えてくれます。専門的な学びの中で制作を言語化しながら、自分にとって宝物となるような作品を追求しています。



〈ペンギン〉
91×116.7cm
3年次動物制作
2022

水面と水中という二つの領域を描き、それぞれ異なる質感や画材表現を追求しました。



〈無数の星へ〉
227.3×162cm
卒業制作
2025

小型プラネタリウムの光をイメージし、無数の星に包まれるような空間を目指しました。



〈テーブルのなか〉
130.3×194cm
後期自由制作
2026

モチーフと人物を、まどろむような空気の中で模様と織り交ぜながら描きました。



油画コースは、絵画表現を軸に、各自が創作と生きることの可能性を主体的に追求していく姿勢を培うことを目標としています。

個々の制作の場を起点に、多様な学びや対話機会を作り出すことで、自己の興味・関心を模索し、課題を立て、自ら取り組む姿勢を養うと同時に、制作の場を共有することによって相互刺激の場を創り出します。

油画実習Ⅰ（2年次）

個々の学生が自身の資質を発掘し、表現の可能性を見出す機会として、各担当教員の視座を反映した多彩な実習やゼミ、およびスタジオ実践を並行して行なっていきます。また、同級生や他学年、教員、ゲストスピーカーとの意見交換を通じ、自身の考えを自覚的に発展させていく場も作り出します。

油画実習Ⅱ（3年次）

3年次では自身の表現内容を模索すると同時に、個々の表現にふさわしい形式、描画材料も実験しながら、制作を行っていきます。後期最後の進級制作ではその試みを大学美術館で展示します。また、古美術研究は作品鑑賞体験を自身の制作の糧とする機会になります。

油画実習Ⅲ・卒業制作（4年次）

4年次はこれまでの自主制作で見つけた課題を踏まえて、それぞれのリアリティを存分に追求していく時間となります。その成果は卒業制作として尾道市立美術館で開催される卒業制作展で展示されます。



中部安梨 〈Autonomous Forms〉 修了制作 インスタレーション PLA サイズ可変



西原なずな 〈Doragon sword〉 修了制作 キャンバス、油彩、毛糸 970×2910mm



上田俊 〈鳩と誤解〉 キャンバス、油彩 1303×1620mm



馬庭匠 〈ナメクジ馬〉 木製パネル、油彩 930×1820mm



小川裕美 〈融異〉 木材、油彩 680×990×307mm



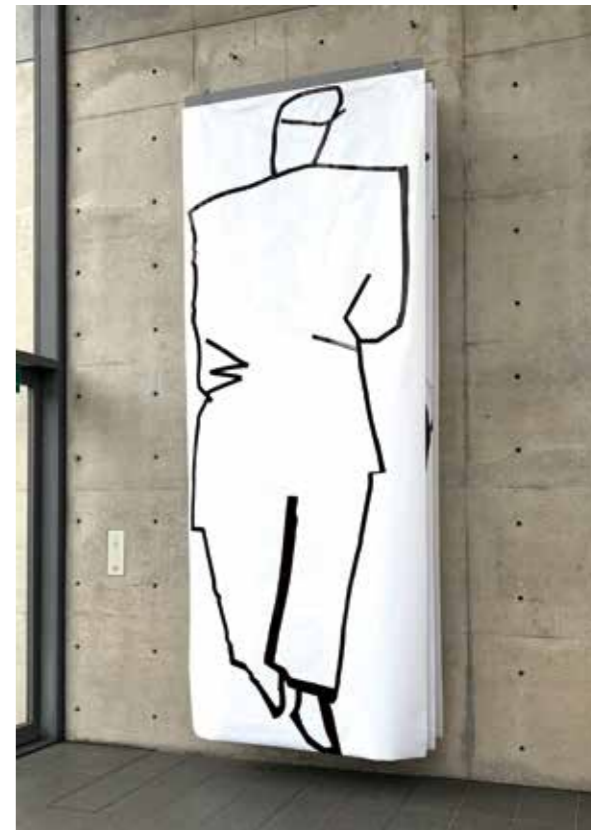
羽生なつき 〈あさ、ゆき〉 卒業制作 インスタレーションビュー 油彩、キャンバス/陶土



松崎蓮 〈天来〉、〈寓意(習作)〉、〈水神〉 卒業制作 インスタレーションビュー 油彩、キャンバス、木材、鉄



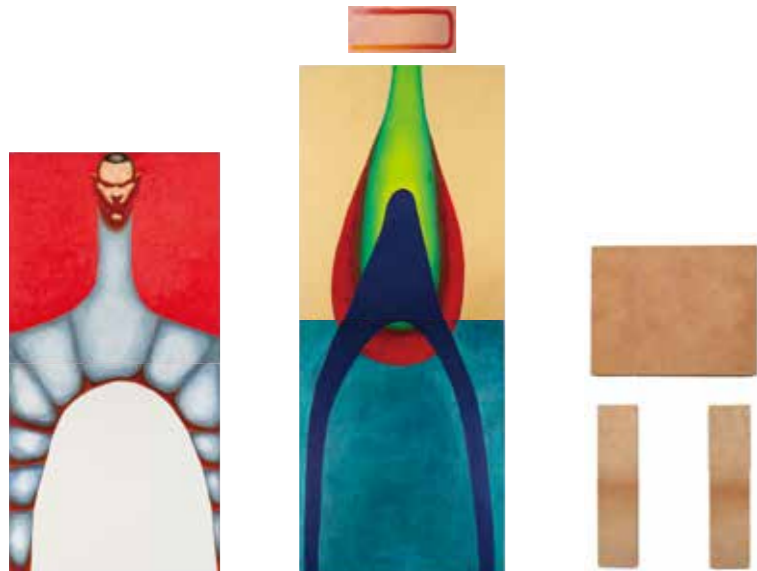
勝俣佑菜 〈祖父の庭〉 卒業制作 パネル、油彩、オイルクレパス 970×1303mm



濱田菜奈 〈軌跡〉 卒業制作 インスタレーションビュー 油彩、キャンバス



岡本紗弥 〈咀嚼と栄養〉 卒業制作 インスタレーションビュー 木材、カーボン紙、糸、アクリル



福原陽輝 3年次進級制作 左〈untitled〉キャンバス、油彩 2334×1167mm
中央〈untitled〉キャンバス、油彩 3786×1303mm 右〈untitled〉キャンバス、油彩 1341×652mm



有川愛華 2年次進級制作
パネル、角材、アクリル絵の具、ニス 200×200mm



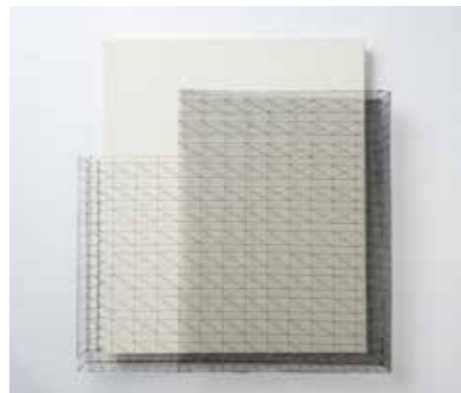
中野未歩 1年次ドローイングによる探究
紙、鉛筆、アクリル他 各1167×910mm



近藤美佳耶 〈intertwine (インタートワイン)〉 2年次進級制作
321×27×19mm 385×235×265mm
タイツ、スプレー塗料、糸、プラスチックボックス



大川陽菜 1年次課題制作(構成実習) 鉛筆、画用紙



小林美由記 〈浮かぶ層〉 3年次進級制作
ステンレス、キャンバス、布 710×730×75mm



中村美月 〈このままでよろしいですか〉 2年次自主制作
油彩、キャンバス 各652×503mm



吉原諒汰朗 1年次課題制作
(自画像) 420×550mm



美術学科油画コース4年
宮宇地 春人

私は、マインドマップの絵画化を軸に、作詞作曲や映像表現を組み合わせたインスタレーション作品を制作しています。連続する思考が複数の線として現れるマインドマップを自己表現のための絵として捉えており、その内容をもとに行う歌詞や映像の制作は、未整理のマッピングから要素を選び取り、一つの流れに束ねる工程だと考えています。

複数のメディアを用いる私の表現は、大学内外で多様な手法に挑戦してきた経験の中で培われました。学部1年次から独自の手法を模索し、自画像課題ではカットバンを用い、油画実習では迷路を絵画に取り入れるなど、実験的な制作を行ってきました。

また、尾道の浄泉寺で行われたコンサートのライブペインティングでは、二人で両面から砂鉄を用いて絵を描き、廿日市市のアートギャラリーでの交流プログラムでは、マインドマップ・映像・音楽を組み合わせた展示を行い、現在の制作にも繋がるメディアへ挑戦する機会となりました。

このように表現手法を更新し続けながらも、それぞれの経験を自身の芸術活動の成長へと結びつけることができた背景には、教員の方々が学内外の展示や活動に会場し、実際に作品を見たうえで詳細なフィードバックを共有し、さらに対話の時間を十分に確保してくださったことがあります。



『坂田明SOS in 尾道』での
ライブペインティング風景
浄泉寺
Photo by Sachi Kohara



マインドマップドローイング No.1
紙にインクジェットプリント、鉛筆
2025



Pink De Tea Time 2025 成果発表展における展示風景
アートギャラリーミヤウチ

デザインコースでは、各研究室の専門領域を基本としながらも、興味のあることは、領域を越えた指導を受けることが可能なカリキュラム編成となっています。これにより幅広い視野によるデザインの視点から表現できる能力を培うことができます。



デザイン実習Ⅰ(2年次)

2年次前期は選択課題に取り組み、自分の興味関心がどの分野にあるかを見極める期間とします。2年次後期より専門領域に分かれて基礎を学びます。

- ・広告やパッケージデザインを軸としたグラフィック表現の実践的研究
- ・文字、記号、図などの視覚情報の伝達における効果的なレイアウトや表現の研究
- ・イラストレーションの展開、アニメーションによる映像デザインの研究
- ・モーショングラフィック、実写などの映像デザインの研究
- ・テーマ設定と造形表現を通じた場のデザインの研究
- ・木工、漆芸(塗装)を主とした器、家具などの自然素材によるクラフトデザインの研究

デザイン実習Ⅱ(3年次)

2年次で学んだ基礎をもとに各領域の課題に取り組み、さらに各領域が連携したコラボレーション課題で視野を広げ表現力を身につけます。後期に取り組む地域プレゼンテーション課題では3年次のまとめとして大学美術館にて展示、しまなみ交流館では発表を行います。

デザイン実習Ⅲ・卒業制作(4年次)

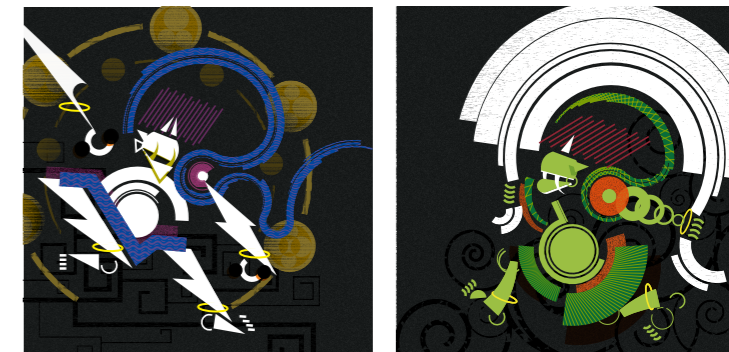
デザイン実習Ⅲでは自身で自由なテーマを設定し制作を行います。卒業制作では4年間の集大成として、その成果を尾道市立美術館にて展示・発表します。



稲澤楓 〈一茶風月〉 4年次卒業制作 ブランディングデザイン



石井遥 〈電球〉 4年次卒業制作 立体



田中善 〈RAIJIN FUZIN〉 4年次卒業制作 平面 映像



垣原凜々子 〈おのみち海の紅茶カップ〉 3年次デザイン×私のまち 第23回地域プレゼンテーション



勝木凜 〈消えたあとに残るもの〉 4年次卒業制作 映像



大場愛菜 〈インテリアエレメント〉 3年次デザイン実習II



村上桃花 〈金魚図鑑〉 4年次卒業制作 平面



岡本佳奈 〈ぶれいず! やまぐち〉 3年次デザイン×私のまち 第23回地域プレゼンテーション

春摘桃花 〈テーブルウェア〉
2年次デザイン実習I鳥越可也 〈ふでのご物語〉
3年次デザイン×私のまち
第23回地域プレゼンテーション藤原咲朱 〈コミュニケーションロゴ立体課題〉
3年次デザイン実習II

玉田真里夏 〈装丁〉 4年次デザイン実習III

北村春菜 〈GHOOST TAXI〉
4年次卒業制作 デジタルゲーム

梅本翔陸 〈ギフト課題〉 2年次デザイン実習I

富永滯 〈3文字コミュニケーション課題〉
2年次デザイン実習I

春摘桃花 〈3Dプリント〉 2年次デザイン実習I



松井天伽(左)、西森柗人(右)〈ランプシェード〉1年次構成実習



小西ひかる(左上、真ん中)、松本春花(右上、右真ん中)、霜出百葉(左真ん中)、古閑愛七(左下、右下)〈おどろき盤〉1年次デッサン基礎実習



井川愛茄〈総合基礎実習〉1年次総合基礎実習



永井杏那〈ハンガー課題〉1年次構成実習



高砂遙〈ロゴ課題〉1年次構成実習

美術学科デザインコース3年
イグナチワ ウリヤナ

私は元々ものづくりが好きで、幼い頃から粘土やコラージュに親しんできました。また、外国語にも関心があり、特に日本語に興味を持っていました。東京の語学学校で学ぶ中でデザインに興味を持つようになり、都市の中で人と情報、モノが密接に関わり合っていることに強い印象を受けました。その多様さに惹かれ、ただ観察するのではなく、その考え方を理解し、自分の視点を視覚表現として伝えたいと思うようになりました。

本学ではグラフィック・アドタイジング領域を選択しましたが、平面・立体を問わず幅広い分野に触れながら学べる点にも大きな魅力を感じています。学び始めてからは、そうした環境の中で表現の可能性を広げてきました。パソコン上での制作にとどまらず、実際に手を動かして素材と対話できる点も本学の魅力の一つです。特に金属加工や3Dプリンターを用いた課題では、デジタルでの造形だけでなく、その後の研磨や適切な素材による塗装といった実技的なプロセスの重要性を実感しました。

グラフィックデザインの演習では多様な課題に取り組みましたが、特に印象深かったのは「連動課題」(フォト&タイポグラフィ)と「ギフト課題」(パッケージデザイン)です。表現の自由度が高く、視覚的な構造と文字表現の関係について深く考える重要なきっかけとなりました。これらの学びを通して、デザインとは単に美しさを追求するものではなく、「誰に何を伝えるか」を意識することが重要であると実感しました。

尾道市立大学で学ぶ中で、自分の感覚やこれまで培ってきた文化的背景と、日本のデザインの考え方を結びつけながら表現を深められる点に大きな魅力を感じています。留学生としての視点を活かし、同級生の作品やその発想から多くの刺激や気づきを得ており、それが成長の原動力となっています。そうした経験を通して、自分らしさを大切にしながら、現代に響く表現を追求していきたいと考えています。

〈イメージフォルム(铸造)〉
2年次デザイン実習I大学美術館展示会
広報デザイン

〈連動課題〉2年次デザイン実習I



〈連動課題〉2年次デザイン実習I

美術学科教員はキャンパス内で創作・研究を行っています。

教員の研究室は美術学科棟の学生アトリエスペースの、廊下をはさんだ向かい側にあり、学生は多彩な専門領域で活動している教員の創作・研究現場を日常的に訪れることができます。

また、コース制をとっていることから、多くの創作・研究が共存していますが、各専門領域の垣根が低く、異なる領域の学生・教員間の対話が頻繁に行われているところも本学の美術学科の大きな特徴と言えるでしょう。



教授（日本画コース）

中村 譲

1964年 香川県高松市生まれ
 1989年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
 1991年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
 1993年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程
 絵画日本画専攻単位取得退学
 1994年 東京藝術大学日本画科非常勤講師（～2001年）
 [公募展]
 1994年 再興第79回「院展」初入選／東京都美術館
 1995年 第50回「春の院展」初入選／日本橋三越本店
 2001年 第56回「春の院展」奨励賞（以後2007,08受賞）
 2003年 再興第88回「院展」奨励賞（以後2004受賞）
 2006年 再興第91回「院展」日本美術院賞（大観賞）
 （以後2008年受賞、同足立美術館賞）
 2013年 第68回「春の院展」春の足立美術館賞
 [個展、グループ展]
 1994年 「有芽の会」展 法務大臣賞／有楽町西武
 2001年 「更生保護」（法務省保護局月刊誌）
 担当月表紙絵個展／ナカジマアート／銀座
 2007年 中村譲日本画展「Favorite scene」高松天満屋
 （以後百貨店開催、2010,2012,2014,2019,2022,2023,2024）
 香川県文化芸術選奨表彰
 2017年 小林和作賞
 2022年 日本美術院同人、香川県文化芸術振興審議委員
 現在



〈出漁の頃〉紙本彩色 180×225cm 2025



教授（日本画コース）

鈴木 恵麻

1997年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業
 1999年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了
 [画歴]
 1999年 第54回「春の院展」初入選
 2001年 「有芽の会」全国更生保護婦人連盟会長賞
 2002年 「有芽の会」法務大臣賞 再興第87回「院展」初入選
 2004年 第59回「春の院展」奨励賞
 （以後2016、2018、2020、2021、2024、2025受賞）
 2007年 再興第92回「院展」奨励賞
 （以後2009、2019、2020、2021、2022、2023、2025受賞）
 2009年 再興第94回「院展」天心記念茨城賞
 2018年 第73回「春の院展」春季展賞 日本美術院奨学金
 [個展、グループ展]
 2004年 個展「レスポワール展」／銀座スルガ台画廊
 2009年 個展「EMA作品展—鈴木恵麻作品展—」／そごう横浜（2011年）
 2013年 個展「更生保護」（法務省保護局月刊誌）担当月表紙絵個展／
 ナカジマアート
 2021年 個展「鈴木恵麻展」／尾道市立大学美術館
 2022年 箱根芦ノ湖成川美術館コレクション展／茨城天心記念五浦美術館
 2023年 セレネ美術館開館30年・宇奈月温泉開湯100年記念
 「日本画の新星たち展」／セレネ美術館
 現在 日本美術院 特待



〈花想い〉紙本彩色 211.4×166.5cm 2025



准教授（日本画コース）

山梨 千果子

2005年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科卒業
 2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程（日本画）修了
 2011年 尾道市立大学MOU尾道市立大学美術館 スタッフ
 2013年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手（～'18年）
 [受賞・展覧会歴]
 2005年 第7回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展（ふくやま美術館／広島）
 2007年 第9回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展特別賞（ふくやま美術館／広島）
 修了制作「ナツしたく」・修了模写「法隆寺金堂第十一壁画（部分）模写」大学買上賞
 第62回春の院展「涼音 すずおと」初入選（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）
 現代の中国画と日本画展（グループ展）（ふくやま美術館／広島）
 2008年 HiBi 2008（グループ展）（MOU尾道市立大学美術館／尾道／'10、'12、'14年）
 再興第99回院展「聞こえるよ」初入選（東京都美術館／東京・広島ほか巡回）
 2009年 In Focus 展（グループ展）（MOU尾道市立大学美術館／尾道）
 2010年 揺籃展（グループ展）（MOU尾道市立大学美術館／尾道／'15、'18年）
 2014年 ツナガルケシキ（グループ展）（大三島美術館／愛媛）
 2016年 第4回郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）
 2017年 再興第102院展「なつのおと」奨励賞（東京都美術館／東京・広島ほか巡回）
 はなの日（個展）（かわうそ画廊／東京）
 2018年 第73回春の院展「みえる みられる」奨励賞（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）
 2021年 尾道市立大学日本画展（グループ展）（小津和紙ギャラリー／東京）
 2022年 第77回春の院展「節季」奨励賞（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）
 現在 日本美術院 院友



〈ハルノニオイ〉麻紙、岩絵具、箔、膠 144×69cm 2025



教授(油画コース)

小野 環

1973年 北海道函館市生まれ
 1996年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 1998年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了
 1999年 東京藝術大学油画科非常勤講師(～2001年)
 現在 AIR Onomichi代表、NPO法人尾道空き家再生プロジェクト副代表理事
 [個展]

2000年 「キツネ作戦」/フタバ画廊/東京
 2002年 「小野環展」/appel/東京
 2005年 「gardens」/ギャラリーそわか/京都
 2008年 「gardens 植木鉢の冒険」/ふくやま美術館/福山
 2010年 「足下の辺境」/尾道市立大学美術館/尾道
 2013年 「ユートピアの迷子石」/Utopiana/ジュネーブ※
 2021年 「Re-edit」/光明寺會館/尾道
 2025年 「百蝙蝠」/itiSETOUCHI/福山
 [グループ展]
 2004年 VOCA 展/上野の森美術館/東京
 2007年 AIR Onomichi/尾道山手地区/尾道※(2011年※)
 2008年 tina.b プラハ国際現代芸術祭2008/プラハ市※
 2012年 UTOPIA ～何処にもない場所～/百島/尾道※(2013,14年)
 2018年 「複数形の世界のはじまりに」/東京都美術館/東京
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA/クリエイティブセンター大阪/大阪
 2021年 第24回岡本太郎現代美術賞展 特別賞/川崎市岡本太郎美術館/川崎
 2022年 「いにしよによる一断片たちの囁きに耳を」/瀬戸内海歴史民俗資料館/香川
 2026年 「Salt Tangles / Far Shores Near」Objectifs/シンガポール
 (※作家 三上清仁とのユニット)



〈百蝙蝠〉 サイトスペシフィックインスタレーション /
 iti SETOUCHI



准教授(油画コース)

橋野 仁史

1982年 熊本県生まれ
 2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手(～'17年)
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助教(～'18年)
 2017年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 講師(～'22年)
 [主な展覧会]

2007年 第81回国展/以後毎年
 2008年 第82回国展 絵画部奨励賞
 尾道からの「3人展」/アートガーデン/岡山
 2009年 国展 受賞作家展/井上画廊/東京
 2013年 Gg展/ふくやま美術館/福山/以後毎年
 2014年 第88回国展 会友賞、準会員推挙
 2015年 国展 受賞作家展/銀座アートホール/東京
 2017年 個展 橋野仁史絵画展-Fog-/福山天満屋/福山/'19年
 2018年 Gg2展/福山天満屋/福山/以後毎年
 2019年 再考 人間と自然/広島県立美術館/広島
 2021年 中曾智子・橋野仁史2人展-風薫る-/GALLERY森・hako/福山
 個展 橋野仁史絵画展-光景-/福山天満屋/福山
 meet a new /福山天満屋/福山/'23年、'24年
 2022年 3view/倉敷天満屋/倉敷
 2025年 個展 橋野仁史絵画展-ほのか-/福山天満屋/福山
 2026年 国展100回記念企画 NEXT GEN/国立新美術館/六本木



〈UNTITLED〉 油彩、キャンバス 162×194cm 2025



教授(油画コース)

稲川 豊

1974年 東京生まれ
 1997年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
 2004年 CHELSEA COLLEGE OF ART AND DESIGN,
 ロンドン, MA FINE ART 修了

2007-09年 文化庁新進芸術家海外留学制度2年派遣/ロンドン/イギリス
 [個展]
 2007年 “Yutaka Inagawa Solo show”/New Art Center/ニューヨーク
 2008年 “Nonplace overlay”/Bodhi Gallery/ロンドン
 2009年 “Sensory Cocktails”/Gallery Zandari/ソウル・韓国
 “Crazytokyo”/Galerie Sutry, Coye-la-Foret/フランス
 2014～15年 “The invasion of Cyberspace”/Unit 24 Gallery/ロンドン
 2015年 OTAK JEPUN | Yutaka Inagawa / Lorong Kekabu / クアラルンプール
 2022年 符と思う | eASY mECHANISM / MOU 尾道市立大学美術館 / 尾道
 2023年 “Fluxosphere” / UUH OOH / 香港
 2023年 “Speak Spindle つむ・くち”(2023) / Comma Space / シンガポール
 [グループ展]
 2007年 “Trajectories”/The Agency/ロンドン
 2007年 “The 8th SHINSAIMDANG Art Festival”/Gangueng Museum/韓国
 2008年 “Cosmopolis”/Pipy Houldsworth Gallery/ロンドン
 2017年 Floating Urban Slime / Sublime / アートギャラリーミヤウチ / 広島
 2018年 I Say Yesterday, You Hear Tomorrow. Visions from Japan / Gallerie delle Prigioni / トレヴィーゾ / イタリア
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA / クリエイティブセンター大阪 / 大阪
 2019年 Another Pair of Eyes (企画・出品) / Duddell's / 香港
 [展覧会企画(キュレーション)]
 2024年 奇数ソックスとノード / Nurturing Nodes in the Nook of an Odd Sock / アートギャラリーミヤウチ / 広島



インスタレーション・ビュー 符と思う | eASY mECHANISM
 / MOU 尾道市立大学美術館 2022



准教授(油画コース)

西村 有未

1989年 東京都生まれ
 2014年 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻 卒業
 2016年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画) 修了
 2019年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程美術専攻研究領域油画
 修了・博士(美術)学位取得

[個展]
 2022年 「図形的登場人物と雪娘 シーズン2」FINCH ARTS (京都)
 2023年 「呼水(図形的登場人物たち)」Ritsuki Fujisaki Gallery (東京)
 「犬石物語 (I still live there)」FINCH ARTS (京都)
 2025年 「絵でそれらを生む物語の態度」 半兵衛麩五条ビル2F ホールKeiryu (京都)
 2026年 「滲出液とかさぶた」 Gallery & Restaurant 舞台裏 (東京)
 [グループ展]
 2010年 「現役美大生の現代美術展-Produced by X氏」Kaikai Kiki gallery,
 Hidari Zingaro (東京)
 2016年 「第3回CAF 賞入選作品展」3331 Arts Chiyoda (東京)
 2021年 「絵画の見かた reprise」/ K Contemporary (東京)
 2021年 「Encounters in Parallel」ANB Tokyo (東京)
 2021年 「猫とマチエール」MtK Contemporary Art (京都)
 2022年 「Kyoto Art for Tomorrow 2022 -京都府新鋭選抜展-」京都文化博物館(京都)
 2024年 「岸む音 / 際の上 Murmuring Shores / On the Brink」
 MOU 尾道市立大学美術館(尾道)
 「植物の途中-A Secret Life」彫刻家の家(香川)
 「Salt Tangles / Far Shores Near」Objectifs - Centre for Photography & Film (シンガポール)

[コレクション] 山梨学院大学、高橋龍太郎コレクション、KANKURO UESHIMA COLLECTION
 [ワークショップ] 2019年 練馬区立美術館
 [賞ほか] 三菱商事アートゲートプログラム2013 奨学生、第3回CAF賞保坂健二朗賞



インスタレーション・ビュー / 「絵でそれらを生む物語の態度」
 半兵衛麩五条ビル2F ホールKeiryu (京都) 2025



教授(デザインコース)

林 宏

1967年 大阪生まれ
 1994年 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業
 1996年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程漆芸専攻 修了
 2025年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 教授
 【活動歴】
 2005年 日本文化財漆協会 常任理事
 2011年 ナチュラルマテリアルプロジェクト 循環型自然素材の開発及び研究
 2013年 漆芸を支える道具の調査研究
 作品収蔵 東京藝術大学 フィラデルフィア美術館

【展覧会歴】

2012年 東京藝術大学創立125周年記念事業「漆芸 軌跡と未来」招待出品(東京藝術大学)
 ナチュラルマテリアルプロジェクト(六本木・ペイン)
 器奏天回茶展(うおがし銘茶 築地新店)
 日本のいろ展2012(松岡山東慶寺 白蓮舎)
 2013年 個展 林宏 漆の器展(栃木 アルゴノート)
 japanin vari [Natural material projects] (フィンランド ヘルシンキ)
 杵木呂の会展(新宿 伊勢丹)、漆芸二人展(瑞玉ギャラリー 東京)
 2015年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)、日本のいろ 展(松岡山東慶寺ギャラリー)
 2016年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)
 2017年 杵木呂の会展(松岡山東慶寺ギャラリー)
 2018年 陶と漆の器展(代官山無垢里)
 2019年 感覚のかたち展(MOU尾道市立大学美術館)、陶と漆の器展(日本橋三越)
 2022年 はじまりのかたち展(MOU尾道市立大学美術館)



〈耳付漆皿〉 W320×D285×H15
 ブラックチェリー、漆 2019

Hayashi Hiroshi Urushi Design
<https://hayashihiroshi.net>

尾道市立大学 デザインコース クラフトデザイン
<https://onomichi-craftdesign.myportfolio.com>



准教授(デザインコース)

井村 和寛

1979年 三重県鳥羽市生まれ
 2003年 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン・工芸科 卒業
 2007年 愛知県立芸術大学 美術研究科デザイン専攻 修了
 2008年 デザイン事務所「ID PRODUCTION」設立
 2010年 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン・工芸科 非常勤講師
 2011年 瀬戸アートスクール画案 設立
 2011年 アートギャラリー「GALLERY ID」設立
 2026年 尾道市立大学 芸術文化学部美術学科 准教授

【活動歴】

2006年 井村和寛イラストレーション展「materials」「portraits」(アトスペースA-1/名古屋)
 井村和寛 展「金属への追憶」(愛知県立芸術大学サテライトギャラリー直指天/名古屋)
 2007年 井村和寛 展「Fe」(愛知芸術文化センター アトスペースX/名古屋)
 2011年 素描展(愛知芸術文化センター アトスペース/名古屋) (~2020)
 2015年 愛知県立芸術大学オペラ公演舞台美術制作プロジェクト参加 (~2025)
 2020年 江戸川乱歩旧居跡記念碑建立プロジェクト参加
 記念碑デザイン担当(名古屋栄)



〈江戸川乱歩旧居跡記念碑〉 石碑デザイン・肖像画 2020 写真提供:共同通信社



〈千支のイラストレーション「巳」〉 透明水彩・アルシユ紙 2025



准教授(デザインコース)

勝目 祥二

2000年 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業
 2002年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程鍍金専攻 修了
 2003年 インハウスデザイナーおよびフリーランス(~2025)
 【業績】

2003-25年
 ボトル・パッケージデザイン/広告・冊子・グラフィックデザイン
 インテリア・プロダクトデザイン/空間デザイン
 アートディレクション/ブランディング等に関するデザイン業務
 日本パッケージデザイン大賞 化粧品香水部門 銀賞
 日本パッケージデザイン大賞 VI部門賞
 日本パッケージデザイン大賞 ヘアケア&ヘルス部門入賞等

【活動歴】

2003年 「KYOTO」(アートギャラリー Live.TV)
 2005年 愛・地球博 BigFamily フェスタ(六本木ヒルズ 40階)
 2012年 DESIGNTIDE TOKYO(六本木ミッドタウン東京)
 2013年 「Maison & Objet」(フランス国際展示場)
 「VIAデザイン展」(フランス・パリ VIA ギャラリー)
 桐山登士樹が選ぶ注目デザイナー選出(JDN)
 2014年 「TOKYO STARTUP GATEWAY」セミファイナリスト選出(東京都主催)
 2015年 「薄膜状のマイクロナノスケール構造体による動作検証」研究(国立研究開発法人 産総研)
 2016年 「Floating Urban Slime/Sublime」(アートギャラリーミヤウチ)
 2017年 「マルチマテリアル研究拠点第2回シンポジウム」登壇(東北大学産学連携先端材料研究開発センター)
 2020年 「FTCビジネスアイデア事業化プログラム」採択(福島イノベーション創出プラットフォーム事業)
 2023年 「FTCビジネスアイデア事業化プログラム」採択(福島イノベーション創出プラットフォーム事業)
 2025年 「DESIGNART TOKYO 2025」(日比谷OKUROJI)
 2026年 「TOKYO CITY VIEW×MONOWIT」(六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー)



〈Lactea〉 W420×D420×H500 真鍮、Inorganic EL 2012



准教授(デザインコース)

伊藤 麻子

2005年 愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン工芸科 卒業
 株式会社GKグラフィックス勤務(~2008)
 2011年 東邦高等学校 美術科 非常勤講師(~2012)
 2012年 大垣女子短期大学 デザイン美術学科 講師(~2017)

【活動歴】

2005年~2008年
 (デザイン制作会社勤務中の実務)
 果汁飲料 PETボトル パッケージデザイン
 缶コーヒー パッケージデザイン
 紅茶ギフト パッケージデザイン
 化粧品 パッケージデザイン
 文具パッケージデザイン 他

2009年~

「skin sweets」パッケージデザイン
 展示会「二人ノ図鑑展」(2014, 表参道)
 展示会「感覚のかたち」(2019, デザイン教員展)
 緑茶商品パッケージデザイン他
 グラフィックデザイナーとしてデザイン業務に携わりつつ、
 真鍮による立体造形表現も思案している



〈市之瀬の里 ブランディングデザイン〉 茶袋 2021



〈Shimanami Water リデザイン〉
 ラベル 2021



准教授 (デザインコース)

黒田 教裕

1987年 宮崎県生まれ
 2011年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業
 2014年 武蔵野美術大学大学院造形研究科
 デザイン専攻映像コース退学
 2014～15年 武蔵野美術大学造形学部映像学科 非常勤講師
 【活動歴】
 2014年 「Media Ambition Tokyo 2014」
 六本木ヒルズ52F 東京シティービュー
 2015年 「New Creators Competition 2015」
 静岡クリエイター支援センター CCC
 2016年 「2016 CHANGWON ASIA ART FESTIVAL」 韓国・昌原市
 2019年 「続々 三澤 通」ギンザ・グラフィック・ギャラリー (映像編集)
 「松島オープンスタジオ」岡山県倉敷市 松島分校美術館
 (公開滞在制作)
 「まにわ映像フェスティバル2019 勝山スクリーン・フィールド」
 岡山県真庭市
 「感覚のかたち」デザイン教員展 尾道市立大学美術館
 2022年 漆 田代明樹男・映像 黒田教裕「物質と記憶」のトレモロ
 三原市芸術文化センターポポロ
 2025年 黒田 教裕 /Hidetoshi Koizumi・Ryuuta Tomiyama/
 スギノ ユキコ/中山 莉瑠 映像作品展「G.E.F.G」
 ソニーイメージングギャラリー 銀座



〈光風 — Quiet Shine〉 映像 20分ループ UHD30p 2023



講師 (デザインコース)

西原 美彩

1991年 広島県広島市生まれ
 2014年 広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業
 2016年 広島市立大学大学院芸術学研究科造形計画研究修了
 広島放送株式会社勤務
 2018年 広島市立大学芸術学部
 映像メディア造形研究室 非常勤助教
 【活動歴】
 2014年 短編アニメーション「男と青虫」
 第2回新県美展 (広島県立美術館) 優秀賞
 2015年 短編アニメーション「二十億光年のくしゃみ」
 ICAF2015 上映
 2016年 短編アニメーション「そぞろ」
 ICAF2016 上映
 2022年 短編アニメーション「鬼、布と塩」
 第9回新千歳空港国際アニメーション映画祭 北洋銀行賞受賞
 第31回CGアニメコンテスト 入賞
 第24回DigiCon6JAPAN 奨励賞
 日本アニメーション協会入会
 2023年 幻想の神楽 西原美彩展 -鬼、布と塩- アニメーションとその周辺
 第18回吉祥寺アニメーション映画祭 ジブリ美術館賞
 広島文化新人賞 受賞



〈やつはな〉 試作アニメーション 1分 2026



教授 (日本美術史・博物館学)

市川 彰

1971年 愛知県生まれ
 1995年 京都大学文学部美学美術史学専攻卒業
 2001年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程 (美学美術史学専攻) 単位取得退学
 2000～03年 萬野美術館学芸員
 2004～07年 京都文化博物館総務課主事
 2007～12年 京都文化博物館学芸課学芸員
 【論文等】
 1997年 絵描きの玉手箱 伊藤若冲の鶏
 『茶道雑誌』第61巻第1号 河原書店
 1999年 若冲画に示されたもの -「動植経絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめぐる-
 『研究紀要』第20号、京都大学文学部美学美術史学研究室
 2007年 若冲画に示されたもの2 -《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめぐる-
 京都文化博物館紀要『朱雀』第19集
 2014年 名所図会に記された京都の「名宝」(一)
 尾道市立大学芸術文化学部 紀要 第13号
 【展覧会】
 2008年 永樂即全『源氏物語五十四帖』と十七代永樂善五郎展
 京都文化博物館企画展
 2008年 『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界～浮世絵から源氏意匠まで～』展
 京都文化博物館特別展



准教授 (西洋美術史・美学)

西嶋 亜美

北海道旭川市出身
 2006年 京都大学文学部人文学科卒業
 2009年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了・博士後期課程進学
 2010～2012年 パリ・ソルボンヌ大学美術史考古学研究所招待研究員
 2013年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学
 京都大学博士 (文学)

【研究歴】
 専門はフランス近代美術史で、画家ドラクロワやオリエンタリズムについて研究しています。
 ・『ドラクロワの物語画と文学』三元社、2025年
 ・『ドラクロワ作《キリストの埋葬(墓のキリスト)》(ボストン美術館) -新たな宗教主題表現の模索の成果として-』『京都美術史学』第5号、
 2024年、1-36頁
 ・『ウジェーヌ・ドラクロワの物語画と文学』京都大学大学院文学研究科課程博士学位論文、2016年
 ・『ドラクロワの「モロッコ旅行記」試訳』『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第16号、2017年、69-86頁
 ・『ドラクロワ「プッサン論Ⅰ、Ⅱ」(1853年) 試訳』『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、2022年、67-80頁
 ・「19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージールベ作《田園の恋人》とワルツの図像」
 伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、刊行予定

美術学科では、卒業・修了制作展を開催しています。
学部4年間、大学院2年間の集大成となる展覧会です。

学生時代の集大成としての卒業制作はとても重要なものですが、卒業制作はアトリエで制作して終わりではありません。

美術学科では、毎年、学部4年間、大学院2年間の制作・研究の成果を発表する機会として尾道市立美術館と尾道市立大学美術館で卒業修了制作展を開催しています。学生たちは展覧会の計画から広報活動、図録制作、展覧会運営、終了後の次世代への引き継ぎという一連の活動をカリキュラムの一環として経験することになります。例えば、毎年自分たちでカタログを制作し、関係方面に配布すると同時に、展覧会を訪れる方々に販売しています。このような展覧会の成り立ちを実際に経験することが、卒業後の活動の糧となることに期待しています。



日本画コース卒業・修了制作展優秀作品

桑柚希 〈行く夏〉 卒業制作
麻紙、岩絵具、膠 181.8×227.3cm



絵画研究分野(油画)優秀作品
川口照栄 〈視点について〉 修了制作
Premiere Pro, CLIP STUDIO PAINT サイズ可変
展示会場：MOU尾道市立大学美術館



デザインコース卒業・修了制作展優秀作品
小山里杏 〈日向帽子-ひなたぼっこ-〉
修了制作 和紙、岩絵具、木、ペーパーコード

美術学科は今年度で25年目を迎え、多くの卒業生たちが専門業界で活躍しています。
そんな卒業生3名から近況をレポートしてもらいました。

卒業生はどのような活動をしているのでしょうか。学部卒業後大学院に進学し、さらに専門分野での制作を重ね、作家を志向する人がコンスタントにいます。

絵画系(日本画、油画)の卒業生の中には創作活動を継続するためにアルバイトをしながら生活している卒業生も毎年一定数いますが、近年増加しているのが、中学、高等学校の美術の非常勤講師です。中には複数の学校を掛け持ちで勤務している卒業生もいます。

デザイン系では、専門のスキルを活かして、広告代理店やメーカー、デザイン制作会社、映像制作会社、放送局、ゲーム制作会社などへの就職の他、イラストレーターやアニメーターとして制作を続けている卒業生もいます。



2018年 大学院美術研究科 絵画研究分野 日本画修了 大場 真美

【略歴】
2016年 高知大学教育学部生涯教育課程芸術文化コース 卒業
2018年 尾道市立大学大学院美術研究修士課程(日本画) 修了
【受賞歴】
2014年 第68回高知県美術展覧会
褒状、高知県美術振興会奨励賞
【同'15,'17~'22,'24,'25 入選】
2015年 第35回高知県女流美術展覧会 青潮賞
【同'17 青潮賞 '19,'21入選】
2016年 第2回中土佐町立美術館大賞展 入選
【同'19 奨励賞 '20 大賞 '24入選】
2018年 第44回春季京都創画展 初入選【同'21,'22,'24 入選】
2019年 第15回全国美術公募作品展ベラドンナ・アート展 入選
2023年 第77回高知県展美術展覧会・日本画の部 特選
第50回記念創画展 初入選【同'24 入選】

私は四年間、尾道ではなく地元の教育学部で美術教育を学びました。より深く日本画を学びたいという思いから、尾道市立大学大学院へ進学を決めました。二年間という短い時間ではありましたが、日本画の専門的な知識やその魅力はもちろん、先生方や友人たちの制作に向き合う真摯な姿勢から多くを学びました。

卒業後は地元の高知に戻り、教職や絵画講師の経験を経て、これまでの学びを生かせる仕事に携わっています。周囲の理解と協力に支えられ、制作も続いています。日々の忙しさに追われ、思うように時間が取れないこともありますが、日常の中でふっと湧き上がる「表現したい」という思いが、今も私を支えています。

学生の皆さん、この豊かな環境で自分なりの表現、または自分自身とじっくり向き合ってみてください。その経験はきっと、これからの自分を支える大切なお守りになってくれると思います。



〈傷の夢〉



〈か弱き獣〉



〈波の轍〉



2024年 油画コース卒業

ゲラルディ・サロモ・パンケレゴ

2024年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 卒業
2026年 東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻 入学

2024年 グループ展「WANUA」北スラウェシ州視覚芸術展
(インドネシア、トモホン市) 主催
2024年 第17回 JCF 学生映画祭・入賞

大学卒業後、大学院受験をはじめ、さまざまなことが上手くいかず、1年間を反省の期間に充てました。行ったことのない場所へ行き、会ったことのない人たちと新しい絆を築きながら、制作から一歩も離れず、自分自身と真剣に向き合う時間になりました。今年再び大学院にチャレンジし、現在は東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻に入学し、アニメーション制作を続けています。

学部時代は油画コースに所属しながら、自主制作でアニメーションの表現を追求していました。留学生である私でしたが、卒業後も友人や先生方、そして尾道市民の方々からの温かいサポートや教えに、今でも深く感謝しています。尾道を離れた今も、日本にいつでも帰れる場所があると感じています。この5年間で、尾道でしか体験できない日々をたくさん過ごしました。観察し、体感することの大切さを、この豊かな環境の中で「裸眼」で学ぶことができました。

学生の皆さんには、感情に流されて判断するのではなく、今日という「今」と真摯に向き合う時間が何より大事だと伝えたいです。学生である特権を、ぜひ存分に活かしてください。



〈木の宝物〉 ガラスアニメーション 2025



〈死屍累々〉 木炭・模型アニメーション 2026



2021年 デザインコース卒業 小保 朋花

2021年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 デザインコース卒業
2021年 株式会社アイディーエイ 入社
2025年 尾道市立大学デザインコース非常勤講師に着任
2026年 株式会社クラブズ 入社



デザイン実習
講評風景



学生作品展
ポスター



駄菓子屋ロゴデザイン事例

新卒でパッケージやブランディングのデザイン制作会社に入社し、尾道市立大学での非常勤講師経験を経て、現在は倉敷を拠点にデザイナーとして地方創生に携わるなど多角的な視点でデザインに従事しています。分野は広がりましたが、その原点にあるのは大学時代に夢中で取り組んだパッケージデザインやブランディングです。

プロとしての毎日は、学生時代よりもずっとスピードが速く、時にはクライアントの想いを形にする難しさに悩むこともあります。

クライアントの要望を汲み取りきれず、試行錯誤が続いて納期に追われる苦労も少なくありません。しかし、課題を解決した先に届く喜びの声や、自分のデザインが街に溶け込んでいるのを見た時にこの仕事を選んで良かったと感じます。

非常勤講師として学生の方と接する中で、「デザインを仕事にするのは難しい」という不安な声をよく耳にしました。私も高校生の頃は全く同じ気持ちでしたし、大学に入ってからも周り比べて自信を失い何度もデザイナーの道を諦めようと思いました。

でも、不器用でも諦めずに表現を磨きコツコツと続けていけば、いつか自分らしく花開く時が必ずやってきます。

デザインの考え方は将来どんな道に進んでも人生を支える力になってくれるはずです。まずは自分の可能性を信じて楽しみながら一歩を踏み出してみてください。

尾道市立大学美術館

地域総合センター

尾道市立大学附属図書館

情報処理研究センター

教職支援センター

国際交流センター

医務室・学生相談室

キャリアサポートセンター



2026-2027

Museum of Onomichi City University

MOU

2008年、尾道市立大学美術学科教育・研究プロジェクトとして、MOU尾道市立大学美術館における展示企画をスタートしました。以来、当館では本学美術学科学生・卒業生・教員を中心に大学における教育・研究成果を様々な角度から発表してきました。



Curriculum - 授業作品展 -



In Focus17 - 卒業生の現在 -



大学院進級制作展



アーティストトーク



ワークショップ



尾道市立大学美術館
朝平 敬香



こころのままに - 桜田知文退任記念展 -

2026年度のスケジュール

2026年度の展示企画は、油画コース修了生による卒業生自主企画展「しんじょく」でスタートしました。7月開催の「Curriculum - 授業作品展 -」では、現在の大学のカリキュラムを網羅的に紹介します。その後、9月に卒業生・修了生の活動に焦点を当てる企画「In Focus (インフォーカス)」で、それぞれの領域で活発に創作活動を展開している吉田真子(日本画)、おおだいらまこ(油画)、山本品大(デザイン)の作品を紹介。11月には、本学の彫刻実習にて非常勤講師を勤める秋山隆の個展「-いままでとこれから-」を開催し、木彫作品をご覧いただけます。12月は油画・日本画・デザイン各コースの卒業生・修了生による自主企画展「scope - 日々をたどる -」を開催します。

他にも、授業と連動した3企画を開催します。進級した大学院新2年生が院1年次の制作成果を発表する「進級制作展」のほか、油画コース3年次「進級制作展」、デザインコース3年次「デザイン×私のまち 地域プレゼンテーション」では、展示の一連の流れや展示作業も学生が主体で取り組みます。年度末には本学美術学科教員の作品を紹介する尾道市立大学美術学科教員展「transit - いくつもの現在 -」を開催します。

企画と関連したレクチャー・ワークショップ等も随時開催するほか、ウェブサイト等での情報発信も行っていきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

Schedule	
卒業生自主企画展「しんじょく」 3/20(金)-4/12(日) 休館日: 水・木曜日 2021-2022年度尾道市立大学美術館「しんじょく」卒業生自主企画展です。	2024 3
尾道市立大学 大学院美術研究科 進級制作展 5/2(土)-5/31(日) 休館日: 水・木曜日(祝日調整) 本学美術学科油画・日本画・デザイン各コースの卒業生・修了生による制作成果を発表する企画です。	4
Curriculum - 授業作品展 - 7/4(土)-8/11(火-祝) 休館日: 水・木曜日 本学美術学科油画・日本画・デザイン各コースの授業内容を紹介する企画です。	5
In Focus 17 - 卒業生の現在 - 9/5(土)-10/4(日) 休館日: 水・木曜日(祝日調整) 本学美術学科油画・日本画・デザイン各コースの卒業生・修了生の活動を紹介する企画です。	6
秋山隆 - いままでとこれから - 10/24(土)-11/23(月-祝) 休館日: 水・木曜日 本学美術学科彫刻実習にて非常勤講師を勤める秋山隆の個展です。	7
卒業生自主企画展「scope - 日々をたどる -」 12/5(土)-12/22(日) 休館日: 水・木曜日 本学美術学科油画・日本画・デザイン各コースの卒業生・修了生による制作成果を発表する企画です。	8
美術学科油画コース3年次「進級制作展」 1/7(土)-1/17(日) 休館日: 水・木曜日 2025年度油画コース3年次「進級制作展」です。	9
美術学科デザイン3年次「デザイン×私のまち 地域プレゼンテーション」 展示・発表会 1/23(土)-1/31(日) 休館日: 水・木曜日 本学デザインコース3年次「デザイン×私のまち 地域プレゼンテーション」の展示・発表会です。	10
第23回卒業制作展・第21回修了制作展 2/5(金)-2/14(日) 休館日: 水・木曜日 本学美術学科油画・日本画・デザイン各コースの卒業生・修了生による制作成果を発表する企画です。	11
尾道市立大学美術学科 教員展 「transit - いくつもの現在 -」 3/16(土)-4/11(日) 休館日: 水・木曜日 本学美術学科教員の作品を紹介する企画です。	12
2025	1
2026	2
3	3
4	4

尾道市は商都として約850年もの長い歴史を有し、「日本遺産のまち」としても知られるとおり、古代から現在に至るまで様々な文化を育んできたまちです。たとえば、旧市街地を歩くとあらゆる時代が混ざり合った不思議な魅力に出会うことがあります。今もなおこの地を繰り返し訪れる人々が多いのは、「何度も来ているはずなのに、こんな場所があったのか」、「まだまだ素敵な何かに出会えるのではないか」など、市街地や斜面地の路地が複雑に絡まったラビリンスに魅せられているからではないでしょうか。そして、尾道は歴史的建造物の活用と新たな施設とが織り成す融合感覚が絶妙に保たれており、まちづくりに真摯に取り組む人々による活動の場もますます広がっています。

そのようなまちにある尾道市立大学の理念の一つに地域貢献があります。地域社会との連携は開学以来取り組んできた本学の大きな特徴といえるでしょう。学生と教員が丁寧に取り組むことで花開いたプロジェクトも少しずつ増えてまいりました。大学生活における地域貢献活動の経験は、卒業後の活躍の場においても多大な成果を生み出すことにつながっています。ここ地域総合センターでは、多様なプロジェクトに安心して取り組めるようサポートを進めています。尾道という場所から、さらなる地域学修の可能性を広げてみてはいかがでしょうか。



地域総合センター
高垣 美晴



尾道学入門



教養講座



尾道学入門 広報物



尾道文学談話会 広報物

2025年度受託研究・受託事業(抜粋)

地域プレゼンテーション課題制作 「onogo」デザイン提供

研究期間：2025年6月～7月
担当教員：伊藤麻子(美術学科准教授)
依頼元：株式会社タテイシ広美社
参加学生：1名



美術学科卒業生 村上桃花

向島ドッククレーン ライトアップ提案業務

研究期間：2025年11月～2026年3月
担当教員：黒田教裕(美術学科准教授)
依頼元：向島ドック株式会社
参加学生：3名



美術学科3年 友岡きらら/林良樹/春摘桃花

広島県消防協会尾道支部 フルラッピングバスデザイン制作業務

研究期間：2025年5月～7月
担当教員：西原美彩(美術学科講師)、
伊藤麻子(美術学科准教授)
依頼元：広島県消防協会尾道支部
参加学生：3名



美術学科卒業生 梅野壮真

木製インテリアデザイン 企画提案・モックアップ制作

研究期間：2025年6月～11月
担当教員：林宏(美術学科教授)
依頼元：株式会社堀田組
参加学生：6名



美術研究科1年 徳永月子

受託研究 10件 受託事業 4件 計 14件

2025年度 開催講座(主催)

尾道学入門公開授業(全13回)

4月～7月開催
講師：前田謙二、小野環、原卓史、林直樹、中村謙、
森本幾子(本学教員)、豊田雅子、小川長、新宅美和、
吉田守、真野洋介、梅林信二、林良司(外部招聘講師)

尾道文学談話会(全6回)

4～9月開催
講師：藤井佐美、灰谷謙二、宮谷聡美、吉田宰、高島彬、
小畑拓也(日本文学科教員)

教養講座(全3回)

10月1日、8日、16日開催
第1回 鷹橋明久(日本文学科教授)
「古代中国人の死生観—荀氏『靈鬼志』を手がかりとして—」
第2回 西嶋亜美(美術学科准教授)
「『物語』で読み解く西洋絵画」
第3回 田中政旭(経済情報学科講師)
「組織におけるマネジメント実践:実質的な利用?見せかけの利用?」

教養講座スペシャル(全2回)

9月27日開催
第1部 藤本真理子(日本文学科教授)
「研究は接続—私の研究履歴をとおして—」
第2部 渡邊久見(経済情報学科講師)
「マーケティングの活かし方：
研究知見から得られる実務的示唆」

2025年度 開催講座(協力)

美術学科公開講座

8月19日開催
講師：小野環(美術学科教授)
「違った見方で日常空間を見てみよう
—ワークショップによる作品制作と展示—」

経済情報学部公開講演会

10月23日開催
講師：南知恵子(外部招聘講師)
「ものづくりDXとB2Bマーケティング」

「デザイン×私のまち」第23回地域プレゼンテーション

展示会 2026年1月30日～2月1日開催
発表会 2026年2月11日開催
芸術文化学部美術学科デザインコース3年生

尾道市立大学コンピュータ公開講座

8月19日開催
講師：西原美彩(美術学科講師)
「写真でつづる、わたしのとくべつな一年」

尾道市立大学情報科学研究会

12月5日開催
講師：秋川元宏(経済情報学科講師)
「人工知能の基本—人工知能は魔法の箱じゃないよ!—」

本学附属図書館は、久山田水源地のほりにあって眺望にすぐれ、また山を背にして読書や学修に好ましい静謐な雰囲気を得ています。

附属図書館では、本学の各学部学科の学生の学修や教員の研究に対応できるよう、図書・雑誌・新聞・視聴覚資料・古文書・電子ジャーナル・データベースなどの資料があり、各種メディアの利用により、学修・研究・就職活動等に活用されています。学術分野だけでなく、小説や趣味に関する本などもあり、多く利用されています。

また、希望図書リクエストサービスや、文献複写・借用図書申請など、Webを使って手軽に申し込みできるシステムを備えています。調べもの相談などのレファレンスサービスも随時受け付けており、これらは多くの学生に活用されています。他の図書館等が所蔵する雑誌論文が必要になった場合など、遠慮なく受付で尋ねてください。

思索のための理想的な空間を大いに利用して本を読み、情報を収集し、学修や研究を進めて行ってもらいたいと願っています。また、研究・自主学修に限らず、「憩いの場」としても附属図書館を役立てていただきたいと思います。



尾道市立大学附属図書館

岡田 匠亮



尾道市立大学附属図書館

桑名 未来

下垣内文庫

近世地方俳諧の研究者である下垣内和人氏から寄贈を受けた計約3100点の近世俳諧資料です。これらの資料は、下垣内氏が長い年月をかけてこつこつと集められた、江戸時代から明治時代にかけての俳諧資料であり、地方俳諧の資料としてこれだけ大部に揃えることは難しく、たいへん貴重なものです。



一枚摺・可菴夏興「夕蟬や」



一枚摺・梅室秋興「夕かぜは」



一枚摺・三石七回忌追善「梅にわれ」



松本幸四郎・市川高麗蔵口上



一枚摺・羅風夏興「螢火の」



書架と学習スペース



1階ラウンジ



創造の丘

新館の紹介

附属図書館は2026年秋頃、新館が開館します。

新館は約25万冊を収蔵可能な規模を有し、学修・研究を支える中核的な施設として整備されています。館内には、水源地を一望できる開放感あふれる窓際席をはじめ、集中して学修できる個人学習席、グループでの話し合いや共同作業に適したグループ学習室など、利用目的に応じた多様な座席を配置しています。その日の学修内容や気分に応じた場所で、効果的に学びを深めることができます。

さらに、1階ラウンジでは飲食が可能となっており、学修の合間にリフレッシュできる空間となっています。

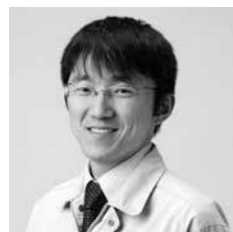


外観

情報処理研究センターは、コンピュータや通信ネットワークなどから構成される尾道市立大学の情報システムを効率的に管理・運営し、教育・研究・教務の情報技術による高度化を推進するための機関です。

2023年10月の情報システム更改では、ノートパソコンやスマートフォンを携行する学生のため、キャンパス内のWi-Fi拡充、メールシステム等のセキュリティ強化、利便性向上を図りました。

また、進化し続ける情報社会に対応したセンターを目指しており、地域貢献と研究活動の推進などを目的として、コンピュータ公開講座や情報科学研究会なども開催しています。



情報処理研究センター
田上 憲二

設備・サービス一覧

●情報設備

サーバ：4台(仮想サーバ：37台)
貸出用ノートPC：Windows PC、MacBook
パソコン対応教室：中講義室(225座席)1、小講義室(120座席)2

●提供サービス

SINETへの接続による高速インターネット通信の提供
ポータルサイト(授業情報等の連絡、履修登録など)
学生証(ICカード)による、図書、オンデマンド印刷システムの利用
Wi-Fi(学内115箇所)にアクセスポイントを設置
オンデマンド印刷(10台設置)、クラウドメールサービス
学外からのVPN接続、Microsoft Office、ウイルス対策ソフトの配布
情報システム利用マニュアルの提供

●人的サービス等

専門性に優れた上級生・大学院生をシステム運用補助員に採用し、学生の質問等にすぐ答えられる体制をとっています。時間外でも、平日は翠明館の自習室を午後10時まで開放し、予習・復習の便宜を図っています(休日(土日祝)は午後8時30分まで利用できます)。

2025年度 情報処理研究センター主催行事

●コンピュータ公開講座

2025年8月18日 10:00～14:30
「写真でつづる、わたしのとくべつな一年」
西原 美彩(美術学科 講師)

●情報科学研究会

2025年12月5日 13:10～14:40
「人工知能の基本ー人工知能は魔法の箱じゃないよ!ー」
秋川 元宏(経済情報学科 講師)

●情報セキュリティ講習会

2025年12月18日 14:50～16:20
学生向け：「情報モラル・日常のセキュリティ編」
南郷 毅(経済情報学部 教授)
2026年1月8日 14:50～16:20
教職員向け：「日常のセキュリティ編」
南郷 毅(経済情報学科 教授)



第36回 情報科学研究会(2025年度)



教職支援センターは、教員を目指す学生を支援する機関です。運営委員を担当する各学科教員が教職課程全般のガイダンス、授業の履修方法や計画の指導、介護等体験や教育実習等の指導を行っています。また、例えば「自分は教員に向いているのだろうか」というような相談にも応じています。キャリアサポートセンターとの連携も行っており、公立学校の教員採用試験、私立学校教員公募、臨時的任用教員や非常勤講師の募集情報等の発信も行っています。

C棟1階にある教職支援センターのブースでは、教科書、教育新聞、教員採用試験情報誌、参考書、問題集等を整えています。教員採用試験対策に各自が取り組めるようにオンライン学修教材も導入しています。模擬授業や教育実習授業で教材作成が必要となったときに活用できる用具も取り揃えています。

本学で取得することのできる教員免許状は以下の通りです。

[経済情報学部 経済情報学科]

高等学校教諭一種免許状(情報)

高等学校教諭一種免許状(商業)

[芸術文化学部 日本文学科]

中学校教諭一種免許状(国語)

高等学校教諭一種免許状(国語)

[芸術文化学部 美術学科]

中学校教諭一種免許状(美術)

高等学校教諭一種免許状(美術)

*なお、商業、国語、美術については、上記の一種免許状を取得した上で、本学大学院各研究科を修了し、所定の単位を修得した場合はそれぞれに応じた専修免許状を取得することができます。



紀要表紙デザイン：宇佐美若菜さん
芸術文化学部美術学科デザインコース卒業生



国際交流センターは尾道市立大学における国際化を推進するため2011年に創設され、教職員13名で運営されています。主な業務は、学生の海外語学研修参加に対するサポート、外国人留学生の迎え入れや海外協定校との共同研究体制の構築などです。

また、海外の大学との学術交流も意欲的に行っています。これまでに、中国、台湾、ベトナムの大学計11校と交流協定を締結しました。

さらに、日本人学生と外国人留学生が相互に友情を育むための様々な異文化交流イベントの企画・運営や、外国人留学生が日本の生活習慣や環境に順応し、充実した留学生生活を営めるよう、授業や日常生活に対する支援をしています。

このように様々な活動を通して、尾道市立大学をグローバル志向の学生が在籍する国際的教育機関に発展させたいと思っています。



国際交流センター

KOBAYASHI Dawn

担当科目：「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」「海外語学実践Ⅰ」「海外語学実践Ⅱ」

研究題目：教育心理学、自己効力感、コミュニケーション能力、パフォーマンスを用いた英語学習

指導目標：授業で学生がコミュニケーション能力を身に付け、留学や国際的な活動に関心を持つことを目標としています。



国際交流センター

KLOEPFER Thomas

担当科目：「総合英語Ⅰ」「総合英語Ⅱ」

研究題目：環境経済学

指導目標：今後社会に出る際に、英語でのコミュニケーションが役立つことを知ってもらい、積極的に学が楽しさを感じてもらえるような授業を志しています。

To future and current international students, welcome to Onomichi City University! International Office provides services such as helping with study abroad procedures and advising international students about study and life in Japan. Please take advantage of these services. Also, we hold various cultural activities and events throughout the year to promote cultural exchange between international students, Japanese students, and the local community.

We are looking forward to meeting you!

希望交換留学或已派遣到本校の各位留学生，尾道市立大学欢迎你！本中心负责提供办理有关留学的各种手续，及在日学习生活的指导和咨询等服务。请大家积极利用。此外，每年在校内外举办各种各样的文化交流活动，促进留学生与日本学生，本地区居民的文化交流。期待大家积极参与！

国際交流センター

辰己 真由美



海外留学体験談

ベトナム貿易大学(FTU) 長期交換留学

経済情報学科 4年

町頭 俊哉

私はベトナム・ハノイにある貿易大学(FTU)に2025年3月から長期留学をしました。昔から海外に興味があり、旅行や短期留学を通じて「実際に海外で生活してみたい」という夢を持つようになりました。そこで、東南アジア諸国の中でも急成長を遂げているベトナムで学び、その変化を肌で感じたいと思い、留学を決意しました。

FTUには、私を含め約50名の留学生在籍しており、定期的にイベントも開催されています。授業はすべて英語で行われ、プレゼンテーションやディスカッションも多く、最初は慣れずに苦労しましたが、現地の学生のサポートのおかげで少しずつ自信を持てるようになりました。FTUの学生に限らず、ベトナムの人々はとても親切で、日本のアニメや文化に興味を持っている人が多いです。休日には現地の学生や他の留学生と一緒に食事や観光を楽しんでいます。私の住んでいるアパートは学校から徒歩5分ほどで、とても清潔で快適です。近くにはKim MaやLinh Langといった日本人街があり、日本食や日本製品も手に入りやすく、生活に困ることはほとんどありません。

この留学を通じて、行動力と柔軟に対応する力が身につきました。また、日本の環境や制度の整備がいかに恵まれているかを改めて実感し、「当たり前」に感謝する気持ちが芽生えました。私は、行動した人しか得られない経験があると考えています。最初は不安もありましたが、一歩を踏み出したことで、数えきれないほどの学びと出会いがありました。知らない世界や考え方に触れることで視野も大きく広がりました。

もし留学に興味を持っている方がいたら、ぜひ勇気を出して一歩を踏み出してみてください。きっと新しい世界が広がります。



国際交流イベント



台湾 国立嘉義大学との合同カンファレンス

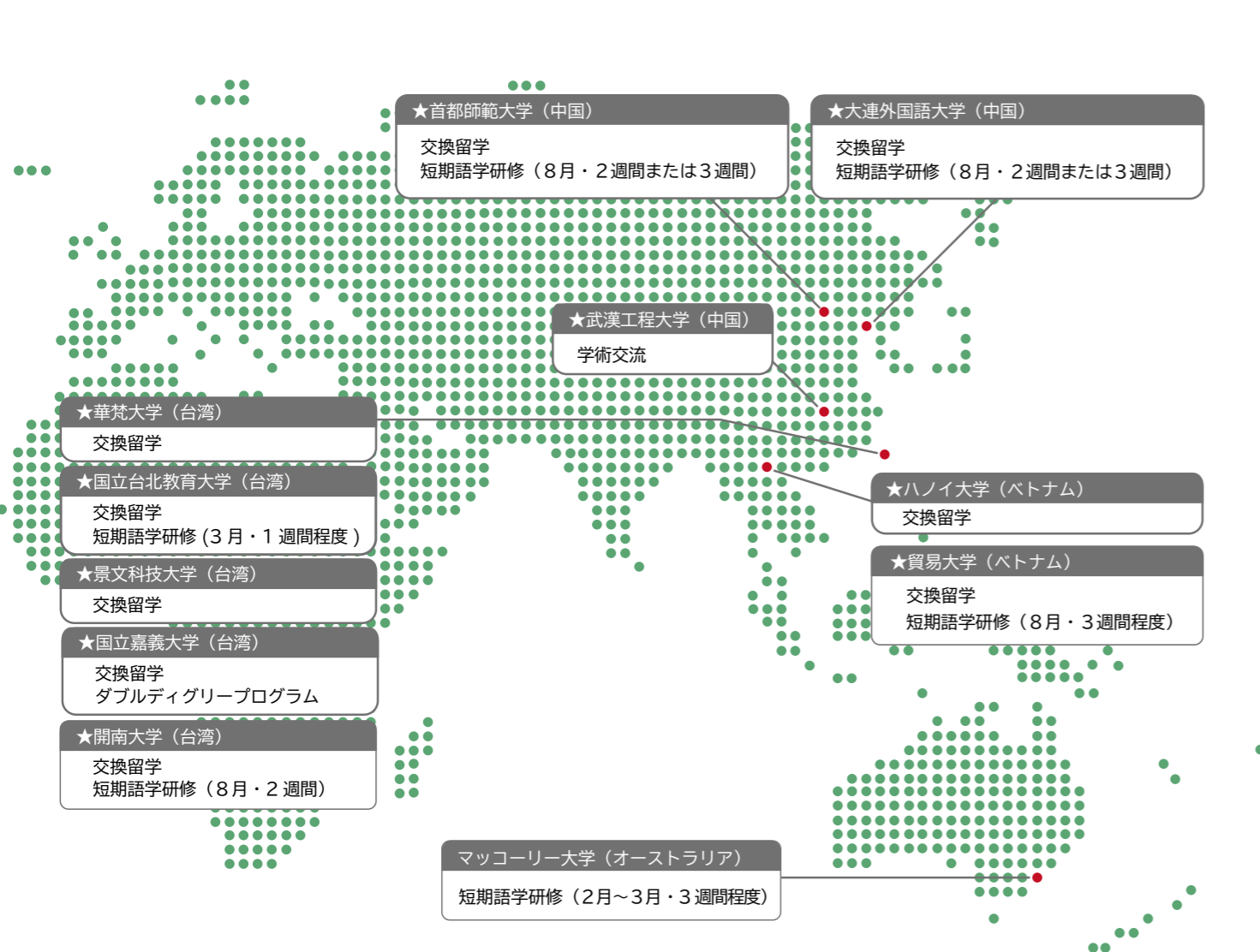


国際交流センター講演会



留学生歓迎会

One day trip
(国際交流のための1日研修)卒業予定留学生による報告会
及び地域の方々との交流会



★・・・海外協定校

★ポートランド州立大学
短期語学研修（8月中旬～9月上旬・3週間程度）

協定校等における海外短期語学研修

本学では、協定を結んでいる海外の大学をはじめとして、短期の語学研修に参加できる制度を用意しています。渡航に必要な知識や理解を深めるため引率教員と事前学習を実施し、帰国後には事後学習や報告会を開催するなど、安全で実りのある研修になるようサポート体制を充実させています。また、本学後援会が研修費用の助成を行う制度も用意しています。

訪問先での研修プログラムは大学ごとに異なりますが、語学の学習のほか、文化体験や地元企業への訪問、さらには休日に景勝地を訪れるツアーが用意されている等、どのプログラムも工夫が凝らされています。外国語の習得のみを目的としたものではなく、ホストファミリーや現地の学生、市民などの様々な人々との交流を通じ、国際的な視野を持つグローバルな人材育成を目指した内容となっているのが特徴です。

尾道市立大学では教職員が連携して学生のみなさんのサポートにあたります。連携の拠点となるのが、医務室と学生相談室です。医務室では心身の健康をサポートする健康相談と障がいがある学生や困りごとがある学生の修学サポートの活動を行っています。充実した学生生活が送れるよう、学生のみなさんを応援しています。

医務室 専門スタッフ(看護師・障がい学生支援コーディネーター)が在室しています。

●健康相談

病気やケガ、様々な不安やストレスについてお話を伺います。



●修学サポート

障がいがある学生、困りごとがある学生の大学生活をサポートします。



学生相談室

心理カウンセラー(公認心理師・臨床心理士)によるカウンセリングを行います。学生本人やご家族からの相談に応じます。



関係学生団体「おのだいピアサポ」が学生の視点でピア・サポート活動を展開しています。



新入生対象履修相談会



おのまる

5つの柱による進路支援

●キャリアサポートセンター

キャリアサポートセンターでは、求人情報、企業情報、企業説明会の情報など「就職活動に関する情報」や、進学や資格取得など「進路全般に関する情報」を提供しています。学生の進路相談に応じるスタッフが常駐し、進路相談のほかに履歴書やエントリーシートの添削、面接指導など進路に関することなら何でも相談に応じています。また、キャリアカウンセラーによるカウンセリングも定期的実施しています。

●キャリアサポートセンター運営委員会

キャリアサポートセンター運営委員会では、定期的に就職ガイダンス、セミナーを開催することにより、学生の就職に対する意識の高揚を図るとともに、円滑な就職活動を行うことができるよう支援しています。また、地元企業ガイダンスや学内個別企業説明会、業界研究会を開催し、学生の就職活動がより具体的になるよう支援をしています。

●課外講座による実践的指導

全学年を対象に課外講座を開講することにより、学生の進路選択、就職活動の一助となるようなサポートを行っています。

・公務員受験対策講座（2・3年生向け）

「教養分野コース」、「専門分野コース」（行政系）をラインナップし、幅広い採用試験に対応できる講座となっています。

・簿記検定対策講座

日本商工会議所簿記検定合格の支援をしています。

・情報技術資格対策講座

MOS・Word、MOS・Excel、の講座を開講しています。

●教職員による積極支援

全教職員が、チューター制をはじめとする少人数教育によりきめ細やかな指導を行うとともに、求人開拓や関係強化のための企業訪問を実施して、積極的に支援しています。

●キャリア教育

授業科目として、1年生向け「キャリア形成入門」と、2～4年生向け「キャリア形成演習」「ビジネスキャリア入門」を開講しています。「キャリア形成入門」では、卒業後の社会的自立に向けて、自分らしい生き方や働き方を考え、主体的に取り組む姿勢を身につけます。「キャリア形成演習」では、実際の企業・団体での経営課題にチームで取り組み、プレゼンテーション資料を作成し発表することで、就業力や社会人基礎力を身につけます。「ビジネスキャリア入門」では、学生が社会や職業に対する理解を深めることを目的として、企業研究をはじめとする実践的なグループワークと、外部講師による働き方に関する講話を通じた学びを提供します。これにより、職業観や就業意識の形成を促し、将来の職業選択に資する基盤を築くことを目指します。



キャリアサポートセンター 講師

八木 力俊

担当科目：「キャリア形成入門」、「キャリア形成演習」、「ビジネスキャリア入門」

研究テーマ：「組織開発」、「インターナル・マーケティング」、「キャリア形成」

進路支援の取り組み

進路選択は学生の人生に大きな影響を与える重要なことです。

キャリアサポートセンターでは、学生がやりたい仕事に就き、いかに自己実現できるかを基本とし、一人一人に合わせた適切な進路指導をします。近年、就労意識が低いままで入社したり、入社後にミスマッチが発覚したり、若者の早期離職が社会問題となっています。本学では社会人基礎力を育成するカリキュラムを取り込んだガイダンスやセミナーを開催し、就職活動を円滑に行うための知識や技術の習得だけでなく、卒業後も自己の資質を向上させ職業的に自立が図れる能力の育成をしています。教職員が一体となり、就職相談、求人開拓、情報提供を通して学生の進路選択を万全のサポート体制で支援していきます。



①インターンシップ

受入先企業と本学の合意で進める独自のインターンシップを行っています。2025年度はのべ63名の学生が参加し、実習を無事終えることができました。三省合意で定義された内容に基づく就業体験を推奨し、企業との共同による「パーパス（企業の存在価値）を中心とした内的キャリア（やりがい）のマッチングを図るインターンシップ」を目指して、プログラム内容の充実を図ってまいります。また、事前学習、事後学習、報告会を組み合わせた通年のプログラムを通して、学生の専門研究分野に関する認識を高めるだけでなく、職業観・職業意識を育成し、適切な職業選択を促進します。

②学内企業説明会

5月に業界研究会をオンラインで開催しました。オンラインならではの特性を生かして、幅広い地域・業界の企業に参加いただいています。

この業界研究会は、本学学生にとって企業の採用担当者との貴重な面談の機会となっており、就職活動への意欲醸成につながっています。また地元の企業を招いた対面形式での業界研究会も開催し、幅広く情報を収集できる機会を学生に提供しています。

③就職ガイダンス・業界セミナー・各種実践講座

主に3年生を対象に「就職ガイダンス」を開講しています。就職活動を円滑に行うための知識や技術の習得だけでなく、社会人基礎力を育成できるカリキュラムとなっており、卒業後も自己の資質を向上させ職業的に自立を図れる能力を育成する内容となっています。また、2年生、3年生を対象に企業の担当者を招いて、学内業界セミナーを開催しています。学生の職業観や勤労観の育成を図り、学生が産業や職業に関する知識や理解を深めるよい機会となっています。その他実践力を身に付けるためにSPI（筆記試験）対策講座や自己分析・エントリーシート作成講座、面接対策講座などを実施しています。

④就職・進路相談

キャリアサポートセンター職員や専門のキャリアカウンセラーによる進路相談をはじめ、エントリーシートや履歴書添削、面接練習を含む個別相談・指導を行っています。

⑤市内企業との連携

尾道市内の企業と学生との情報交換を目的として、市内企業を対象としたイベントやガイダンスを開催しています。3年生のみならず全学年を対象とし、学生に地元企業を紹介するだけの場ではなく、様々な業種・職種などを深く学習していく業界・企業研究という側面も持たせています。

就職状況

2025年度卒業生の就職率(就職希望者のうち、就職し得たもの)は98.3%(昨年度98.5%)、内定者数は281名(昨年度269名)となっています。

学科別の状況は、次のようになっています。

	卒業生	就職希望者	就職者	就職率
経済情報学科	229	207	203	98.1%(前年度99.0%)
日本文学科	54	49	49	100.0%(前年度97.9%)
美術学科	53	30	29	96.7%(前年度95.8%)
合計	336	286	281	98.3%(前年度98.5%)

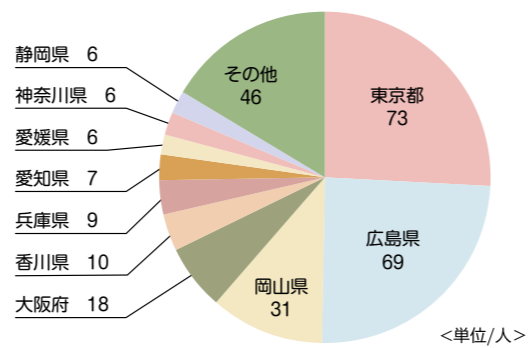
(1) 地域別動向

就職先を地域別にみると、127名が広島県・岡山県等の中国四国地域へ就職をしており、全体の45.2%(昨年度42.8%)を占めています。また、大都市圏への就職者数については東京都73名(昨年度62名)、大阪府18名(昨年度18名)と、全体の32.4%(昨年度29.7%)を占めています。これは、尾道市を含む中国・四国各地域の発展に貢献できる人材を輩出するだけでなく、大都市圏でも活躍できる人材を育成するという就職支援の方針として取り組んできた結果です。

経済情報学科 98.1%

日本文学科 100.0%

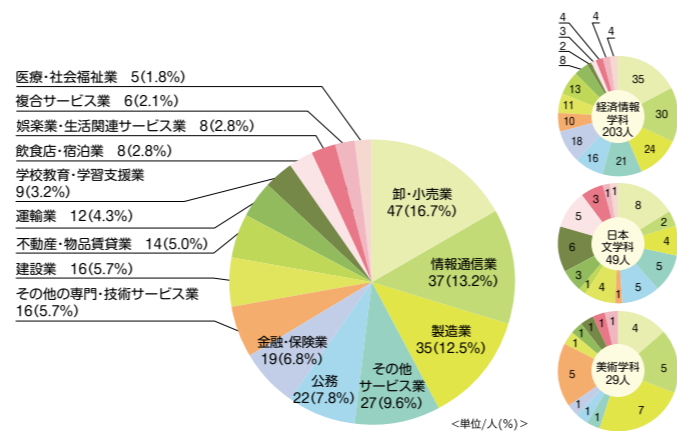
美術学科 96.7%



(2) 業種別動向

業種別の就職先では、卸・小売業(16.7%)、情報通信業(13.2%)、製造業(12.5%)、その他のサービス業(9.6%)で5割以上を占めています。

学科別にみると、経済情報学科は、卸・小売業、情報通信業、製造業、その他のサービス業が上位を占めています。日本文学科は、卸・小売業、学校教育・学習支援業の他、公務、飲食店・宿泊業やその他のサービス業が上位を占めています。美術学科は、製造業の他、グラフィックデザイナーなど自らの専門性を活かした分野への進出が見られます。



主な就職先 (過去3年間の就職先から抜粋)

〔株式会社〕等省略、順不同

経済情報学部 経済情報学科

- 建設業 積水ハウス 一条工務店 穴吹工務店 大和ハウス工業 パナソニックホームズ 住友林業ホームエンジニアリング 三和鉄構建設 ハートフルホーム福山
- 製造業 シャープ アイリスオーヤマ コロナ 三菱ビルソリューションズ パナソニックソーラーシステム製造 三井金属鉱業 プレス工業 黒崎播磨 サンワサプライ 山田養蜂場 ダイキョーニシカワ ホシザキ リョービ シャンソニ化粧品 在原実業 補助工業 三協立山 シギャ精機製作所 指月電機製作所 上村工業 荻野工業 丸善製薬 アンデルセン 桐井製作所
- 電気・ガス・熱供給・水道業 広島ガス 中電工 四電工 TOKAIホールディングス
- 情報通信業 大塚商会 キャノンシステムアンドサポート NTTデータ中国 NTTデータ関西 NTTデータ九州 日立ソリューションズ西日本 富士通Japanソリューションズ九州 富士通四国インフォテック JR西日本電気システム エネコム いすゞシステムサービス 両備システムズ ハイエレコン ネクストビジョン ソルコム ミウラ 鳥取県情報センター シーシーシー マーブル
- 運輸業 日本航空 西日本旅客鉄道 近畿日本鉄道 四国旅客鉄道 中部スカイサポート 中国バス 佐川グローバルロジスティクス 福山通運 シモハナ物流 尾道造船
- 卸・小売業 ニトリ 良品計画 青山商事 大創産業 ビックエス ホシザキ中国 ハローズ イズミ 西原商会 食協 ヤマエ久野 山崎金属 尾道ダイハツ販売 アマノ
- 金融・保険業 ゆうちょ銀行 第一生命保険 明治安田生命保険 オリエントコーポレーション JACCS 広島銀行 中国銀行 トホ銀行 山陰合同銀行 愛媛銀行 伊予銀行 阿波銀行 徳島大正銀行 百十四銀行 セブン銀行 広銀証券 香川証券 しまなみ信用金庫 広島信用金庫 呉信用金庫 広島県信用組合 広島県中小企業共済協同組合 三井住友トラスト不動産 長谷工リアルエステート 穴吹興産 大和リース
- 不動産・物品賃貸業 日本年金機構 KPMG税理士法人 山口フィナンシャルグループ アインホールディングス
- 専門・技術サービス業 飲食サービス業・宿泊業・生活関連サービス業・娯楽 星野リゾート・マネジメント アパホテル レイANAクラウンプラザホテル岡山 リゾートトラスト SONPOケア ノジマ ヒマラヤ TBCグループ ミュゼプラチナム
- 教育・学習支援業 四谷大塚 福山大学 岐阜県教育委員会(情報臨床)
- 医療・福祉 日本赤十字社 日本赤十字社広島支部 広島市社会福祉事業団
- 複合サービス業 三原商工会議所 尾道市農業協同組合 福山市農業協同組合 三原市農業協同組合 晴れの国岡山農業協同組合 山口県農業協同組合 JA淡路日の出 JA大分
- その他のサービス業 総合警備保障 エスプール メンバーズ マツダエース 山陽新聞社 笠岡放送
- 公務 国税専門官 愛知労働局 尾道市 広島市 岡山市 庄原市 浅口市 赤磐市 出雲市 大田市 倉吉市 山口市 岩国市 高松市 美馬市 新居浜市 京都府 静岡県 富山県 香川県 愛媛県 加賀市 京都市 福知山市 松阪市 淡路市 大淀町 和気町 土庄町 岡崎の島町 航空自衛隊 広島県警 四国中央市消防本部 多度津町消防本部 奈良先端科学技術大学院大学 尾道市立大学大学院

芸術文化学部 日本文学科

- 建設業 ナカタ・マックコーポレーション オールハウス 蛭川造園土木
- 製造業 広島化成 協同プレス トップグラフィックコミュニケーションズ グラフィック 日宝総合製本
- 情報通信業 サメディアアジョン CIC 尚文出版 徳島新聞社 フラッグ 日本ナレッジ 啓隆社
- 運輸業 岡山土地倉庫 セとうちクルーズ 明星観光バス しずてつジャストライン
- 卸・小売業 関包スチール タイドー フジデン メガネット やしまグループ 福井亀之助商店 セラテクノ CAN西日本 イタミアート トウショク トーハン グッディ カインズ プレハまわり
- 金融・保険業 広島信用金庫 しまなみ信用金庫 第一生命保険 明治安田生命保険
- 不動産・物品賃貸業 ニッポンレンタカーアーバンネット レント 良和ハウス
- 専門・技術サービス業 山口フィナンシャルグループ アイ・ケイ・ケイホールディングス あいはら 愛歯
- 飲食サービス業・宿泊業・生活関連サービス業・娯楽 共立メンテナンス ワタキューセイモア 中の坊 サンマルクカフェ ティア 城島高原オペレーションズ 錦水館 ホテルニューアワジ あきんどスシロー TMES
- 教育・学習支援業 公立中学校教員(広島県・市/岡山市/愛媛県/群馬県/福岡市) 公立高等学校教員(広島県・市) 私立学校教員(英真学園 英真学園高等学校/尾道学園 尾道中・高等学校/明星学園 浦和学院高等学校/ブロードメディア) 学校事務(琉球大学)
- 医療・福祉 大阪市民病院機構 オールケア・グループ
- 複合サービス業 広島市農業協同組合 広島中央保険生活協同組合
- その他のサービス業 社会保険診療報酬支払基金 全日警 ライフスタッフィング LAVA International ふくやま芸術文化財団 日本年金機構 アドバンスジャパン 総合オリコミ社
- 公務 尾道市 福山市 世羅町 熊野町 松山市(司書) 甲州市 なら歴史芸術文化村 広島県 広島県警察 広島県(警察事務) 岡山県 京都府(学校事務) 浅口市

芸術文化学部 美術学科

- 建設業 一条工務店 オープンハウス・アーキテクト
- 製造業 あじかん 赤穂化成 タカラトミー 大阪印刷 かね徳 ヒロコンフーズ 内海造船 ウエル・ユーカー 俳優座劇場 ダイワホーサン タミヤ 土屋製作用所 Tsデザイン 壽屋
- 情報通信業 パルテス イートレックライズ マーケティングプランニング スピッカート アバンテック グラйд エイトビット visible 東邦システムサイエンス アドブレン Happy Elements STUDIO4C
- 運輸業 肥薩おれんじ鉄道 日の丸交通
- 卸・小売業 宮地電機 ハローズ キャン フジカワ マックスパリュ東海 アインファーマシーズ・アインホールディングス はせがわ さが美グループホールディングス スノウ広島本通り店 ヨンドシーホールディングス エディオン
- 金融・保険業 高知県信用農業協同組合連合会
- 不動産・物品賃貸業 ティーカービー
- 専門・技術サービス業 キタムラ 中国四国博報堂 デジマグラフ TCD キーワードマーケティング チトセアート エムエヌシー フェイス コーセイカン 富士エンジニアリングサービス アンツデザイン 尾道市立大学美術館(臨時)
- 飲食サービス業・宿泊業・生活関連サービス業・娯楽 C-United ローズガーデン 日本テーマパーク開発
- 教育・学習支援業 岡山県内公立中学校 大分県内公立中学校 香川県内公立中学校 香川県教育委員会(常勤講師) 東林館高等学校 愛媛県教育委員会(中学美術)
- 複合サービス業 生活クラブ生活協同組合・神奈川
- 医療・福祉 創樹会
- その他のサービス業 マーキュリー 総合オリコミ社
- 公務 陸上自衛隊 那賀町



岡山市役所

経済情報学科
難波 大夢

出身校：
岡山県立総社南高等学校

私は、大学3年生の5月頃から公務員講座に通い、筆記試験の対策を始めました。公務員試験は多くの科目があり、広い範囲から問題が出題されるため、時間を確保しコツコツ積み重ねて勉強することが大切だと思います。できるだけ勉強しない日を作らずに、「1日10分でも勉強しよう」と意識していました。また、家で勉強に集中できないときは、大学の自習室を利用し環境を変えながらモチベーションを維持していました。

公務員試験は一次の筆記試験に目が向きがちですが、最終合格するにはそれ以降の面接試験も特に重要です。地方公務員、国家公務員ともに面接の比重が高くなってきており、人物重視の試験へと変化しています。大学生活の中でアルバイト、サークル、ゼミ、ボランティアなどの様々な経験することが、面接で話せるエピソードづくりにつながると思います。

最後に、公務員試験は周りの人たちが内定をもらい終えた後に本格化するの、焦りやストレスを感じることもありましたが、趣味の時間を作るなど、試験対策以外の時間も大切に、オンとオフの切り替えをしながら頑張ってください。



株式会社NTT データ中国

経済情報学科
渡邊 裕哉

出身校：
広島県立府中高等学校

私は「行動すること」「逃げないこと」の二点を常に自らの指針とし、就職活動を行いました。尾道市立大学では、2年生の後期から本格的な就職支援が行われますが、実際には、「まだ自由な時間を楽しみたい」という甘えが勝り、準備を後回しにしていました。

意識が変わったのは、3年生の夏季休暇です。何もしていない現状に強く危機感を抱きました。そこで、関心のあったIT業界を志望軸に定め、インターンシップや会社説明会を無理やりにでもスケジュールに詰め込みました。強制的に活動することで、着実に前進を実感できました。この経験のおかげで、多くの場数を踏み、面接でも自分の言葉で自然と対話できるようになりました。

また、準備過程で最も苦労したのは「学生時代に力を入れたこと」の項目です。学業成績は維持していましたが、特筆すべきエピソードが欠けていると感じていました。そこで私は、10月に、2か月で「基本情報技術者試験」を受験する計画を立てました。もし落ちればアピール材料がないまま選考突入となる「背水の陣」でしたが、このプレッシャーが原動力となり、集中して学習し合格することができました。

後輩の皆さんには、とにかく逃げずに「行動」を起こし、なんでも良いので自分が誇れる武器を身につけてほしいと思います。それが必ず、自分自身を助けてくれるはずです。



広島県内公立中学校

日本文学科
竹田 倅

出身校：
大分県立佐伯鶴城高等学校

私は、大学3年生頃まで、民間企業と教職のどちらの道に進むのか迷っていました。就職活動は、自分自身と向き合う良い機会になったと感じています。本当に自分がしたいことは何か、何のために頑張りたいと思えるのだろうかと考えた末、教職の道を選びました。

私が教員として合格できたのは、日々の大学生活の中で多くの学びや気づきを与えてくださった先生方、同じ教職課程で学ぶ友人、そして教育実習での経験のおかげです。どのような教師になりたいのか、どのような学級をつくりたいのか。二次試験の面接では、これまでの授業や実習を通して考えてきたことを、自分の言葉で伝えました。就職活動を通して、私は教師としてどのように働いていきたいのかを、改めて深く考えることができました。

最後に、これから就職活動を行う方々に伝えたいことがあります。振り返ってみると、大学での学びを、もっと大きなものにできなかったのではないかと悔やむことが多くあります。授業を受ける姿勢や日常生活、さまざまな人との関わりなど、一つひとつの小さな積み重ねが大切なのだと思います。教職に進むかどうかは関係なく、日々の時間を大切にしていくことが、就職活動で自分と向き合う際の材料となり、これから頑張ることの糧になるのだと実感しました。

就職活動を通して、私がこれから目指す教員像として、「生徒に損をさせない授業を行うこと」「生徒が社会で強く生きていけるような指導を行うこと」を大切にしたいと考えようになりました。私自身も、これからの一日一日を大切にしながら、努力を重ねていきたいと思っています。



株式会社フェイス

美術学科
玉田 真里夏

出身校：
愛媛県立今治西高等学校

思い返してみると私の就職活動は焦ってばかりでした。作品制作中、「就活がきつい」「なかなか受からない」といった先輩方の話を耳にし、優秀な先輩方でさえ苦戦しているのなら私はどうなるのだろうかという強い不安と絶望を感じたことを覚えています。そんな不安の中から、私の就職活動は始まりました。

私が大切にしていたのは、早めの行動です。まずデザイナーとして内定をいただいていた先輩に質問をし、情報収集から始めました。企業の探し方や面接内容、就職活動スケジュール等を教えてもらいました。それから、3年生後期の地域課題制作と並行して作品整理や撮影、ポートフォリオのレイアウト検討を進めていきました。企業説明会にも積極的に参加し、企業研究を進める中で「制作のプロセス全体に関われること」「幅広い媒体の制作ができること」に魅力を感じていると気づき、その軸を大切に企業探しを行いました。

選考で意識していたのは完璧を目指さないことです。完璧な回答をしようとすると過度に緊張してしまい、うまく話せないことが多かったからです。暗記した回答ではなく、自分の言葉で簡潔に回答することを意識し、にこやかな態度で臨みました。

就職活動は不安が大いと思いますが、行動することで、自分がやりたい事やすべきことが見えてきます。頼れる人にはしっかり頼り、息抜きもしながら、皆さんが納得のできる選択ができることを願っています。

21世紀と共に歩む尾道市立大学は、時代の要請に対応し、物事により創造的に立ち向かえる優れた創造性や判断力、それに裏付けられた専門的知識・能力や高い見識などの育成に特化した、実践的な教育を行う大学院修士課程を設置しました。学部教育で培われた専門的素養のある人材を、よりレベルを高めた学修と研究への取組により、高度の能力を有する専門的職業人や研究者等へ鍛え上げると同時に、広く時代と地域の要請に応えられる人材を育成する研究拠点を目指します。

経済情報研究科 経済情報専攻 (修士課程)

入学定員 8名
修業年限 2年
学 位 修士(経済情報)

経済と企業活動のグローバル化と少子高齢化、さらに情報化社会の到来等により、学修しなければならない事柄の高度化、専門化や多岐化が進んでいます。一方では学際的な研究が必要であり、そのことが大学院教育に新しい課題を提供しています。まず、大学院経済情報研究科(修士課程)は、経済・経営・情報科学という本来は異なった3分野の連携による高度な専門教育を提供し、学際的な研究を可能にしています。しかも、地域企業の経営者・就業者、地域行政担当者、および商業科教員等の社会人のためのリカレント教育や、情報処理能力に優れた人材の養成や税理士志望者の受入れ等の要請にも応えることを目指しています。すなわち、学問的裏づけがあり、かつ実践的問題解決能力をも備えた人材の育成が、本研究科の教育の狙いとなっています。なお、資格取得等に関しては、修士学位取得者に対する教職課程専修免許状(商業)と、税理士試験における「修士学位による試験科目免除」制度があります。商業に関する教科の修得等、一定の基準を満たせば、資格取得が可能となっています。

日本文学研究科 日本文学専攻 (修士課程)

入学定員 6名
修業年限 2年
学 位 修士(日本文学)

日本文学研究科の教育目標は、日本語、日本文学、日本の芸術文化を深く理解し、その理解のもとに国際的な感覚を身につけ、異文化を共有できる人、また、そうした能力により、社会活動や文化活動に指導的役割を果たし、社会の発展に寄与する人材を育成することにあります。

具体的には、日本文学・日本語学・漢文学等に関する深い学識と高度な研究方法を修得し、豊かな人間性と高い倫理観をもち、本研究科で身につけた学識と研究能力を生かせる人です。

そのために、日本の文学と言語文化を総合的に捉える視点を養い、基幹科目として日本文学、日本語学、漢文学に関する深い学識と高度な研究方法を修得します。言語文化の探究と創造に取り組むため、専門科目として、日本古典文学、近代文学、日本語学に加え、周辺領域である、言語学、国語教育学、米文学、比較文学、地域文学、文芸創作の特論をおいています。より広範な社会との連携のなかで言語文化の探究と創造に取り組むために、語学実践、英語学、哲学・倫理学の特論を関連科目としておいています。

美術研究科 美術専攻 (修士課程)

絵画研究分野(日本画・油画)、デザイン研究分野
入学定員 12名
修業年限 2年
学 位 修士(美術)

美術研究科では持続する創作活動を行うことができるよう、学部と大学院修士課程とを合わせた6年間のカリキュラムを一貫化し、高度な創作能力を育成するための体系的な教育を行っています。

授業科目は、芸術に関する幅広い視野と識見を養うため芸術の理論・歴史等を教授し、実技と演習によって構成される研究分野開設科目と合わせて美術の理論と実践の有機的な連携を図っています。

絵画研究分野

日本画と油画に関する制作・研究を行います。

- ・日本画では古典作品の表現、技術および材料の理解と造形感覚を修得させ、各自の個性的な創作力の育成を図ります。
- ・油画では、創作活動の充実を図るため各自のテーマを踏まえ、独自の絵画表現を追究し、また必要となる技法や素材の研究を促します。

デザイン研究分野

広い視野と柔軟な観察力をもって多岐にわたるデザインの領域を理解できるように、6人の専門領域の指導教員から多様な価値観を学び、さらに外部講師による講義、演習を体験し、各自の研究を多角的な視点から考察し、研究します。

Production Onomichi City University Committee of public relations
Chief Editor FUJIKAWA Yoshikazu (Professor: Department of Japanese Literature)
Art Direction ITO Asako (Associate professor : Department of Art & Design)
Editorial Design ONO Tamaki (Professor: Department of Art & Design)
Editor ONO Tamaki (Professor: Department of Art & Design)
OKAMOTO Shunsuke
(Associate professor: Department of Economics, Management & Information Science)
MAESAKO Sanae (Clerical Staff: Planning & Public Relations section)
MURAKAMI Norihiko (Clerical Staff: Planning & Public Relations section)

Campusmap Design TSUTSUI Yuna (Graduate student, Art & Design course)
Accessmap Design FUJIHARA Saaya (Student, Department of Art & Design)
Print ART PRINTING co., ltd

©Onomichi City University 2026

尾道市立大学



久山田水源地

久山田町

尾道市立大学

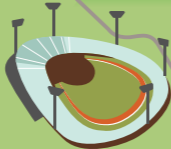
〒722-8506 広島県尾道市久山田町1600番地2
TEL: 0848-22-8311 FAX: 0848-22-5460
E-mail: jimukyok@onomichi-u.ac.jp

交通アクセス

- ・ JR山陽本線「尾道駅」バスターミナル3番のりばより
「尾道市立大学行」または「陽光台」
バスで約30~40分
「尾道市立大学」下車
- ・ JR山陽新幹線「新尾道駅」バスターミナル3番のりばより
「尾道市立大学行」または「陽光台」
バスで約30分
「尾道市立大学」下車

至広島

こぞかなんくスポーツパークびんご



至尾道 IC

新尾道駅

尾道市立大学 周辺マップ

around map of Onomichi City University

門田トンネル

門田町

平原 IC

平原

千光寺頂上展望台

千光寺

西園寺

MOU

尾道市立大学美術館

尾道大橋 IC

天寧寺

尾道市立美術館

なかた美術館

184

持光寺

尾道駅

イオン

吉浦町

U2

尾道市役所モニュメント



至福山西 IC

至福山

向島

沿革

1946年	3月	尾道市立女子専門学校設置許可
1950年	3月	学制改革により、尾道短期大学に改称
1998年	3月	尾道大学基本計画(案)
1998年	10月	尾道大学設置準備委員会の発足
2000年	12月	尾道大学設置認可
2001年	4月	尾道大学開学
2005年	4月	尾道大学大学院設置
2012年	4月	公立大学法人化を契機に「尾道市立大学」へ名称変更

尾道市立大学を設置する尾道市は、

千年を越える社寺に見られるように、

古くから瀬戸内の要衝として経済的にも発展し、

すぐれた芸術文化の伝統ある都市です。

半世紀余り前、まだ高等教育機関が少なかった時期に、

いち早く市立の女子専門学校を創設し、

それが学校制度の改革ですぐに短期大学に転換しました。

2001年4月、時代の要請に対応して短期大学を改組転換し、

四年制大学を開学しました。

さらに、2005年4月に、大学院修士課程を設置しました。

2012年4月には、公立大学法人化し、

大学名称を尾道市立大学に変更しました。

<https://www.onomichi-u.ac.jp/>